

72-179

08  
4  
~~2009~~

法令全書

閣令

○閣令第一號

批馬臨時貸下規程中左ノ通改正ス

明治四十年一月二十八日

第六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

借受者ハ明治三十九年ニ於テ一頭四十圓明治四十年

ヲ四月及十月ノ二回ニ納付スヘシ

第三號書式中產駒ノ部第五年 明治 年ノ欄ノ下ニ

第六年 明治 年

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

内閣總理大臣侯爵西園寺公望



明治四十年一月 閣令 第一號

〔参照〕

農商務省令第二號 競馬臨時貸下規程(明治三十九年一月八日)抄録  
第六條 借受者ハ明治三十九年ヨリ肉ヲ五箇年間毎年一頭金四拾圓ノ貸下料ヲ其ノ年四月又ハ四月及十月ノ二回ニ納付ス  
ハシ

○閣令第二號

明治三十九年閣令第十號中左ノ通改正ス

明治四十年三月十五日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

第二條ノ二 競馬開催ヲ目的トスル法人カ設立ノ許可ヲ得タル日ヨリ滿一箇年内ニ設備ヲ完成セ

サルトキハ主務官廳ハ設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第六條 競馬開催ヲ目的トスル法人カ馬政長官ノ命令ヲ遵守セサルトキハ主務官廳ハ設立ノ許可  
ヲ取消スコトアルヘシ

○閣令第三號

明ケ三歳又ハ明ケ四歳ノ牡馬ニシテ地方長官ノ指定シタル方法ニ依リ去勢ヲ行ヒタル馬匹ノ所有  
者ニハ每一頭獎勵金四圓ヲ下付スヘシ

前項馬匹ニシテ去勢施行ノ爲斃死シ又ハ廢疾トナリタルトキハ其ノ所有者ニ金五十圓以内ノ損失  
手當ヲ下付スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年農商務省令第十三號ハ之ヲ廢止ス

明治四十年三月三十一日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

〔参照〕

明治三十九年四月二日農商務省令第十三號ハ本號ト同伴ナリ

○閣令第四號  
種牡馬検査法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十年四月十三日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

第二條ノ二 前條ノ検査期日經過後外國ヨリ輸入シ若ハ他府縣ヨリ牽入シタル牡馬又ハ疾病ニ罹リ検査期日ニ検査ヲ受ケサル牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ馬政長官ノ許可ヲ得テ種馬所ニ牽付ケ臨時検査ヲ受クルコトヲ得但シ種馬所ノ設ナキ地方ニ在リテハ地方廳ニ牽付ケ検査ヲ受クルコトヲ得

前項種馬所ニ於ケル検査ハ馬政長官ノ命シタル検査委員、地方廳ニ於ケル検査ハ地方長官ノ命シタル検査委員之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

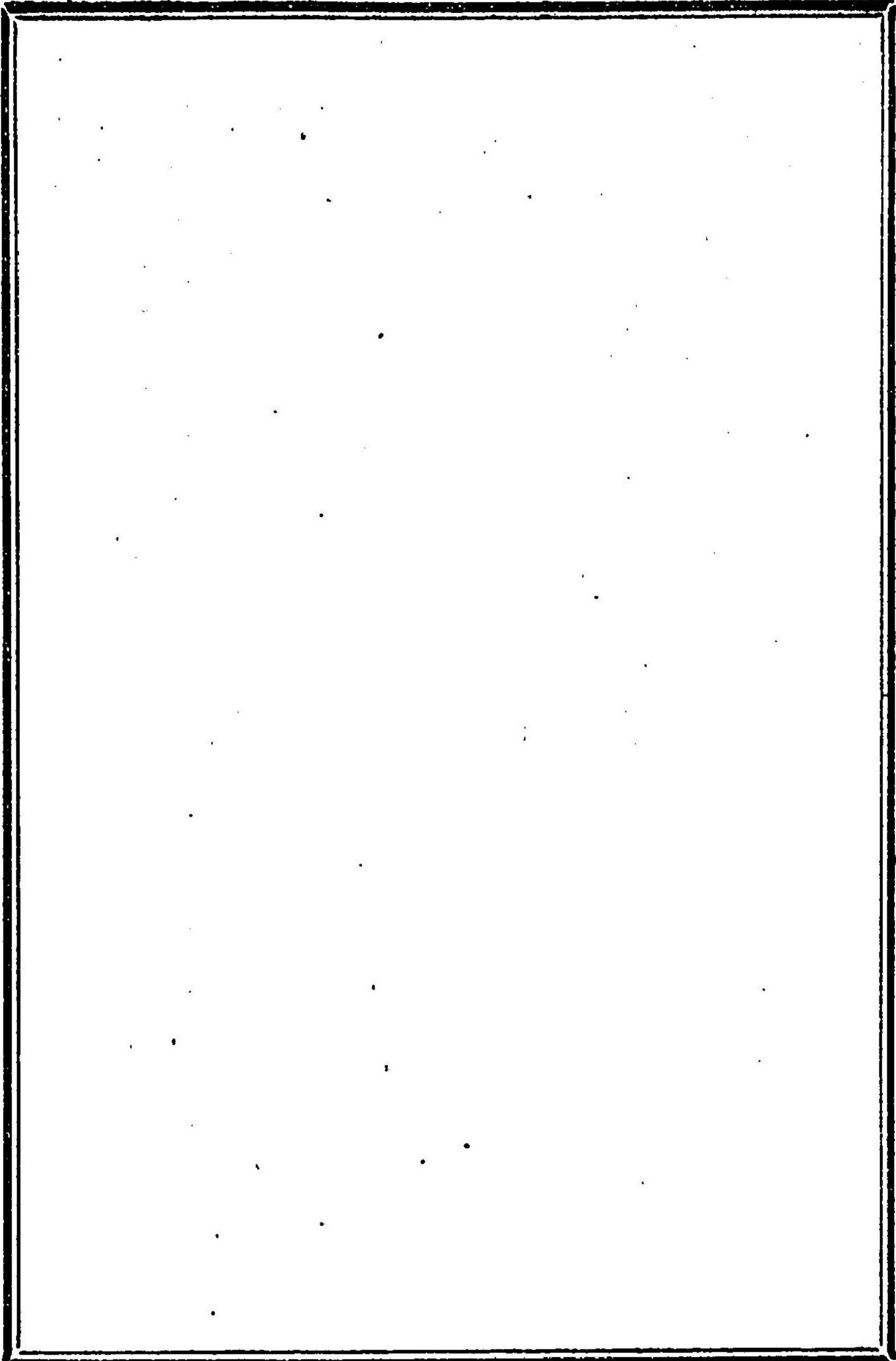
〔参照〕

閣令第八號種牡馬検査法施行規則(明治三十九年十月八日)抄録

第二條 種牡馬ノ検査ハ馬政長官二名以上ノ検査委員ヲシテ之ヲ行ハシム其ノ期日及場所ハ馬政長官ノ通告ニ依リ地方長官之ヲ指示ス

検査委員ハ馬政官、種馬收場長、種馬育成所長、種馬所長又ハ馬政局技師及北海道廳府縣官吏ヲ以テ組織シ馬政局官吏ニ在リテハ馬政長官、北海道廳府縣官吏ニ在リテハ地方長官之ヲ命ス但シ北海道廳府縣官吏ヨリ命スヘキ検査委員ノ數ハ馬政長官之ヲ定ム

北海道廳府縣ノ管下ニ屬スル島嶼及沖繩縣ニ於ケル種牡馬ノ検査ハ馬政長官前二項ノ規定ニ依ラス之ヲ行フコトヲ得

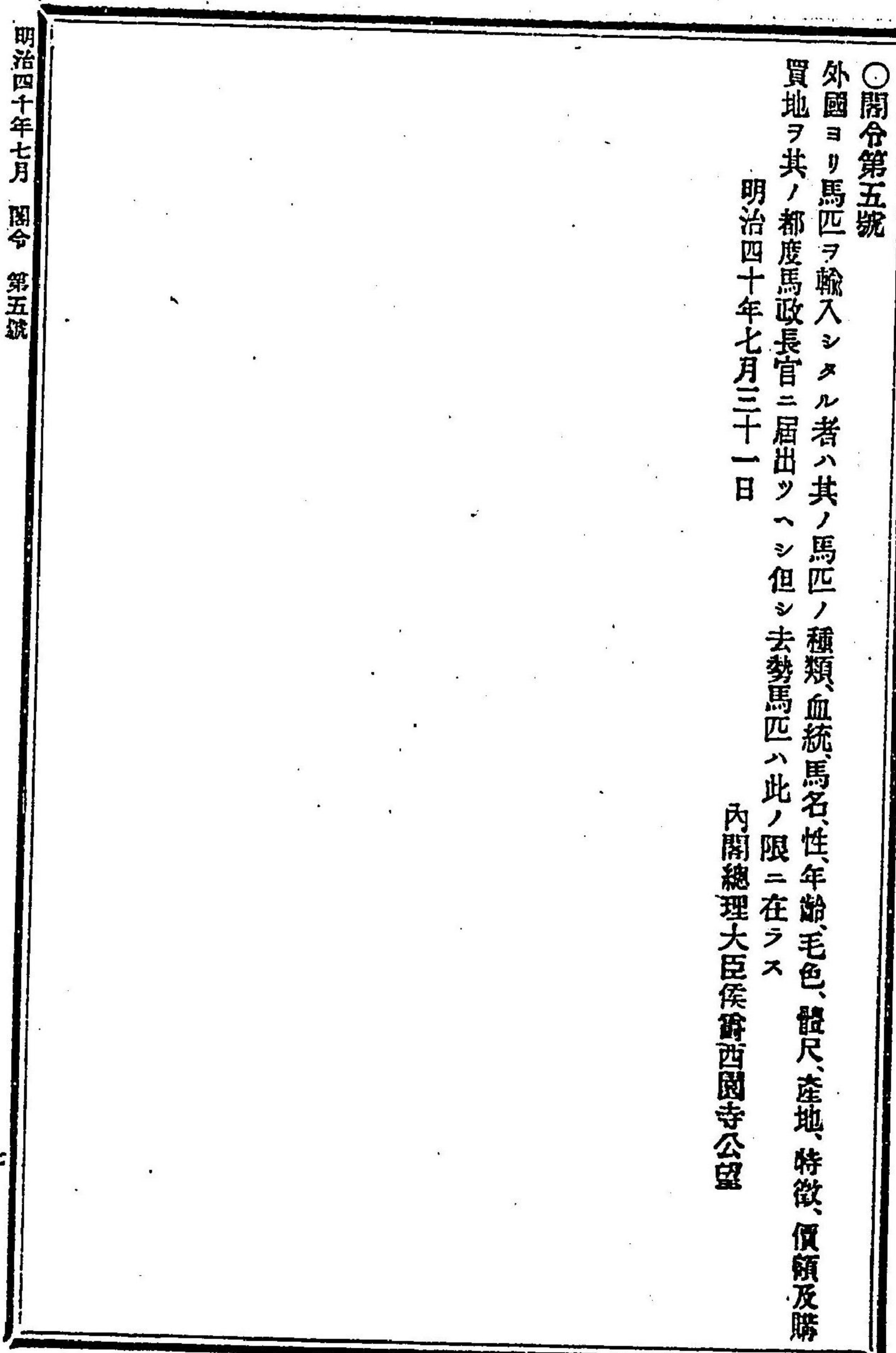


○閣令第五號

外國ヨリ馬匹ヲ輸入シタル者ハ其ノ馬匹ノ種類、血統、馬名、性、年齡、毛色、體尺、產地、特徴、價額及購買地ヲ其ノ都度馬政長官ニ届出ツヘシ但シ去勢馬匹ハ此ノ限ニ在ラス

明治四十年七月三十一日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望



法令全書

省令

○内務省令第一號

官國幣社會計規則左ノ通り改正ス

明治四十年一月十六日

官國幣社會計規則

内務大臣 原敬

第一章 收入支出

第一條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度四月三十日迄ニ終結スヘシ

第二條 收入支出ハ會計主任ニ於テ宮司ノ決裁ヲ經宮司ノ職名ヲ以テ執行スルモノトス

第三條 毎年度收入ノ内國庫供進金社入金(用途指定等)ノ一分五厘以上ハ營繕費ニ充ツルモノトス

第四條 用途ヲ指定シタル寄附金ハ其ノ用途以外ニ費消スルコトヲ得ス

第五條 社入金(用途指定等)一箇月二十圓以上ナルトキハ左ノ割合ニヨリ毎月準備資金ヲ積立ン

ヘシ但シ一箇月二十圓以内ナルトキト雖モ適宜積立ヲ爲スコトヲ得

三十圓以上	千分ノ四
五十圓以上	千分ノ六
百圓以上	千分ノ十二
二百圓以上	千分ノ十二
四百圓以上	千分ノ十五

六百圓以上	千分ノ十七
八百圓以上	千分ノ十九
千圓以上	千分ノ二十二
二千圓以上	千分ノ二十四
五千圓以上	千分ノ二十六

第六條 毎年度收入支出ハ別記様式ニ依リ豫算ヲ編製シ前年度二月末日迄ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ追加更正ヲ要スルトキハ其ノ時々認可ヲ受クヘシ

第七條 豫算各項ノ金額ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ流用スルコトヲ得但シ營繕費ハ他ニ流用スルコトヲ得ス

第八條 毎年度收支決算並ニ資金明細書ハ別記様式ニ依リ二通ヲ作り翌年度五月三十一日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ之ヲ審査シ七月三十一日迄ニ其ノ一通ヲ内務大臣ニ進達スヘシ

第九條 會計帳簿ハ別記様式ニ依リ編製スヘシ

第十條 支拂ハ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ受取證書アルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十一條 經費ノ剩餘ハ剩餘蓄積金ニ編入スヘシ

第十二條 社入金中ヨリ寄附ヲナサントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方長官ニ於テ其ノ年度社入金豫算二十分ノ一以上ノ寄附ヲ認可セントスルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十三條 過誤拂ト爲リタル金額ハ其ノ年度内ニ在テハ之ヲ支拂ヒタル經費ニ戻入レ年度経過ノ後ハ剩餘蓄積金ニ編入スヘシ

第十四條 經費取扱ノ爲メ特ニ爲替方ヲ設ケントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 各社共通金

第十五條 各社共通金トシテ國庫供進金ヨリ積立ツヘキ額ハ其ノ一分五厘トス

第十六條 各社共通金ヨリ支出スヘキ費途ハ臨時營繕費及官司赴任旅費トス

第十七條 各社共通金ヨリ支出セル臨時營繕費ハ別途整理スヘシ

前項營繕費ニ殘金ヲ生シタルトキハ之ヲ各社共通金ニ戻入ルヘシ

第三章 資金

第十八條 資金ノ種別ハ左ノ如シ

一 基本財産

二 豫備資金

第五條ニ依リ積立タル資金及其利子ニシテ臨時營繕費ニ充ツルモノトス  
從前ノ非常豫備金ハ豫備資金ニ編入ス

三 剩餘蓄積金

第十一條ニ依リ蓄積シタル資金及其ノ利子ニシテ經費不足ノ場合ニ於テ其ノ補足ニ充ツルモノトス  
從前ノ經費及營繕費剩餘蓄積金社入剩餘蓄積金ハ剩餘蓄積金ニ編入ス

四 各種ノ資金

第十九條 資金ハ各別ニ整理スヘシ

第二十二條 用途ノ定マレシ各種ノ資金ハ其ノ目的ニ反シテ費消スルコトヲ得ス

第二十三條 基本財産ノ利子ヲ經費ニ充テントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方長官ニ於テ其ノ年ノ利子ニ於テ二以上ノ支出ヲ認可セシトスル場合ハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第二十二條 豫備資金、剩餘蓄積金及各種ノ資金ヲ支出セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方長官ニ於テ豫備資金ノ支出ヲ認可セシトスルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

永代神饌料、永代燈油料ノ類ニシテ年々其ノ利子ヲ支出スヘキ目的ニ成レル資金ノ利子支出ニ就テハ認可ヲ受クルコトヲ得

第二十三條 資金ハ儲蓄證券若シテ地方長官ノ認可シタル種類ノ有價證券ト爲スカ又ハ中央金庫、本支金庫、郵便官署、日本銀行ニ預入ルヘシ

特別ノ事情ニ因リ前項ニ依リ難キモノハ基本財産ノ外地方長官ノ認可ヲ得テ他ノ銀行ニ預入ルコトヲ得

第二十四條 有價證券ハ中央金庫、郵便官署、日本銀行又ハ日本興業銀行へ保管ヲ委託スヘシ特別ノ事情ニ因リ前項ニ依リ難キモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ他ノ銀行ニ保管ヲ委託スルコトヲ得

第二十五條 前二條ニ依リ保管、委託、預入又ハ引出シタル金司ノ職名ヲ以テ其ノ引出シニハ地方長官ノ添書又ハ封印ヲ要スルモノトス

第四章 責任

第二十六條 會計主任ハ補宜、主典ノ中ヨリ官司ヲ定メ地方長官ニ報告スルニ會計主任疾病其ノ他事故ノ爲メ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ官司ニ於テ他ノ補宜、主典ヲシテ事務ヲ代理セ

ルコトヲ得

レノ地方長官ニ報告スヘシ

第二十七條 會計主任及其ノ代理人ハ現金又ハ有價證券ノ保管ニ就キ責任ヲ負フモノトス

第二十八條 會計主任及其ノ代理人ハ自身ニ事務ヲ執ラサルヲ由トシテ其ノ責任ヲ免ズルコトヲ得ス但シ代理人ヲ選キタル場合ニハ會計主任ハ其ノ代理人ノ行爲ニ就テハ責任ヲ負ハサルモノトス

第二十九條 地方長官ニ於テ會計主任及其ノ代理人ノ過失又ハ怠慢ニ因リテ損失ヲ生シタルト認ムルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得

第五章 雜則

第三十條 現金ヲ段入シタルトキハ鎖鑰アル金櫃ニ保管シ其ノ鎖鑰ハ會計主任ニ於テ監守シ金櫃ニハ官司又ハ其ノ代理人ト會計主任トノ相對ヲ爲スモノトス

前項金櫃ハ社務所ニ於テ會計主任之ヲ格護シ會計主任退出後ハ宿直ノ者ニ於テ之ヲ監護スルモノトス

第三十一條 寶篋箱ハ鎖鑰ヲ設ケ會計主任及官司又ハ其ノ指定セル神職ノ立合ヲ以テ開封セシム

第三十二條 地方長官ハ社入金ヨリ神職及雇員ニ對シテ毎月手當ヲ給スルコトヲ得

第三十三條 撤下ノ神饌、幣帛又ハ供物ハ慣例ニ依リ神職及雇員ニ頒賜スルコトヲ得

第三十四條 古社寺保存法ニ依リテ附セシメタル修理保存費ハ別途整理シ利餘ヲ生シタルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得テ處分スヘシ

第三十五條 本規則中ノ條項ニシテ之ニ依リ難キ事情アル神社ニ就テハ地方長官ニ於テ内務大臣

ノ認可ヲ得テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六章 附則

第三十六條 本規則ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條 明治十年<sup>四</sup>内務省乙第四十六號達同乙第四十七號達同年<sup>六</sup>内務省乙第五十七號達

明治三十六年<sup>八</sup>内務省訓令第九號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別記)

明治何年度收支豫算

科	目	何年度	前年度	比較増減	備考
第一項 金	第一目 國庫供進				
第二項 料	第一目 神國幣料				
第三項 社入金	第一目 賽物其他收入				
	第一節 賽物其他收入				

科	目	何年度	前年度	比較増減	備考
第一目 境内地收	第一節 境内地使用料				
	第二節 代枯損木賣拂				
	第三節 何				
第二目 境外地收	第一節 地所及付料				
	第二節 家屋賃付料				
	第三節 竹木賣拂代				
	第四節 何				
第四目 保管(委)托林收入					
第五目 雜收入	第一節 預金利子				







備考  
一前年度應納之八前年度現在ノ現金及預金ノ記載スルモノトス

何年度何資金有價証券明細書

區分	現在		拂		受		
	何所預金	現金	何種	何及債權書類面何額買入	何公債証券面何額買入	預金利息	公債利息
計							

備考  
二有價証券ノ種類及額面ノ異ナル等ニ區分記載スルモノトス

何年度何資金不動産明細書

區分	受				土地段別又ハ建物員數	時價
	田(寄附)	山林	山林	田		
計						

計	現在				拂田(畑)	計
	家屋(納屋)	山林	畑	田		

備考  
一 本表ハ物件ノ異動ナキトキ及時價ニ著ルシキ變動ナキ年度ニ在テハ報告ヲ要セス

何年度經費出納簿

年	月	日	摘要	受	拂	現金	預金
明治四十年	四月	一日	社入金	一五〇〇〇	一〇〇〇		
同	日	日	付資金利子	五〇〇〇			
計				二〇〇〇〇			二〇〇〇〇
明治四十年	四月	二日	前日越高	二〇〇〇			
同	日	日	社入金	一〇〇〇〇			
同	日	日	國庫供進金	二〇〇〇〇〇			
計				二〇〇〇〇			二〇〇〇〇

同	計	日	經費支拂	一〇八〇〇〇	二〇五〇〇	九三〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇
---	---	---	------	--------	-------	-------	---------

備考

一 本簿ニハ經費一切ノ收入支出ヲ記載スルモノトス  
 一 收入ノ内社入金ハ社入金簿總括當日ノ計ニ依リ記入シ其ノ他ノ收入及資金ヨリ繰入ルモノハ直ニ本簿ニ記入スヘシ  
 一 經費支拂額ハ經費支出簿社費及警務費當日ノ支拂高ヲ合セテ記入スルモノトス

何年度社入收入簿

總括		年	月	日	金額
同	同	明治四十年	四月	一日	一五〇〇〇
同	同	同	同	四月二日	一〇〇〇〇
計	計				二五〇〇〇
賽物其他收入					
年	月	日	摘要	金額	
明治四十年	四月	一日	一等守札二十體授與料	一〇〇〇	
同	日	日	神饌料	三〇〇〇	





○大藏省令第一號

鐵道國有法第四條ニ依リ政府ノ承繼シタル舊山陽鐵道株式會社社債ニ關スル規程左ノ通之ヲ定ム

明治四十年一月二十一日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第一條 舊山陽鐵道株式會社社債ニ關シテハ日本銀行本店ヲ以テ取扱店トス但シ無記名債券ニ關スル事務ハ日本銀行支店及出張所ニ於テモ之ヲ取扱フヘシ

第二條 無記名舊山陽鐵道株式會社社債券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代債券若ハ代利札ノ交付又ハ元金ノ償還若ハ利子ノ仕拂ヲ受ケントスル者ハ國債規則第十七條又ハ第六十二條ノ規定ニ準シタル請求書ニ除權判決ノ正本又ハ謄本ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第三條 國債規則第八條、第十三條第一項、第十六條乃至第十八條、第四十八條乃至第五十一條、第五十八條及明治三十九年大藏省令第二十五號ノ規定ハ舊山陽鐵道株式會社社債ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第二號

明治三十八年大藏省令第二十二號鹽專賣法施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年一月二十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第十一條ヲ第十一條ノ二トシ第十一條ヲ左ノ如ク改ム

第十一條ノ一 鹽ノ賠償價格ハ毎年十二月ニ於テ其ノ翌年ニ適用スヘキモノヲ定メ之ヲ告示スヘシ但シ翌年中ニ於テ特殊ノ事情アリタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

○大藏省令第三號

明治三十六年大藏省令第二十四號樟腦事務局出張所名稱位置中左ノ通改正ス

明治四十年一月二十三日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

神戸ノ網品川出張所、上京出張所、平野郷出張所、池田出張所、八尾出張所、枚方出張所、奈良出張所、三輪出張所、松山出張所(和)高田出張所、上市出張所、沼津出張所、中野出張所、新城出張所ヲ創ル

出張所ノ名稱	位
益田	島根縣美濃郡益田町
深川	島根縣那賀郡深川町
山口縣大津郡深川村	
位	出張所ノ名稱
益田	岡山縣見島郡益田町
深川	岡山縣小田郡深川町

○司法省令第一號

岡山地方裁判所管内新見區裁判所管轄備中國阿哲郡千屋村ヲ同區裁判所上市出張所ノ管轄ニ改メ

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年一月十八日

司法大臣松田正久

地方裁判所	區裁判所	出張所	位
岡山	新見	國	阿哲郡ノ内
		市	新見町 美濃村 草間村 亞永村 熊谷村
上市	備中	郡	水郷村 新砥村 高島村 石壁村
		市	阿哲郡ノ内
備中		町	上市村 千屋村
		村	阿哲郡ノ内 上市村 新砥村 神代村 矢神村 野馳村 千屋村

○司法省令第二號

橫濱地方裁判所管内橫濱區裁判所管轄武藏國橫濱市山内町二丁目ヲ同區裁判所神奈川出張所ノ管轄ニ屬セシメ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表 中同出張所ノ管轄欄内山内町一丁目ノ次ニ「山内町二丁目」ヲ加フ  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十年一月十八日  
司法大臣松田正久

○司法省令第三號

橫濱地方裁判所管内橫濱區裁判所神奈川出張所管轄武藏國橫濱市山内町二丁目ニ屬スル商業登記ノ事務ハ橫濱區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十年一月十八日  
司法大臣松田正久

○司法省令第四號

岡山地方裁判所管内岡山區裁判所管轄備前國兒島郡莊内村大字東高崎ヲ同區裁判所甲浦出張所ノ管轄ニ屬セシメ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表 中同出張所ノ管轄欄内莊内村大字中「籠ヶ原」ノ次ニ「東高崎」ヲ加フ  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十年一月二十四日  
司法大臣松田正久

○司法省令第五號

和歌山地方裁判所管内和歌山區裁判所宮崎出張所ヲ美島出張所ト改稱ス

本令ハ明治四十年二月三日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年一月二十六日

司法大臣松田正久

○文部省令第一號

明治二十九年文部省令第九號熊本高等工業學校規程中左ノ通改正ス

明治四十年一月十日

文部大臣牧野伸顯

第三條中採鑛冶金學科ニ關スル部分ヲ左ノ如ク改ム  
採鑛冶金學科

學科	第一學年 每週教授時數			第二學年 每週教授時數			第三學年 每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理									
英語	四	四	四				三	三	三
數學	三	三	三						
物理學	四	四	四						
化學	四	四	四						
幾何	二	二	二						
測量	二	二	二						
地質學	三	三	三						
礦物學	三	三	三						
機械工學				三	三	三			





文部省令第十六號水産學校規程(明治三十四年十二月二十八日)抄録  
 第十三條 水産學校ニハ本科卒業ノ後特ニ水産ニ關スル一事項若ハ欲取項ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ設ケコトヲ得  
 第十四條 專攻科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

○逓信省令第一號

明治三十八年五月逓信省令第三十六號郵便貯金規則中左ノ通改正シ本月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年一月十九日

逓信大臣山縣伊三郎

第九十九條第二項ヲ左ノ通改ム

貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ其ノ賣却代金ノ一部又ハ全部ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請求書ノ餘白ニ一部拂又ハ全部ノ文字ヲ附記スヘシ

第九十九條及第一百一條ヲ左ノ通改ム

第一百條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ヲ賣却シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス但シ賣却代金ノ全部拂渡ヲ要スルモノナルトキハ其ノ代金ニ相當スル貯金拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達シ賣却請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ通帳ニ證券拂出及賣却代金受入ノ記入ヲ受ケタルトキハ當該拂戻證書ニ受領證印シ證券保管通帳ト共ニ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ現金ヲ受領シ且通帳ニ證券拂出ノ記入ヲ受ケヘシ

第一百一條 證券賣却代金ノ一部拂渡ヲ要スルモノニ對シテハ第七十八條ヲ準用シ又其ノ全部拂渡ヲ要スルモノニ對シテハ貯金全部拂戻ニ關スル規定ヲ準用シテ之ヲ拂渡ヲ爲ス

第一百二條ニ左ノ一項ヲ追加ス

規約貯金ニ屬スル保管證券ノ交付及賣却ニ關シテハ規約貯金ノ拂戻ト同様ノ制限ヲ付シタルモノト看做シ本節ノ規定ヲ準用ス

〔参照〕

逓信省令第三十六號郵便貯金規則(明治三十八年五月十八日)抄録

第九十九條 貯金預ケ人證券ノ賣却ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券賣却請求書ヲ提出シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ證券賣却代金ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第一百條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ證券ノ賣却代金ヲ請求人ノ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ通帳ニ證券拂出及賣却代金受入ノ記入ヲ受ケヘシ

第一百一條 前條ノ場合ニ於テ第九十九條第二項ニ依リ證券賣却代金ノ拂渡ヲ要スルモノナルトキハ第七十八條ノ手續ニ準シ之ヲ拂渡ヲ爲ス

○大藏省令第四號

國債規則第十五條但書ノ規定ニ依ル新證券ノ交付ヲ受ケントスル者ハ同規則第八條ノ規定ニ準テ  
調製シタル書面ヲ以テ之ヲ取扱店(記名證券ナレトキハ所管取扱店)ニ請求シ追テ取扱店ノ通知ヲ得テ原證券ヲ提出  
シ之ト引換ニ新證券ヲ受取ルヘシ  
前項ノ請求ヲ爲シタル後原證券ヲ他人ニ讓渡シ又ハ滅失若ハ紛失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ取扱  
店ニ届出ツヘシ  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年二月八日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省令第五號

明治三十四年大藏省令第二十五號中大阪神戸間ノ次ニ左ノ通過加ス

明治四十年二月二十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

- 宮津大阪間 宮津港ヨリ舞鶴港ニ至ル直航水路及既設鐵道ヲ經ルニ至ル官設鐵道ヨリ
- 宮津港ヨリ舞鶴港ニ至ル直航水路若ハ神戶港ヨリ大阪ニ至ル官設鐵道ヨリ
- 宮津港ヨリ舞鶴港ニ至ル直航水路及既設鐵道ヲ經ルニ至ル官設鐵道ヨリ
- 神戶港ニ至ル直航水路若ハ神戶港ヨリ神戶港ニ至ル官設鐵道ヨリ

〔参照〕

明治三十四年三月十日大藏省令第二十五號ハ保稅倉庫法第四條ニ依ル通商ノ件ナリ

○陸軍省令第一號

明治二十五年陸軍省令第三號徵兵検査規則第三條第二號ノ末尾ニ「其ノ體格比較的良好ナルモノ  
ヲ第一乙種トシ之ニ亞クモノヲ第二乙種トス」ヲ加フ

明治四十年二月九日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

陸軍省令第三號徵兵検査規則(明治二十五年三月十八日)抄録

第三條 徵兵體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 乙種 身長五尺以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ

○陸軍省令第二號

徵兵事務條例施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年二月九日

陸軍大臣寺內正毅

第十七條中「甲乙兩種ヲ」甲種第一乙種第二乙種ニ改ム

第二十二條第一號ノ割註ヲ「三人以上ナルトキハ年齡ノ順序同年齡ノ者ハ抽籤ニ依ルニ依テ第一號第二號第三號第四號第五號第六號第七號第八號第九號第十號第十一號第十二號亦同シ」ニ改メ、第五號ノ割註ヲ「番號ノ順序ニ從テ第一號第二號第三號第四號第五號第六號第七號第八號第九號中「乙種」ヲ第一乙種ニ改メ第九號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

十 第二乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者

十一 第二乙種合格者ニシテ徵兵令第二十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラズシテ徵集スル者

十二 第二乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者

十三 第二乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第五十五條 削除

第一樣式第四樣式第五樣式第六樣式中(乙)ヲ(第一乙)(第二乙)ニ改ム

第一樣式中「運動」ノ欄ノ次ニ「官語」ノ欄ヲ加ヘ「欄外第四號中」第何項第五項第九項ヲ除ク(一)ヲ第何號(第五號第九號第十二號ヲ除ク)ニ改ム

第二樣式裏面第一號ヲ左ノ通改ム

一 本證書ハ翌年假決又ハ終決ノ前日迄其ノ效ヲ有スルモノトス但シ徵兵令第二十二條ニ該當スル者ハ翌年假決又ハ終決前ト雖共ノ事故止ムトキハ同時ニ效ヲ失フモノトス

第七樣式ノ四中「種」ヲ「第一種」ニ改メ其ノ欄ノ下ニ「第二種」ノ一欄ヲ加フ

第七樣式ノ五第七樣式ノ六中「乙種」ヲ「第一乙種」ニ改メ其ノ欄ノ次ニ「第二乙種」ノ一欄ヲ加フ

附則

本令施行前ニ於ケル乙種合格者ノ編入順序ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

〔參照〕

陸軍省令第十號徵兵事務條例施行細則(明治二十九年四月二十三日)抄録

第十七條 抽籤施行ニ先テ各聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ編隊區聯合徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ルヘシ

籤ノ番號ハ甲乙兩種各合格者ノ數ニ應ジ第一番ヨリ起スフ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其ノ次番號ヨリ籤番號ヲ起スヘシ

第二十二條 現役兵及補充兵ノ編入順序ハ左ノ如シ  
一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者ニ人ノ上ナレトモ編隊區聯合徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ兵種及甲種合格者ニシテ抽籤ノ者ヲ第九項本條ニ從テ  
五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者ヲ第九項本條ニ從テ  
六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者  
七 乙種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラズシテ徵集スル者  
八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者  
九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第五十五條 島前郡市長(東京市東區大塚)ハ一年志願兵出願者二十名未満ノ人名ヲ調査シ條例第二十一條ノ條名簿ニ添附スヘシ

○文部省令第三號

仙臺高等工業學校ノ修業年限學科學科目及其ノ程度ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 明治四十年二月四日  
 文部大臣牧野伸顯

仙臺高等工業學校規程

- 第一條 仙臺高等工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 仙臺高等工業學校ノ學科ハ土木工學科、機械工學科、電氣工學科及採鍊冶金學科トス
- 第三條 仙臺高等工業學校各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

土木工學科

學科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	六	六	六	三	三				
物理學	四	四	四						
物理實驗			四						
化學	三	三							
英語	四	四	四	三	三		二	二	二
幾何	四	四							
測量	二	二							
地質學									
測量				三	三				

學科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
應用力學	一	二	二	五	五	五			
機械工學									
電氣工學			二	二	二	三			
石工學					二	二	二	二	三
道路									
市街學									
鐵道									
橋梁							三	二	
河海工學									
衛生工學									
造家學									
建築材料					一	一			
土木法令									
工業經濟									
設計製圖及實習	一一	七	一一	一一	一四	一一	一九	一八	二三
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

備考 休業中ニ於テ工業ノ實地ニ就キ實習セシムルコトアルヘシ(以下省略)

機械工學科

學科/學年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	六	六	六	三	三	三			
物理學	四	四	四	三	三	三			
物理實驗		四	四						
化學	三	三	四						
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	二
幾何盤法	四	四	四						
應用力學			二	五	五	五			
工作法									
機械製造法									
發動機				三	三	四	四	四	四
電氣及磁氣	二	二	二	二	二	二			
電氣工學				二	二	二			
特別講義							五	五	五
工業法令							一	一	一

電氣工學科

學科/學年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
工業經濟									
工業簿記									
工業衛生									
工場建築									
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
製圖及實習	一一	七	一二	一五	一五	一七	二〇	二二	二二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

學科/學年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
數學	五	五	五	四	四				
物理學	四	四	四						
物理實驗		四	四						
化學	三	三	四						
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	二
幾何盤法	四	四	二						
應用力學				五	五	五			

計	製圖及實習	機械實習	兵式體操	工場建築	工業衛生	工業簿記	工業經濟	工業法令	機械製圖	製造冶金學	電氣化學	電氣工學	電氣及磁氣	機械工學	工作法
三九	八	四	二										二	二	
三九	五	三	二									二	二	二	
三九	六	三	二									四	二	二	
三九	一〇		二						四			六	三	一	
三九	一〇		二						四			六	三	一	
三九	一四		二						四			六	三	一	
三九		一八	二	一	二					二	二	八			
三九		一八	二	一	一	一				二	二	八			
三九		二〇	二	一	一	一				二	二	八			

採鐵冶金學科

採礦學	探礦學	電氣工學	機械工學	應用力學	地質學	測量	幾何畫法	英語	化學	物理實驗	物理學	數學	倫理	學科			
														第一學年	第二學年	第三學年	
					四		四	四	三		四	五	一	第一學年每 週教授時數	二	二	二
					四		四	四	三	四	四	五	一	第二學年每 週教授時數	二	二	二
				二		二		四	三	四	五	一	一	第三學年每 週教授時數	二	二	二
三	二	二	三	二		三		三					一	採礦學科			
三	二	二	三	二		三		三					一	採礦學科			
三	二	二	三	二		三		三					一	採礦學科			
二	二	二	三	二				三					一	採礦學科			
二	二	二	三	二				三					一	採礦學科			
二	二	二	三	二				三					一	採礦學科			
四					二			二					一	採礦學科			
四					二			二					一	採礦學科			
四					三			三					一	採礦學科			
								二					一	採礦學科			
								二					一	採礦學科			
								二					一	採礦學科			

計	分析製圖及實	兵式體操	工場建築	工業衛生	工業簿記	礦業法規	機械製圖	吹管分析及試	電氣化學	製造冶金學	製造化學	冶金學
三九	一一	二										
三九	八	二										
三九	一一	二										
三九	一一	二										
三九	一一	二										
三九	一一	二										
三九	一六	二										
三九	一六	二										
三九	一六	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										
三九	二二	二										

第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究セントスル者アルトキハ二箇年以内在學セシムルコトヲ得

第五條 各學科中ノ一學科目若ハ數學科目ヲ撰擇シテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ二箇年以内在學ヲ許スコトヲ得

○文部省令第四號

明治三十七年文部省令第十三號東京外國語學校ノ修業年限學科學科目及其ノ程度並研究學生選科生專修科及速成科ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十年二月十八日

文部大臣 牧野伸顯

第三條 各學科ノ學科目及其ノ程度表中「英(佛)獨(露)伊(西)語學科」ヲ「英(佛)獨(露)伊(西)清(韓)語學科」ヲ「清(韓)語學科」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

○遞信省令第二號

請願電信規則左ノ通定ム

明治四十年二月十三日

遞信大臣 山縣伊三郎

請願電信規則

第一條 明治三十六年三月勅令第四十一號ニ依リ町村ニ於テ電信事務ノ開始ヲ必要トスルトキハ左記各號ノ事項ヲ詳記シ町村長ヨリ遞信大臣ニ出願スヘシ但シ出願地ト附近電信事務取扱局間ノ距離及其ノ地況ノ略圖ヲ添付スヘシ

一 電信事務ノ開始ヲ必要トスル地名

二 最近電信事務取扱局名及其ノ距離

三 電信事務ノ開始ヲ必要トスル事由

四 電報配達事務開始ノ要否

既設電信事務取扱局ハ電報、配達事務ノ開始ヲ必要トスルトキ亦前項ニ準ス



第二條 北海道又ハ同一府縣内ニ於テハ連接セル二箇以上ノ町村合同シテ前條ノ出願ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ願書ニ合同各町村長連署スヘシ

第三條 請願町村ノ負擔スヘキ創設費額及其ノ支辨ノ方法並ニ維持費額ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 請願電信事務開始ノ爲メニ設備シタル物件ハ通信開始ノトキニ於テ總テ國庫ノ所有ニ屬ス

第五條 本規則ニ依リ電信事務ヲ開始シタルモノハ請願ニ依リ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第六條 通信開始前不可抗力又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ工事ヲ中止セ若ハ廢止シタル場合ニ於テハ既ニ執行シタル工事ノ費用ハ町村ノ負擔トス

第七條 前條ニ依リ工事ヲ廢止シタルトキハ其ノ線路及機械類ハ所轄一等郵便局(以下單ニ一等局ト稱ス)ノ指定スル所ニ依リ町村ニ於テ之ヲ撤去スヘシ但シ必要ノ部分ニ限り一等局ニ於テ撤去スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用ハ町村ノ負擔トス

第八條 維持費ハ一會計年度毎ニ一等局ノ指定スル所ニ依リ之ヲ納付スヘシ但シ一年度ニ滿ラザルトキハ日割計算トス

第九條 維持費ハ請願事務開始ノ日ヨリ五箇年經過ノ後ハ之ヲ免除ス

第十條 維持費ハ其ノ年度内請願局ニ於ケル左記電信收入料金額ト比較シ其ノ不足額ノミヲ徵收ス但シ請願局ニ於ケル電信收入料金ハ逓信省通信局ノ測定スル所ニ依ル

- 一 内國電報料金 特殊取扱  
料ヲ除ク
- 二 外國電報ノ内國料金 特殊取扱  
料ヲ除ク

第十一條 單ニ電報配達事務ノ開始ヲ請願シタルモノニ對スル維持費ハ前條ニ依リ算出シタル其ノ局ノ電信收入料金額ノ十分ノ二ニ相當スル金額ト比較シ其ノ不足額ノミヲ徵收ス

第十二條 二箇以上ノ町村合同シテ請願ヲ爲シタル場合ニ於ケル創設費及維持費ノ分擔方ハ其ノ合同町村間ノ協定ニ依ルト雖政府ニ對シテハ電信事務ヲ開始スル地ノ町村ニ於テ該請願ニ依ル總テノ責務ヲ履行スヘシ

第十三條 第十條及第十一條ニ依リ計算ノ結果二箇年間引續維持費ノ徵收ヲ要セザルトキハ第九條ノ期間内ト雖特ニ次年度以後ニ於ケル維持費ノ徵收ヲ免除スルコトアルヘシ

第十四條 第九條及第十三條ノ年限ハ會計年度ニ依ル共ノ事務ノ開始カ一會計年度ノ中途ニアルトキハ次ノ會計年度ノ始ヨリ起算ス

第十五條 本規則ニ依リ逓信大臣ニ提出スル書類ハ總テ北海道長官又ハ府縣知事ニ提出シ北海道長官又ハ府縣知事ハ之ニ意見ヲ付シ共ノ町村ヲ所轄スル一等局ニ送付スヘシ

附 則

第十六條 本規則ハ明治四十年三月一日ヨリ施行ス

明治三十六年三月逓信省令第十三號町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル施行細則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本規則施行前ニ許可ヲ得タル請願町村ニ對シテハ明治四十年三月三十一日迄明治三十六年三月逓信省令第十三號町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル施行細則ヲ廢止シ同年四月一日ヨリ本規則ヲ適用ス但シ之ニ依ル不便トスルモノニシテ本規則適用前申請スルモノハ特ニ三箇年間ニ限リ明治三十六年三月逓信省令第十三號町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル施行細則ヲ繼續適用ス

ルコトヲ得  
本規則適用前許可ヲ得タルモノニ對シ本規則ヲ適用スル場合ニ於テハ本規則第九條及第十三條ノ年限ハ本規則適用ノ日ヨリ之ヲ起算ス

○宮内省令第一號

明治二十九年<sup>四</sup>月<sup>四</sup>宮内省總乙第五號學習院規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月三十日

宮内大臣子爵田中光顯

第三十二條中「高等學科」ノ上ニ「明治三十九年九月現在ノヲ加ヘ」並現在ノ中等學科ノ最上級ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

宮内省總乙第五號學習院規則(明治三十九年四月九日)抄錄

第三十二條 高等學科並現在ノ中等學科ノ最上級ノ學生ニ付テハ其ノ學年並期ハ第十二條ノ規定ニ拘ハラズ從前ノ規則ニ依ル

○外務省令第一號

外國旅券規則左ノ通相定ム

明治四十年三月十五日

外務大臣子爵林董

外國旅券規則

第一條 外國へ旅行スル者ニ下付スル旅券ハ外務大臣之ヲ發給シ外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官及貿易事務官ヲシテ之ヲ發給セシム

第二條 旅券ノ下付ヲ請フ者ハ書面ニ左ノ事項ヲ記載シ之ニ戶籍謄本又ハ其ノ氏名、本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書ヲ添附シ内國ニ於テハ本籍地又ハ所在地ノ地方上級行政廳<sup>(東京府下ニ在リテハ府廳、關東州ニ於テハ關東都督府、外國ニ於テハ在外公館ニ出願スヘシ但シ關東州ニ於テハ關東都督、外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ認定ニ依リ戶籍謄本又ハ其ノ他ノ文書ノ添附ヲ省略セシムルコトヲ得)</sup>

書ノ添附ヲ省略セシムルコトヲ得

- 一 氏名(片假名ヲ以テテ)
- 二 本籍地(本籍地ト所在地ト異ナルト)
- 三 身分(戸主家族ノ別家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記スヘシ)
- 四 年齢(滿何年何月何日生)
- 五 職業
- 六 旅行地名
- 七 旅行ノ目的

旅券ノ下付ヲ請フ者北海道又ハ長崎縣下對馬國ニ本籍地若ハ所在地ヲ有スルトキハ前者ハ因館支廳ニ後者ハ對馬島廳ニ出願スルコトヲ得

第三條 臺灣ニ於ケル旅券ノ下付ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル

臺灣住民カ内地ニ在リテ旅券ノ下付ヲ出願スルトキハ本令ノ規定ニ依ル但シ第二條第一項各號ノ事項及戶籍原本添附ニ關スル規定ニシテ適用シ得サルモノハ之ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ出願官廳ニ内地渡航證ヲ提示スルコトヲ要ス

第四條 韓國ニ在ル帝國臣民ニ對スル旅券ノ下付ハ統監ノ定ムル所ニ依ル

第五條 內國關東州及韓國以外ノ外國ニ在ル韓國臣民ノ旅券ノ下付及查證ニ對シテハ本令ノ規定ヲ準用ス但シ內國ニ於テハ北海道廳、東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣、長崎縣、新潟縣及福井縣ニ限リ旅券ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

前項出願ノ場合ニ於テハ本籍地ノ記載及戶籍原本ノ添附ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條 官命ニ依リ外國ニ旅行スル者ハ內國及關東州ニ於テハ其ノ所管官廳ヲ經由シテ外務省ニ外國ニ於テハ在外公館ニ旅券ノ下付ヲ出願スルコトヲ得但シ第二條第一項第一號第六號及

第七號ノ事項ヲ開申スヘシ家族又ハ從者ヲ同行スルトキハ同行者ニ係ル第二條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ併セテ開申スヘシ

官命ニ依リ外國ニ在ル者其ノ所在地ニ家族又ハ從者ヲ呼寄セムトスルトキハ其ノ旅券下付ノ出願ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第七條 移民保護法ノ規定ニ依リ移民取扱人ニ依ル移民又ハ保證人ヲ要スル移民ニシテ第二條ノ出願ヲ爲ストキハ移民取扱人又ハ保證人ノ連署ヲ要ス

第八條 第二條ノ規定ニ依リ內國及關東州ニ於テ旅券ノ下付ヲ受ケル者ハ一枚ニ付キ金一圓ニ相當スル收入印紙ヲ旅券領收證ニ貼付スヘシ

外國ニ於テ帝國大使及公使ノ徵收スヘキ旅券下付手数料ハ明治三十三年外務省令第三號ノ規定ニ依ル

第九條 旅券ノ下付ヲ受ケル者ハ其ノ券面ニ署名スヘシ若シ署名スルコト能ハサルトキハ代署セシムル本人之ニ實印ヲ捺捺スヘシ

旅券面ニ查證アルコトヲ必要トスル國ニ旅行スル者ハ其ノ定ムル所ニ依リ查證ヲ受ケルヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅券ノ下付ヲ受ケルコトヲ得ス但シ第二號ニ該當スル者ハ清國又ハ韓國ニ旅行セムトスル場合ヲ除ク外此ノ限ニ在ラス

一 豫戒命令中ノ者

一 清國又ハ韓國在留禁止命令中ノ者

第十一條 第二條ノ規定ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル後六箇月以内ニ出發セサル者ハ旅券ヲ返納スヘシ

第十二條 旅行者歸國若ハ歸著レタルトキハ旅券ヲ返納スヘシ  
旅券ノ下付ヲ受ケタル者死シタルトキハ其ノ遺族ヨリ之ヲ返納スヘシ

第十三條 商業漁業其ノ他職業ノ爲特定ノ地ニ數次往復スル者ハ歸國若ハ歸著毎ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日ヨリ三箇年ヲ過キテ歸國若ハ歸著スルトキハ之ヲ返納スヘシ

前項特定ノ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第十四條 旅行十年ニ及ヒ歸國セサル者ハ旅券ヲ領收シタルトキヨリ十年以内ニ帝國大使公使領事官又ハ貿易事務官ノ查證ヲ受クヘシ其ノ後十年ニ及フ毎ニ亦同シ

第十五條 旅券ノ下付ヲ受ケタル者第十條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第二條第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ旅券ヲ返納スヘシ

第十六條 旅券ヲ紛失シタルトキハ直ニ届出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第十七條 本令ノ規定ニ依リ旅券ノ返納又ハ其ノ紛失若ハ發見ノ届出ヲ受クヘキ官廳ハ内國ニ於テハ地方上級行政廳警視廳函館支廳及對馬島嶼國東州ニ於テハ關東都督府外國ニ於テハ在外公館トス

第十八條 本令ニ於テ在外公館ト稱スルハ帝國大使館公使館領事館領事館總領事館分館領事館分館及貿易事務館ヲ謂フ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス  
一 第二條第一項各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第十條各號ノ一ニ該當スル者其ノ事實ヲ申告セス其ノ

他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者及之ヲ幫助シタル者  
一 他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幫助シタル者  
一 本令ニ依リ返納スヘキ旅券ヲ返納セスレテ使用シタル者

附則  
第二十條 舊規則ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ニ對スル第十一條ノ期間ハ該旅券面ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年<sup>六</sup>外務省令第二號外國旅券規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○內務省令第二號  
明治三十四年<sup>九</sup>內務省令第二十五號左ノ通改正ス

明治四十年三月五日 內務大臣原敬

明治三十三年法律第七十七號ニ依リ退隱料及遺族扶助料ヲ受クヘキ者内地ニ轉居シタルトキハ明治三十四年<sup>七</sup>臺灣總督府令第四十六號ヲ準用ス但シ同規則第十二條中廳長ノ職務及同第二十三條臺灣總督ノ職務ハ北海道廳長官及府縣知事之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ規則第十七條第十八條第二十二條及第二十三條ノ届出ハ北海道廳長官府縣知事ニ之ヲ爲スヘシ

官廳又ハ公署ニ於テ退隱料ヲ受クル者ヲ採用シタルトキハ退隱料ヲ交付スヘキ北海道廳長官府縣知事又ハ臺灣總督ニ之ヲ通報スヘシ其ノ解職シタルトキ及俸給額ニ増減ヲ生シタルトキ亦同シ

明治四十年三月 省令 內務省第二號

前項ノ通報書ニハ傳給額及其ノ支給ヲ始ムル日又ハ支給ヲ終リタル日ヲ附記スヘシ

○内務省令第三號

北海道地方吏員ノ服務紀律ハ明治三十五年内務省令第三號ヲ準用ス

明治四十年三月二十一日

内務大臣原敬

○内務省令第四號

明治四十年勅令第百號ニ依リ海港檢疫及輸入獸類檢疫及検査ノ執行ニ關シ福岡縣知事ノ職權行使區域ハ山口縣下下ノ關港及其ノ附近トス

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月三十一日

内務大臣原敬

○大藏省令第六號

國債規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月十八日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第二十三條第一項中「及其ノ起債年」ヲ「起債年又ハ舊公債ヲ除ク外國債證券ノ記號」ニ改ム

〔參照〕

大藏省令第二十三號國債規則(明治三十九年五月二十九日)抄錄  
第二十三條 甲種國債登錄簿ハ國債ノ種別及其ノ起債年等ニ口坐ヲ分子其ノ發給國債ニハ記號及番號ヲ附ス

○大藏省令第七號

明治三十八年大藏省令第二十八號中左ノ通改正ス

明治四十年三月十八日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

東京稅務監督局 甲府稅務署所轄内	甲府市	高野稅務署所轄内	高野市	松江稅務署所轄内	松江市
京都稅務監督局 大津稅務署所轄内	大津市	豐橋稅務署所轄内	豐橋市	鳥取稅務署所轄内	鳥取市
大阪稅務監督局 堺稅務署所轄内	堺市	四日市稅務署所轄内	四日市市	吳稅務署所轄内	吳市
奈良稅務署所轄内	奈良市	津稅務署所轄内	津市	尾道稅務署所轄内	尾道市
和歌山稅務署所轄内	和歌山市	宇治山田稅務署所轄内	宇治山田市	丸龜稅務署所轄内	丸龜市
神戸稅務監督局 姫路稅務署所轄内	姫路市	仙臺稅務監督局 盛岡稅務署所轄内	盛岡市	高松稅務署所轄内	高松市
長崎稅務監督局 佐世保稅務署所轄内	佐世保市	若松稅務署所轄内	若松市	丸龜稅務署所轄内	丸龜市
佐賀稅務署所轄内	佐賀市	秋田稅務監督局 青森稅務署所轄内	青森市	高知稅務署所轄内	高知市
長野稅務監督局 長岡稅務署所轄内	長岡市	山形稅務署所轄内	山形市	高知稅務署所轄内	高知市
宇都宮稅務監督局 宇都宮稅務署所轄内	宇都宮市	金澤稅務監督局 高岡稅務署所轄内	高岡市	高知稅務署所轄内	高知市
		松江稅務監督局	高岡市		

〔參照〕

明治三十八年十月二日大藏省令第二十八號ハ特ニ所得課税委員會ヲ置クヘキ市及北海道ノ區指定ノ件ナリ

○大藏省令第八號

明治三十二年大藏省令第十三號中左ノ通改正ス

明治四十年三月十八日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

東京稅務監督局 甲府稅務署所轄内	市部 四八人	大阪稅務監督局 堺稅務署所轄内	市部 四八人	神戸稅務監督局 和歌山稅務署所轄内	市部 四八人
京都稅務監督局 大津稅務署所轄内	市部 四八人	奈良稅務署所轄内	市部 四八人	松江稅務監督局 尾道稅務署所轄内	市部 四八人

明治四十年三月 省令 大藏省第八號

四九

長崎稅務監督局 佐世保稅務署所轄内 市部 四八人	盛岡稅務署所轄内 市部 四八人	廣島稅務監督局 吳稅務署所轄内 市部 三四人
佐賀稅務署所轄内 市部 五三人	若松稅務署所轄内 市部 四三人	吳稅務署所轄内 市部 三三人
長野稅務監督局 長岡稅務署所轄内 市部 四三人	田島稅務署所轄内 市部 四三人	尾道稅務署所轄内 市部 四三人
宇都宮稅務監督局 宇都宮稅務署所轄内 市部 四四人	秋田稅務監督局 青森稅務署所轄内 市部 四三人	丸根稅務監督局 高松稅務署所轄内 市部 四四人
高崎稅務署所轄内 市部 六四人	山形稅務署所轄内 市部 四三人	高知稅務署所轄内 市部 四四人
名古屋稅務監督局 豐橋稅務署所轄内 市部 四三人	金澤稅務監督局 高岡稅務署所轄内 市部 四三人	熊本稅務監督局 久留米稅務署所轄内 市部 四三人
四日市稅務署所轄内 市部 四三人	松江稅務監督局 松江稅務署所轄内 市部 四三人	小倉稅務署所轄内 市部 四四人
津稅務署所轄内 市部 五三人	松江稅務署所轄内 市部 四三人	鹿兒島稅務署所轄内 市部 五三人
宇治山田稅務署所轄内 市部 四三人	島取稅務署所轄内 市部 三三人	鹿兒島稅務署所轄内 市部 五三人
仙臺稅務監督局 左ノ稅務署ヲ削ル 市部 四三人		種子島稅務署所轄内 市部 四三人
長野稅務監督局 市部 四三人		

〔参照〕

明治三十二年四月二日 大藏省令第十三號ハ所得稅法施行規則第五條ニ依ル調査員定數ナリ  
○大藏省令第九號  
帝國鐵道官署現金出納官吏ノ雜部保管金ニ關スル取扱手續左ノ通り相定メ明治四十年四月一日ニ施行ス

明治四十年三月二十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

帝國鐵道官署現金出納官吏ノ雜部保管金ニ關スル取扱手續

第一章 總則

第一條 帝國鐵道官署現金出納官吏ノ雜部保管金ノ取扱手續ハ本手續ニ據ルモノ、外一體出納官吏ニ對スル各取扱規程ニ據ル

第二條 帝國鐵道官署現金出納官吏ノ取扱フ雜部保管金ハ明治二十九年遞信省令第三十三號帝國鐵道官署現金受拂規則ニ據ルノ外左ノ場合ニ限り其雜部保管金ヲ取扱フ金庫ニ對シ雜部保管金ノ送金ヲ請求スルコトヲ得

一 甲地ノ帝國鐵道官署ニ在勤スル出納官吏ノ雜部保管金ヲ乙地ノ帝國鐵道官署ニ在勤スル出納官吏ニ振換ノ爲メ送金ヲ要スルトキ

二 雜部保管金ヲ取扱フ金庫ノ所在地外ニシテ其金庫ノ出納區域内ニ在ル債主ニ送金ヲ要スルトキ

三 雜部保管金ヲ取扱フ金庫ノ出納區域外ニ在ル債主ニ仕拂ノ爲メ送金ヲ要スルトキ

前項ニ據ル送金ハ至急ヲ要スル場合ニ限り電信送金ヲ請求スルコトヲ得

第二章 送金手續

第三條 出納官吏前條第一項各號ノ送金ヲ請求セントスルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 甲地乙地ノ帝國鐵道官署ノ出納官吏間ニ送金ヲ要スル場合ハ雜部保管金庫内引出切符ノ表面ニ「振替」ノ印ヲ押捺シ裏面ニ回金ヲ受クヘキ出納官吏ノ官氏名及其渡シ先金庫名ヲ記載シ出納官吏署名捺印シテ金庫ニ差出スヘシ

二 雜部保管金ヲ取扱フ金庫所在地外ニシテ其金庫ノ出納區域内ニ在ル債主ニ送金ヲ要スル場

合ハ雜部保管金案内引出切符ノ表面ニ「送金」ノ印ヲ押捺シ裏面ニ債主ノ氏名及其居住地ヲ詳記シ出納官吏署名捺印シテ金庫ニ差出スヘシ

三 雜部保管金ヲ取扱フ金庫ノ出納區域外ニ在ル債主ニ送金ヲ要スル場合ハ雜部保管金案内引出切符ノ表面ニ「振替」ノ印ヲ押捺シ裏面ニ債主ノ氏名及其居住地ヲ詳記シ及債主ニ對シ最モ便利ナル金庫ヲシテ振換拂ヲ爲サシムル爲メ其金庫名ヲ記載シ出納官吏署名捺印シテ金庫ニ差出スヘシ

電信ヲ以テ送金ヲ要スル場合ハ前項ノ手續ヲ爲シ尙ホ電信送金ヲ要スル旨ヲ附記スヘシ但第三號ノ場合ニシテ電信送金ヲ要スル債主居住地カ振換拂ヲ爲スヘキ金庫所在地外ナルトキハ雜部保管金ヲ取扱フ金庫ヨリ直チニ送金セシムルコトヲ得

第一項各號ノ場合ハ雜部保管金引出切符ノ發行ヲ要セス

第四條 出納官吏前條第一項第一號乃至第三號ニ據ル送金ノ手續ヲ爲ストキハ第一號書式ノ雜部保管金仕拂通知書ヲ出納官吏若クハ債主ニ送付スヘシ

前條第二項ニ據ル場合ハ雜部保管金仕拂通知書ニ替ヘ電信ヲ以テ出納官吏若クハ債主ニ仕拂ノ通知ヲ爲スヘシ

第三章 整理手續

第五條 出納官吏ハ第二號書式ノ整理簿ヲ設置シ第三條第一號乃至第三號ノ送金ノ手續ヲ爲シタルトキハ金額ヲ該簿ノ送金請求額ノ欄ニ登記シ置キ雜部保管金ヲ取扱フ金庫ヨリ雜部保管金仕拂通知書ヲ受ケタルトキ其金額ヲ該簿ノ送金仕拂額ノ欄ニ登記シテ決算ノ同時ニ現金出納簿ニ其仕拂額ヲ登記スヘシ

第六條 出納官吏ハ前條ノ金庫ヨリ送付シタル雜部保管金仕拂通知書ヲ以テ自己保管金ノ仕拂證據ニ充ツヘシ

第七條 出納官吏ノ交替若クハ死亡等ノ場合ニ第五條ノ決算未済額アルトキハ其未済額ハ繼承セシムル後任出納官吏ノ出納整理ニ屬スルモノトス

第八條 雜部保管金仕拂通知書ノ盜難又ハ亡失ノ場合ノ手續ハ仕拂命令等盜難又ハ亡失ニ關スル規定ニ據ル

(第一號書式) 用紙寸法 縦四寸五分 横五寸五分 輪廓寸法 縦三寸八分 横四寸三分

部保管金仕拂通知書

番 號	取 扱 順 名
送金ヲ取扱フ金庫名	現金ヲ仕拂フ金庫名
何 之 誰 渡	
金 何 圓 何 拾 何 錢 也	
本行ノ金額上記ノ金庫ニテ仕拂可致候也	
出納官吏 官 氏 名 印	
明 治 何 年 何 月 何 日	
雜部保管金ヲ取扱フ金庫名	1.000 000

領收證

前記ノ金額領收候也  
 明治何年何月何日  
 受取人「何ノ誰」印  
 收入印紙(印)

注意 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

備考  
 一本書ハ左方ニ曲尺八分ノ模代ヲ設ケヘシ  
 一出納官吏本手續第三條第一項第二號ノ取扱ニ對シ本通知書ヲ履行スルトキハ現金ヲ仕拂フヘキ金庫名ノ欄ニ朱線ヲ畫シ又同條第一項第一號及第三號ノ取扱ニ對スル場合ハ送金ヲ取扱フ金庫名ノ欄ニ朱線ヲ畫スヘシ

注意事項

- 一 受取人本通知書ヲ請取リ「現金ヲ仕拂フヘキ金庫名」ノ欄ニ金庫ノ指定アリタルトキハ裏面領收證ノ部ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シ現金領收ノ取付シテ仕拂金庫ニ送付シ現金ノ拂渡ヲ受テヘシ
- 但受取人ノ居住地カ仕拂金庫ノ所在地外ナルトキハ受取人ヨリ自己ノ居住地迄送金ヲ請求スルコトヲ得
- 一 受取人本通知書ヲ請取リ「送金ヲ取扱フ金庫名」ノ欄ニ金庫ノ指定アリタルトキハ指定金庫ヨリ受取人ノ居住地迄送金スルモノトス
- 一 受取人金庫ヨリ送金ヲ受ケタルトキハ直チニ裏面領收證ノ部ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シ現金領收ノ取付シテ送金ヲ取扱ヒタル金庫ニ送付スヘシ
- 一 印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

(第二號書式)

雜部保管金送金整理簿

何 處

一 受領金額五圓以上ノモノハ受領收入印紙ヲ貼附捺印スヘシ但書第三條ニ關セサルモノハ此限ニアラス



年月日	摘要	送金請求額		仕拂済額		仕舞未済額	
		債主氏名	金額	債主氏名	金額	債主氏名	金額
何々何々	何々何々通知第 號	何 某某	00	何 某某	0		00

○大藏省令第十號  
 明治三十八年三月三十一日 大藏省令第十八號鹽務局出張所名稱位置及管轄區域中左ノ通改正ス  
 明治四十年三月二十五日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

名古屋ノ欄中鹽務局出張所名「蒲郡」ヲ「鹽津」ニ出張所位置「蒲郡町」ヲ「鹽津村」ニ改ム  
 同欄中鹽務局出張所名「豐橋」ヲ「田原」ニ出張所位置「豐橋町」ヲ「田原町」ニ改ム  
 熊本ノ欄中鹽務局出張所名「鏡」ヲ「文政」ニ出張所位置「鏡町」ヲ「文政村」ニ改ム  
 同欄中鹽務局出張所名「阿村」ヲ「柳」ニ出張所位置「阿村」ヲ「中村」ニ改ム

○大藏省令第十一號  
 明治三十九年十一月十一日 大藏省令第四十八號煙草專賣局分工場、煙草收納所出張所、煙草製造所分工場名稱位置中左ノ通變更シ明治四十年四月一日ヨリ實施ス

明治四十年三月二十七日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

煙草製造所名	名	稱	位
大阪煙草製造所	和歌山分工場	高田分工場	和歌山縣和歌山市
	高知分工場	高知分工場	奈良縣高知郡高田町
	姫路分工場	兵庫縣飾磨郡國府村	高知縣高知市
岡山煙草製造所	高梁分工場	岡山縣上房郡高梁町	
	久世分工場	岡山縣真庭郡久世町	
	中津井分工場	岡山縣上房郡中津井村	
	井原分工場	岡山縣後月郡井原町	

○大藏省令第十二號  
 明治二十年大藏省令第十號國稅徵收法施行細則中左ノ通改正ス  
 明治四十年三月二十八日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎  
 第六條ヲ第六條ノ一トシ同條第二項中「督促ヲ爲ス」ノ下ニ「場合ニ於テ金庫ニ納付セム」ヲ加ヘ

第三項ヲ左ノ如ク改ム

納税人督促ヲ受ケ税金及督促手数料ヲ收税官吏ニ納付スヘキトキハ納税告知書ヲ添付シ金庫ニ納付スヘキトキハ納税告知書及納付書ヲ添付スヘレ但レ金庫ニ納付スヘキ場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ納税告知書ヲ添付スルコトヲ要セス

第六條ノ二 前條督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ收税官吏ハ市町村ノ發シタル納税告知書ヲ以テ税金ヲ領收スルコトヲ得

第一號書式備考第四ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
五 收税官吏ニ於テ税金ノ領收ヲ爲ストキ督促手数料ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本書中ニ科目金額ヲ併記シ第八號書式納付書ヲ省略スルコトヲ得但レ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此限ニアラス

第三號書式備考第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

二 收税官吏本書ヲ以テ税金ノ領收ヲ爲ストキ督促手数料ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本書中ニ科目金額ヲ併記シ第八號書式納付書ヲ省略スルコトヲ得但レ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此限ニアラス

第八號書式備考中「款項目」ヲ「科目」ニ改ム

〔參照〕

大藏省令第十號國稅徵收法施行規則(明治三十年六月二十六日)依據  
第六條 税金納付ノ督促ヲ爲ストキハ稅務署長ハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘレ  
前項ノ督促狀ヲ爲ストキハ第七號書式第八號書式ノ納付書ヲ添付スヘレ但レ收税官吏ノ納税告知書ヲ發シタル税金ニ係ルトキハ第七號書式ノ納付書ヲ添付スルヲ要セス  
納税人督促ヲ受ケ税金及督促手数料ヲ金庫ニ納付セムトキハ納税告知書及納付書ヲ添付スヘレ但レ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ納税告知書ヲ添付スルヲ要セス

○大藏省令第十三號

明治四十年一月一號舊山陽鐵道株式會社社債ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十年三月二十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第三條中第五十一條ノ下ニ第五十六條乃至ヲ加フ

〔參照〕

大藏省令第一號政府ノ承認シタル山陽鐵道株式會社社債ニ關スル規程(明治四十年一月二十一日)依據  
第三條 國債規則第八條第十三條第一項第十六條乃至第十八條第四十八條乃至第五十一條第五十八條及明治三十九年大藏省令第二十五號ノ規定ハ舊山陽鐵道株式會社社債ニ之ヲ準用ス

○大藏省令第十四號

帝國大學特別會計規則並學校及圖書館特別會計規則ニ據リ同會計ニ要スル諸書類帳簿等ノ様式左ノ通相定ム

明治四十年三月二十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

- 一 仕拂豫算書、徵收報告書、徵收總報告書、仕拂請求書受領濟額報告書及繰越計算書ノ様式ハ別表第一號乃至第五號書式ニ據ル
- 一 主計簿其ノ他諸帳簿ノ様式ハ別表第六號乃至第十一號書式ニ據ル
- 一 領收證書、現金拂込書及仕拂請求書ノ様式ハ明治二十八年大藏省令第三十二號中第二號第三號及第六號書式ニ準據ス

附則

- 一本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス
- 一明治二十六年大藏省令第二十七號ハ明治二十九年年度限り之ヲ廢止ス

第三項ヲ左ノ如ク改ム

納税人督促ヲ受ケ税金及督促手数料ヲ收税官吏ニ納付スヘキトキハ納税告知書ヲ添付シ金庫ニ納付スヘキトキハ納税告知書及納付書ヲ添付スヘシ但シ金庫ニ納付スヘキ場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ納税告知書ヲ添付スルコトヲ要セス

第六條ノ二 前條督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ收税官吏ハ市町村ノ發シタル納税告知書ヲ以テ税金ヲ領收スルコトヲ得

第一號書式備考第四ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
五 收税官吏ニ於テ税金ノ領收ヲ爲ストキ督促手数料ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本書中ニ科目金額ヲ併記シ第八號書式納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此限ニアラス

第三號書式備考第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

二 收税官吏本署ヲ以テ税金ノ領收ヲ爲ストキ督促手数料ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本書中ニ科目金額ヲ併記シ第八號書式納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ所屬年度ヲ異ニスルトキハ此限ニアラス

〔參照〕

大藏省令第十號國稅徵收法施行規則(明治三十年六月二十六日)抄録  
第六條 税金納付ノ督促ヲ爲ストキハ稅務署長ハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ  
前項ノ督促ヲ爲ストキハ第七號書式第八號書式ノ納付書ヲ添付スヘシ但シ收税官吏ノ納税告知書ヲ發シタル税金ニ係ルトキハ第七號書式ノ納付書ヲ添付スルヲ要セス  
納税人督促ヲ受ケ税金及督促手数料ヲ金庫ニ納付セムトキハ納税告知書及納付書ヲ添付スヘシ但シ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ納税告知書ヲ添付スルヲ要セス

○大藏省令第十三號

明治四十年一月一號舊山陽鐵道株式會社社債ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十年三月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第三條中第五十一條ノ下ニ第五十六條乃至ヲ加フ

〔參照〕

大藏省令第一號政府ノ承認シタル舊山陽鐵道株式會社社債ニ關スル規程(明治四十年一月二十一日)抄録  
第三條 國債規則第八條第十三條第一項、第十六條乃至第十八條第四十八條乃至第五十一條、第五十八條及明治三十九年大藏省令第二十五號ノ規定ハ舊山陽鐵道株式會社社債ニ之ヲ準用ス

○大藏省令第十四號

帝國大學特別會計規則並學校及圖書館特別會計規則ニ據リ同會計ニ要スル諸書類帳簿等ノ様式左ノ通相定ム

明治四十年三月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

- 一 仕拂豫算書、徵收報告書、徵收總報告書、仕拂請求書受領濟額報告書及繰越計算書ノ様式ハ別表第一號乃至第五號書式ニ據ル
- 一 主計簿其ノ他諸帳簿ノ様式ハ別表第六號乃至第十一號書式ニ據ル
- 一 領收證書、現金拂込書及仕拂請求書ノ様式ハ明治二十六年大藏省令第三十二號中第二號第三號及第六號書式ニ準據ス

附則

- 一本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス
- 一 明治二十六年大藏省令第三十七號ハ明治二十九年年度限り之ヲ廢止ス

一目下現存ノ用紙帳簿ニシテ尙ホ使用セ得ヘキモノハ之ヲ取替ヒ當分使用スルモ妨ケナシ  
(別表)

某年度某帝國大學(學校及圖書館)歳出經常部(臨時部)  
仕拂豫算書 第一號書式甲  
仕拂命令官官氏名 何地金庫

科 目		金 額		
款	項	圓	錢	厘
何	何	0	0	
	合計	0		
明治何年何月何日		何省大臣氏名宛		
大藏大臣氏名宛				

備考  
第一考  
帝國大學特別會計規則施行ハレハ此ノ書式甲ニ於テ  
第二考  
左用紙帳簿ニシテ尙ホ使用セ得ヘキモノハ之ヲ取替ヒ當分使用スルモ妨ケナシ

某年度某帝國大學(學校及圖書館)歳出經常部(臨時部)  
仕拂豫算更定計算書 第一號書式乙  
仕拂命令官官氏名 何地金庫

科 目		増 額			減 額		
款	項	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何	0			0		
	合計	0			0		
明治何年何月何日		何省大臣氏名宛					
大藏大臣氏名宛							

第三號書式甲 告書 第何號		某年度某帝國大 明治何年何月分			
收入未済額	現金拂込仕簿	科目		確定額	
		款	項	本月分	前月迄累計
0	前月迄拂込未済 0	何	何	0	0
0	本月中現金領收額 0			0	0
0	合計 0			0	0
	本月中現金拂込高 0				
	送引翌月へ越高 0				
		明治何年何月何日 某帝國大學(某學校又ハ圖書館)			

備考 第一考 學校及圖書館特別會計規則ニ依リ

學(學校及圖書館)歳入經常部(臨時部)				第二號書式 繳收報告書 第何號	
收入済額		不納缺損額		收入未済額	現金拂込仕簿
本月分	前月迄累計	本月分	前月迄累計		
0	0	0	0	0	前月迄拂込未済 0
0	0	0	0	0	本月中現金領收額 0
0	0	0	0	0	合計 0
					本月中現金拂込高 0
					送引翌月へ越高 0
		歳入歳出官氏名			
		備考 第一考 學校及圖書館特別會計規則ニ依リ			



某年度某帝國大學(學校及圖書館)歳出經常部(臨時 明治何年何月分 仕拂請求書受領濟報告書									
款	項	算 額			仕 拂 請 求 書 受 領				
		本月分	前月迄累計	合 計	本月分	前月迄累計			
何	何	0	0	0	0	0			
何	何	0	0	0	0	0			
	合計	0	0	0	0	0			
<p>書面之通 = 付證明有之度候也            明治何年何月何日            何金庫印            仕拂命令官官氏名宛</p> <p>證明ス            明治何年何月何日            仕拂命令官官氏名宛</p> <p>書面之通 = 領也            明治何年何月何日            金庫出納役            日本銀行總裁氏名宛</p>									

部) 第四號書式甲 第何號				學校及圖書 明治何年何月分		
濟 額	預算或額	備 考	名	入 役 官		
				官	氏	名
合計	0	何+0	何學校(圖書館) 何學校	官	氏	名
第一						
第二						
第三						
モツ ノ ト ス						
<p>第一 備考            帝國大學會計規則ニ依リ學校及圖書部會計            規則ニ依リ圖書部會計ニ依リ            本書ハ其年度末マテ進シテ            用紙ハ厚實紙サハ之ニ準ジテ            第三 用紙ハ左側ニ四尺一寸餘ノ            長クモツノトス</p>						
明治何年何月何日 何省大臣						

第五號書式

某年度某  
明治何年何月分

事由	摘要	仕 拂 元 受 高					
		本月分		前月迄累計		合 計	
		圓	圓	圓	圓	圓	圓
何々ノ事出ニヨリ翌年度へ繰越ヲ要ス 何々	翌年度へ繰越 資金へ組入	0		0		0	
		0		0		0	
	合 計	0		0		0	

書面ノ通  
明治何  
仕拂命  
證明ス  
明治  
書面之明

帝國大學(學校及圖書館)歳出  
仕拂請求書受領濟額報告書

第四號書式乙  
第何號

仕拂請求書受領濟額			翌年度へ繰越及資金へ組入額						残	備 考
本月分		前月迄累計	本月分		前月迄累計		合 計			
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓		
0		0		0		0		0		何々 何々 何々
				0		0		0		
0		0		0		0		0		
0		0		0		0		0		

ニ付證明有之度領出  
年何月何日  
何 金 庫 圖  
令官官氏名宛

何年何月何日  
仕拂命令官官氏名宛

通ニ領出  
治何年何月何日  
金庫出納役  
日本銀行總裁氏名宛



某年度某帝國大學(學校及圖書館)歲出經常部(臨時部) 繰越計算書

繰				要				翌年度へ繰越高							
繰算定額		支出額及仕積額		繰算定額不用高		繰越承認済高		要繰越高							
千	百	十	圓	千	百	十	圓	千	百	十	圓	千	百	十	圓
0	0			0	0			0	0			0	0		
0	0			0	0			0	0			0	0		
0	0			0	0			0	0			0	0		

明治 何年 何月 何日  
何省 大臣 氏名 宛

備考  
第一 帝國大學特別會計規則並學校及圖書館特別會計規則ノ繰越計算書ハ此ノ書式ニ據ル  
第二 支出未済トシテ翌年度へ繰越スルモノハ左ノ内ニハ帝國大學特別會計規則第二十一條並學校及圖書館特別會計規則第十六條ニ據リ翌年度四月三十日迄ニ仕積請求書ヲ發セサル金額ヲ掲ケルモノトス  
第三 用紙ハ厚質無沙引英漢紙若クハ之ニ類似ノ料紙ヲ以テ左ノ内ニ曲尺一寸餘ノ幅代ヲ明ク調製スルモノトス

「第六號書式」

「帝國大學(學校及圖書館)主計簿」

- 備考  
第一 帝國大學特別會計規則並學校及圖書館特別會計規則ノ主計簿ハ此ノ書式ニ據リ繰入、繰出及仕積元受ノ三部ニ分テ帝國大學繰入主計簿ハ各帝國大學繰入所收官ノ彙報書ニ依テ登記ス  
第二 學校及圖書館繰入主計簿ハ所管大臣ノ彙報書ニ依テ登記ス  
第三 帝國大學(學校及圖書館)繰出主計簿及帝國大學(學校及圖書館)仕積元受主計簿ハ金庫出納簿ノ仕積請求書受領簿報告書ニ依テ登記ス

明治四十年三月 省令 大藏省第十四號

第六號書式乙									
某帝國大學(學校及圖書館)歲出主計簿									
何々(款)					何々(項)				
年月日	摘要	豫算額		支出 済額	前年度へ 繰越額		豫算 残額		
		□	□		□	□	□	□	
何何何	何年何月決定	0						0	
何何何	何年何月中支出済			0				0	
何何何	前年度ヨリ繰越増加決定		0					0	
何何何	何々ノ事由ニヨリ翌年度へ繰越額					0		0	

明治四十年三月 省令 大藏省第十四號

第六號書式甲									
某帝國大學(學校及圖書館)歲入主計簿									
何々(款)					何々(項)				
年月日	摘要	豫算額		歳入				豫算額卜 定額卜ノ差	
		□	□	確定額	收入済額	不納額	未済額	□	□
何何何	何年何月決定	0		0	0	0	0	0	
何何何	何年何月中			0	0	0	0	0	
何何何	何年何月中決額			0	0	0	0	0	

第七號書式  
歳入徴收官徴收簿  
何々(款) 何々(項)

年月日	摘要	課税額		歳入				課税額ノ別	
		確定額	徴収額	収入額	不納欠損額	収入未済額	確定額	徴収額	
何	何年何月決定	0						0	
何	何月何日確定	0						0	
何	領收		0			0			0
何	何某外何名何々ノ								
何	事由ニヨリ欠損				0				0
何	何々ニ依リ減額								0
	何月分合計	0		0	0				
	同減額合計								

備 考  
第一 第二 第三

帝國大學特別會計規則並學務部及圖書館特別會計規則ノ施行ニ依リ本簿ニ記載スル歳入額ハ其ノ額ノ内ニ於テハ別表ノ規定ニ依リテ徴収スルモノトシテ其ノ徴収額ハ本簿ニ記載スルモノトス

第六號書式丙  
某帝國大學(學校及圖書館)仕拂元受主計簿  
仕拂元受高

年月日	摘要	仕拂元受高		支出済額		翌年度へ繰越及 入金へ記入額		残
		借	貸	借	貸	借	貸	
何	何年何月中収入金	0						
何	何年何月中支出済			0				0
何	翌年度へ繰越					0		0
何	何々資金へ組入					0		0

年月日		摘要	豫算額		仕拂請求書 受領済額		豫算残額	
何	何		圓	角	圓	角	圓	角
何	何	豫算額 仕拂請求書何枚ニテ 「定額戻入」 「更正減額」	0		0	0	0	0
		何月分合計 <small>（戻入及更正戻入合計）</small>	0		0	0	0	0
		備考 第一 帝國大學特別會計規則及附屬特別 第二 仕拂請求書受領済額ハ此ノ書式ニ據ル 第三 主計官仕拂請求書ハ金庫所在地外ニ仕拂請求 トシテ其更正スルハ科目訂正ノ請求ヲ受ケタル トス						

年月日		摘要	豫算額	歳入				豫算額ノ残	
何	何			確定額	收入済額	不納納額	未入済額		
何	何	圓	角	圓	角	圓	角	圓	角
何	何	何年何月決算 何月分何種仕拂請求額	0	0	0	0	0	0	0
		備考 第一 學校及圖書館特別會計規則ノ適用ニ據ル 第二 歳入額ハ歳入徴収官ノ徴収報告書ニ依リ 登録ス							

〔参照〕

明治二十六年七月二日 大藏省令第三十七號ハ會計規則ニ據リ要スル諸報告書格式ノ件ナリ

「出納官吏現金出納簿」 第十一號書式

年月日	摘要	受		拂		残	
		圓	角	圓	角	圓	角
何	何	0					
何	何	0				0	
何	何			0			0
	何月分合計	0		0			

備考  
帝國大學特別會計規則並學校及圖書館特別會計規則ノ現金出納簿ハ此ノ書式ニ據ル

「金庫出納役仕拂元受高差引簿」 第十號書式  
仕拂命令官兵名 何地金庫

年月日	摘要	仕拂元受高		仕拂額		仕拂元受高ト仕拂額間ノ差		仕拂元受高ト仕拂額間ノ差	
		圓	角	圓	角	圓	角	圓	角
何	何	0							
何	何			0					
何	何			0					
何	何			0					
何	何			0					
何	何			0					
何	何			0					
	何月分合計	0		0					

備考  
帝國大學特別會計規則並學校及圖書館特別會計規則ノ仕拂元受高差引簿ハ此ノ書式ニ據ル

○大藏省令第十五號

明治三十八年大藏省令第四號煙草賣捌規則中左ノ通改メ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

明治四十年三月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第二十條第二項中若クハ其營業ヲ廢止シノ十字ヲ削ル  
第二十四條第二項中若クハ其營業ヲ廢止シノ九字ヲ削ル

〔參照〕

大藏省令第四號煙草賣捌規則(明治三十八年二月四日)抄録

第二十條第二項

煙草元賣捌人死シ其營業ヲ承繼スルモノナキトキ又ハ其指定ヲ取消サレ若クハ其營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ煙草賣捌局長ノ指定シタル煙草賣捌所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草賣捌所ニ之レカ買戻ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於ケル買戻價格ハ現行價格ヨリ煙草元賣捌人ヘノ現行割引率ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第二十四條第二項

煙草小賣人死シ其營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其指定ヲ取消サレ若クハ其營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ其買戻先ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ第一條第三項ニ依リ政府ヨリ買戻價額シタル製造煙草ノ買戻シ價格ハ煙草小賣人ヘノ現行買戻價格ヲ以テス

○大藏省令第十六號

韓國森林特別會計規則ニ據リ同會計ニ要スル諸書類帳簿等ノ様式左ノ通相定ム

明治四十年三月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

一 仕拂豫算計算書ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第四號書式ニ準據ス  
一 領收證書、現金拂込書、仕拂請求書ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第二十號第二十一號及第二十二號乃至第二十四號書式ニ準據ス

一 徵收報告書、徵收合計表、金庫出納役仕拂請求書、受領濟額報告書ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號中第五號第六號及第七號書式ニ準據ス  
一 繰越計算書ノ様式ハ明治二十六年大藏省令第三十二號中第八號書式ニ準據ス  
一 主計簿其ノ他諸帳簿ノ様式ハ明治二十三年大藏省令第九號書式ニ準據ス

附 則

本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第十七號

關東都督府及樺太廳特別會計規則ニ據リ同會計ニ要スル諸書類帳簿等ノ様式左ノ通相定ム

明治四十年三月三十日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

一 仕拂豫算計算書ノ様式ハ明治二十六年大藏省令第三十二號中第一號書式ニ準據ス  
一 領收證明金拂込書、領收證書及通知書ノ様式ハ明治二十六年大藏省令第三十二號中第二號及第三號書式ニ準據ス

一 徵收報告書、徵收總報告書、仕拂命令、金庫出納役仕拂命令、受領濟額報告書及繰越計算書ノ様式ハ明治二十六年大藏省令第三十二號中第四號乃至第八號書式ニ準據ス  
一 主計簿其ノ他諸帳簿ノ様式ハ明治二十六年大藏省令第三十二號書式ニ準據ス

附 則

本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍省令第三號

陸軍召集規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月六日

陸軍大臣寺內正毅

第五十一條中半特待生ノ下「初度被服料金十圓」ヲ「初度被服料金十五圓」ニ「每月納金三圓二十五錢」ヲ「每月納金四圓」ニ自費生ノ下「初度被服料金三十圓」ヲ「初度被服料金三十五圓」ニ「每月納金六圓五十錢」ヲ「每月納金七圓」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍省令第四號

明治四十年勅令第四號陸軍將校乘馬令及同年勅令第五十九號陸軍給與令中改正ノ件ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月三十日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第五號

陸軍旅費規則中左ノ通改正シ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月三十日

陸軍大臣寺內正毅

第二條中「及手當ノ八種」ヲ「手當及支度料ノ九種」ニ改ム

第三條第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

支度料ハ樺太清國滿洲ヲ含ム韓國ニ出費スルトキ之ヲ給ス

第四條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項中「停止スルコトアルヘシ」ヲ「停止シ又ハ旅費額ヲ定メ月額若ハ日額ヲ以テ支給スルコトアルヘシ」ニ改ム

要塞備附小蒸氣船又ハ舢舨ヲ以テ當該要塞地内ヲ航行スル者船員ヲ及憲兵書寫勤務執行上要塞附近ヲ舟行スル者ニハ日當ヲ給セス

第八條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ「移轉料」ヲ「移轉料」ニ改ム

三里未滿ノ地ニ旅行スル者ニ在リテハ旅費ヲ給セス三里以上四里未滿ノ地ニ在リテハ旅行ノ種類ニ依リ旅費ヲ給セス但シ旅費ヲ給セサル場合ト雖汽車路又ハ水路旅行ニ在リテハ一哩又ハ一海里以上汽車賃船賃ヲ給ス

前項路程ハ汽車路ニ在リテハ二哩水路ニ在リテハ二海里ヲ以テ一里ニ計算シ其ノ距離ノ滿未滿ヲ定ムヘシ各種ノ路程相跨ルトキ亦同シ

第十二條第三項中「臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ加フ

第二十二條第一項中「臺灣清國韓國守備隊定期交代」ヲ「臺灣樺太清國韓國駐紮隊交代」ニ改メ第七項中「臺灣ニ於ケル草賊鎮定」ヲ「臺灣樺太清國韓國内ニ於テ匪徒鎮定等」ニ改ム

第二十五條中「臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ加フ

第三十條中「臺灣」ノ下ニ「樺太清國及韓國」ヲ加ヘ第一號ノ但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ在職地ヨリ三里未滿ノ地ニ到ル旅行ニ在リテハ第八條ニ依ル

第三十一條第一項第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項中「臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ加フ

臺灣内ノ旅行召集ヲ除クニ在リテハ第十一表樺太清國及韓國内ノ旅行ニ在リテハ第十四表ノ旅費ヲ給ス其ノ隊伍ヲ爲ス者又ハ護送員ヲ附スル患者ニ在リテハ實費支辨トス但シ第二十九條ノ場合ニ於ケル三十一日以後ノ滞在旅費ハ臺灣ニ在リテハ第一表ノ宿泊料、樺太清國及韓國ニ在リテハ第十四表宿泊料ノ額ニ依ル

内地臺灣ヲ含ムト樺太清國韓國間ノ旅費ハ内地ニ於ケル最後ノ寄港地拔錨ノ日ヨリ又ハ内地内地項中以下同シ

ニ於ケル最初ノ寄港地投錨ノ日迄第十四表ニ依ル  
 臺灣總督關東都督韓國駐節軍司令官清國駐屯軍司令官樺太守備隊司令官ハ旅費ノ定額ヲ減少レ  
 又ハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得  
 准士官以上外宿加俸ヲ受ケル下士以下及軍屬ニシテ樺太清國及韓國駐節部隊附トナリ赴任スル  
 者ニハ第十五表ノ支度料ヲ同地ニ出張スル者ニハ其ノ半額ヲ給ス但シ左ノ場合ハ之ヲ給セス  
 一 自己ノ請願ニ依リ免セラレタルトキ  
 二 臺灣樺太清國韓國相互間轉任又ハ出張ノトキ但シ臺灣ヨリ轉任ノ場合ニ在リテハ支度料ト  
 既ニ受ケタル旅行手當トノ差額ヲ給ス  
 三 支給後一箇年以内ニ於テ内地ヨリ再赴任官休職解職等ノ者ニシテ再任又ハ出張ノトキ但  
 シ支度料ノ半額ヲ受ケタル者ニシテ一箇年以内ニ赴任又ハ再出張スルトキハ更ニ支度料ノ  
 半額ヲ給ス  
 四 臺灣島及澎湖島駐節陸軍部隊給與規則又ハ陸軍戰時給與規則ニ依リ手當金ヲ受ケタル者ニ  
 シテ一箇年以内ニ於テ内地ヨリ赴任又ハ出張スルトキ但シ支度料ノ額既ニ受ケタル手當金  
 ノ額ヨリ多キトキハ其ノ差額ヲ給ス  
 支度料ヲ受ケヘキ者ニシテ出張前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ旅行ヲ免レタルトキハ其ノ半額ヲ給ス  
 前項支度料ヲ受ケタル者ニシテ一箇年以内ニ更ニ赴任又ハ出張スル場合ニハ受ケヘキ支度料ト  
 既ニ受ケタル支度料トノ差額ヲ給ス  
 第三十二條 囑託者ヲ任用又ハ用務ノ爲旅行セシムル場合ノ旅費ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス  
 一 陸軍以外ノ在官者ハ一般ノ旅費規定ニ依リ其ノ官級ノ額但シ支度料ニ關シテハ本規則ニ依ル  
 二 在官者ニ非スシテ突任官ノ職務ヲ執ル者ハ士官ノ額其ノ他ノ者ハ下士ノ額

第三十五條 削除

第一表備考中「都督」ヲ削リ「士官」ノ下ニ「准士官」ヲ加フ

第二表及第五表ノ各備考中「都督」ヲ削リ

第八表中「臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ加フ

第十一表中「清國及韓國」及備考中「都督」並第四項ヲ削リ

第十二表 削除

第十三表中「臺灣測量旅費」ヲ「臺灣樺太清國及韓國測量旅費」ニ少佐ヲ「佐官」ニ改メ又備考第三號  
 ヲ内地ヨリ臺灣樺太清國韓國ニ渡航スル場合ニ在リテハ第一表若ハ第十四表ニ依リ本表ノ旅費  
 ハ之ヲ支給セスニ改メ左ノ二號ヲ加フ  
 四 樺太清國韓國ニ在リテハ本表ノ二割ヲ増給ス

第十四表 樺太清國韓國旅費

階級	區分	汽車賃		船賃		車馬賃		宿泊料		日當		食料	
		一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
大將	親任官	樺太	清國	一等	一等	一圓十錢	七錢	四圓	三圓	一圓	七錢	一圓	七錢
將官	高等官一等	樺太	清國	一等	一等	八圓	五錢	三圓	二圓	一圓	五錢	一圓	五錢
同相當官	同三等以下	樺太	清國	一等	一等	六圓	三錢	二圓	一圓	一圓	三錢	一圓	三錢
上長官	同五等以上	樺太	清國	一等	一等	六圓	三錢	二圓	一圓	一圓	三錢	一圓	三錢
士官	同六等以下	樺太	清國	一等	一等	六圓	三錢	二圓	一圓	一圓	三錢	一圓	三錢
准士官	試補	樺太	清國	一等	一等	四圓	三錢	一圓	七錢	一圓	三錢	一圓	三錢
下士	判任官	樺太	清國	二等	二等	四圓	三錢	一圓	七錢	一圓	三錢	一圓	三錢



兵卒	大尉	大尉	三等定償	三等定償	三十	三十	六十
	中尉	中尉	三等定償	三等定償	三十	三十	六十
備	一	參謀總長教育總監ノ職ニ在ル中尉ハ大尉ノ額ニ依ル					
	二	官用宿舍ニ宿泊セシムルトキハ宿泊料ヲ給セス但シ官署ヨリ歸リテ爲サルトキハ宿泊料トシテ食料ニ相當スル額ヲ給ス					
三	士官候補生主計候補生見習士官見習主計見習醫官見習藥劑官見習獸醫官ハ下士ノ額ニ依ル						

第十五表 支度料

名	階級	金額	名	階級	金額
大尉	任官	六百圓	大尉	任官一等	四百圓
中尉	同官一等	三百五十圓	中尉	任官二等	二百八十圓
少尉	同官二等	三百圓	少尉	任官三等	二百七十圓
大佐	同官三等	二百五十圓	大佐	任官四等	二百五十圓
中佐	同官四等	二百三十圓	中佐	任官五等	二百五十圓
少佐	同官五等	二百圓	少佐	任官六等	二百五十圓
大尉	同官六等	百六十圓	大尉	任官七等	二百五十圓
中尉	同官七等	百四十圓	中尉	任官八等	二百三十圓
少尉	同官八等	百二十圓	少尉	任官九等	二百三十圓

附則

樺太清國韓國ニ赴任又ハ出張スル者ニシテ清國駐劄陸軍部隊給與令ニ依リ旅行手當又ハ明治三十九年省令第十二號ニ依リ支度料ヲ受ケタル後一箇年以内ナルトキハ支度料ヲ給セス但シ支度料ノ額既ニ受ケタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額ヲ給ス

○海軍省令第一號

明治三十九年海軍省令第三號中左ノ通改正ス

海軍大臣齋藤實

第一項中「内地」ノ下ニ「若ハ臺灣」ヲ加フ  
第五項ヲ左ノ如ク改ム

准士官以上、候補生及軍屬關東州、樺太島北緯五十度以南ノ地及在韓國海軍ノ部隊官衙所在地ニ出張スル場合ニ於テ特ニ支度料ノ支給ヲ必要トスルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ准士官以上、候補生及士官ニ在リテハ前項ノ半額、雇員備人ニ在リテハ月給ノ者ニハ月給半額、日給ノ者ニハ日給十五日分ニ相當スル額ヲ支給スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

海軍省令第三號(明治三十九年七月三日)抄録

第一項及第五項

海軍軍人軍團内地ヨリ關東州、樺太島北緯五十度以南ノ地及在韓國海軍ノ部隊官衙所在地ニ旅行シ又ハ之ヨリ内地ニ旅行  
スルトキ該關東州内、樺太島北緯五十度以南ノ地内、在韓國海軍ノ部隊官衙所在地内ヲ旅行シ又ハ其ノ各地間ヲ旅行スル  
トキハ當分ノ内海軍内國旅費規則ニ準據シ旅費ヲ支給ス  
准士官以上、候補生及文官關東州、樺太島北緯五十度以南ノ地及在韓國海軍ノ部隊官衙所在地ニ出張スル場合ニ於テ特  
支度料ノ支給ヲ必要トスルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ前項ノ半額ヲ支給スルコトヲ得

○海軍省令第二號

旅順鎮守府ニ於テ購買スル白米及割麥供給ノ競争入札者ニハ當分ノ内明治三十三年海軍省令第九  
號ヲ適用セサルコトヲ得

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

明治四十年三月十九日

海軍大臣齋藤實

○海軍省令第三號

明治三十四年海軍省令第十二號ハ明治四十年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治四十年三月十九日

海軍大臣齋藤實

〔參照〕

明治三十四年十一月海軍省令第十二號ハ旅順鎮守府ニ於テ購買スル白米及割麥供給ノ競争入札ニ關スル件ナリ

○司法省令第六號

登記管轄區域表中左ノ通改正ス

東京地方裁判所ノ部八王子區裁判所田無出張所ノ管轄欄中「東村山村」ノ次ニ「保谷村」ヲ加フ  
浦和地方裁判所ノ部浦和區裁判所大和田出張所ノ管轄欄中「保谷村」ヲ削ル

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月十八日

司法大臣松田正久

○司法省令第七號

登記管轄區域表中左ノ通改正ス

岡山地方裁判所ノ部高梁區裁判所ノ管轄欄中「大和村」ノ次ニ「水内村」下「倉村」ヲ加フ  
同地方裁判所ノ部玉島區裁判所岡田出張所ノ管轄欄中「下倉村」水内村ヲ削ル

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月十九日

司法大臣松田正久

○司法省令第八號

明治二十六年司法省令第五號監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守及女監取締ノ定員中左ノ通改正ス

明治四十年三月二十一日

司法大臣松田正久

「百九十八人」ヲ「百九十九人」ニ改ム

「百七十八人」ヲ「百七十九人」ニ改ム

「八千三百〇七人」ヲ「八千三百二十二二人」ニ改ム

「四百二十五人」ヲ「四百二十七人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十六年六月司法省令第五號中百九十八人ハ監獄醫、百七十八人ハ教師、八千三百〇七人ハ看守、四百二十五人ハ女監取締ノ定員ナリ

○司法省令第九號

登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十年三月三十日

司法大臣松田正久

静岡地方裁判所ノ部藤枝區裁判所徳山出張所ノ管轄欄ヲ左ノ如ク改ム

駿河	志太郡ノ内 徳山町	東川根村
遠江	藤原郡ノ内 中川根村	上川根村

同地方裁判所ノ部掛川區裁判所金谷出張所ノ管轄欄中「上川根村」「中川根村」ヲ削ル  
附則  
本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○文部省令第五號

明治二十九年文部省令第十七號公立私立齒科醫學校指定規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月四日

文部大臣牧野伸顯

第二條第四號中「齒科技術學」ヲ「齒科技工學」ニ改ム

○文部省令第六號

明治二十二年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月二十五日

文部大臣牧野伸顯

第二條第二項中「近易ナル」ヲ削ル

第四條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

尋常小學校ニ於テハ初ハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數ヘ方書キ方及加減乗除ヲ授ケ漸ク其ノ範圍ヲ擴メテ百以下ノ數ニ及ホシ更ニ進ミテ通常ノ加減乗除竝ニ小數、諸等數及簡易ナル分數、歩合算ヲ授ケヘシ

高等小學校ニ於テハ分數、歩合算ヲ授ケ比例ニ及ホシ學校ノ修業年限ニ應シ更ニ求積ヲ授ケ又土地ノ情況ニ依リテハ日用簿記ノ大要ヲ授ケヘシ

第五條第二項ヲ左ノ二項ニ改ム

尋常小學校ニ於テハ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來、外國トノ關係等ノ大要ヲ授ケ以テ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ知ラシムヘシ

第六條第二項ヲ左ノ二項ニ改ム

尋常小學校ニ於テハ本邦ノ地勢、氣候、區劃、都會、產物、交通等竝ニ地球ノ形狀、運動等ノ大要ヲ理會セシメ且韓國及滿洲地理ノ大要ヲ授ケ兼テ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ニ關スル簡單ナル知識ヲ得シムヘシ

高等小學校ニ於テハ各大洲ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヨリ進ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ大要及本邦ノ政治經濟上ノ狀態竝ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑ヲ授ケヘシ

第七條第二項ヲ左ノ二項ニ改ム

尋常小學校ニ於テハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒童ノ目擊シ得ル事項ヲ授ケ

特ニ重要ナル植物、動物、礦物ノ名稱、形狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラレメ又通常ノ物理化學上ノ現象及人身生理ノ初步ヲ授クヘシ  
高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ特ニ重要ナル元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身ノ生理衛生ノ大要ヲ授ケ兼テ植物、動物、礦物ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシムヘシ

第八條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

尋常小學校ニ於テハ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形體ニ及ホシ實物若ハ手本ニ就キ又時時自己ノ工夫ヲ以テ畫カレムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ諸般ノ形體ヲ畫カレムヘシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトヲ得

第九條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

尋常小學校ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ授クヘシ又便宜簡易ナル複音唱歌ヲ授クルコトヲ得

第十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

尋常小學校ニ於テハ初ハ適宜ニ遊戲ヲ爲サシメ漸ク普通體操ヲ加ヘ又男兒ニハ兵式體操ヲ加ヘ授クヘシ

第十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

尋常小學校ニ於テハ運針法ヨリ始メ漸ク通常ノ衣類ノ縫ヒ方ヲ授ケ又便宜裁キ方、縫ヒ方等ヲ

授クヘシ

第十七條第一項但書ヲ削リ第二項ヲ左ノ二項ニ改ム

手工ヲ加フルトキハ第一學年、第二學年ニ於テ圖畫ヲ課スルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ每週教授時數ヲ減シ之ニ充ツヘシ

唱歌ヲ關クトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得

第十八條第一項中乃至第七號表ヲ又ハ第八號表ニ改メ第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

手工、農業、商業ノ二科目ヲ關クトキハ學校長ニ於テ第一學年、第二學年ノ男兒ニ就キテハ每週二時、第三學年ノ男兒ニ就キテハ每週四時ヲ他ノ教科目ニ配當スヘシ

英語ヲ加フルトキハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ每週教授時數中ヨリ二時以下ヲ減シ之ニ充ツヘシ

第十九條第一項第一號中「二十八時」ヲ「三十時」ニ、第二號中「三十時」ヲ「三十二時」ニ改ム

第二十九條第二項中「此ノ場合ニ在リテハ府縣知事ハ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ」ヲ削ル

第三十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第四十條中「代用私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ」ヲ削ル

第四十八條第一項中「及教授時間」ヲ「教授時間及每週教授時數」ニ改メ第二項ヲ削ル

第五十二條中「第四十八條第一項」ヲ「第四十八條」ニ改ム

第五十三條但書中「尋常小學校」ノ下ニ「第四學年以下」ヲ加フ

第九十七條 削除

第八條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關クコトヲ得

第九條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ農業、商業及體操中ノ兵式體操ハ男子ニ限リ裁縫ハ女子ニ限ル

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ讀讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 普通體操及兵式體操

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

手工 手工ノ大要

農業 農業ノ大要

商業 商業ノ大要

圖畫、音樂、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關クコトヲ得

第十條第二項中「試驗ハ」下ニ「教育ノ大要及」ヲ加フ

第十一條 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ體操中ノ兵式體操ハ男子ニ限リ裁縫ハ女子ニ限ル

修身 道德ノ要旨

教育 教育、教授法及學校管理法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ讀讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 普通體操及兵式體操

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

音樂ハ之ヲ關クコトヲ得

第十二條 尋常小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ體操中ノ兵式體操ハ男子ニ限ル

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文習字  
算術 整數分數、小數、諸等數、歩合算、比例  
歷史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要  
理科 博物、物理、化學ノ初步

圖畫 簡易ナル自在畫  
唱歌 單音唱歌

體操 普通體操及兵式體操

圖畫、唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ關クコトヲ得

第百十三條第二號中「他ノ府縣ニ於テ授與シタル」ヲ削ル

第百十四條第二項中「三箇年以内ニ」ヲ削ル

第百十六條 府縣知事又ハ高等師範學校長、女子高等師範學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ其ノ成績佳良ナル者ニ就キ普通免許狀ヲ授與シ文部大臣ニ申請スルコトヲ得

一 小學校正教員府縣免許狀ヲ有シ十箇年以上市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者

二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校ヲ卒業シ三箇年以上市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シ三箇年以上

市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者

第百五十九條中「三十時」ヲ「二十二時」ニ改ム

第百七十六條 特別ノ事情アル市町村又ハ町村學校組合ニ於テハ他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ府縣知事、其ノ他ノ兒童ニ就キテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ期限ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第百八十三條第八號中「第三項」ヲ「第二項」ニ改メ第十一號ヲ削ル  
第八章 削除

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二十九條第二項、第三十一條、第四十條、第四十八條、第五十二條、第九十七條、第百十六條、第百七十六條、第百八十三條及第八章ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

明治四十年勅令第五十二號附則第四項ノ教科目ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

地理ノ教授ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ニ依リ編纂シタル教科用圖書ヲ使用スル間ハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際存在スル補習科ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令施行前第百十四條第一項ニ依リ授與シタル證明書ノ效力ハ仍從前ノ規定ニ依ル

市町村又ハ町村學校組合ハ當分ノ内府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ徵收スル授業料額ノ範圍内ニ於テ尋常小學校第五學年及第六學年ノ授業料額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

教育 教授法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文習字  
算術 整數分數小數諸等數歩合算比例

歷史 日本歷史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ初步

圖畫 簡易ナル自在畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操及兵式體操

圖畫唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ關クコトヲ得

第百十三條第二號中、他ノ府縣ニ於テ授與シタルヲ削ル

第百十四條第二項中「三箇年以内ニ」ヲ削ル

第百十六條 府縣知事又ハ高等師範學校長、女子高等師範學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ其ノ成績佳良ナル者ニ就キ普通免許狀ノ授與ヲ文部大臣ニ申請スルコトヲ得

一 小學校正教員府縣免許狀ヲ有シ十箇年以上市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者

二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校ヲ卒業シ三箇年以上市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シ三箇年以上

市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者

第百五十九條中「三十時」ヲ「二十二時」ニ改ム

第百七十六條 特別ノ事情アル市町村又ハ町村學校組合ニ於テハ他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ府縣知事、其ノ他ノ兒童ニ就キテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ期限ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超ニタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第百八十三條第八號中「第三項」ヲ「第二項」ニ改メ第十一號ヲ削ル

第八章 削除

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス但シ第二十九條第二項、第三十一條、第四十條、第四十八條、第五十二條、第九十七條、第一百十六條、第一百七十六條、第一百八十三條及第八章ノ改正ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

明治四十年勅令第五十二號附則第四項ノ教科目ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

地理ノ教授ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ニ依リ編纂シタル教科用圖書ヲ使用スル間ハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際存在スル補習科ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令施行前第百十四條第一項ニ依リ授與シタル證明書ノ效力ハ仍從前ノ規定ニ依ル

市町村又ハ町村學校組合ハ當分ノ内府縣知事ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ徵收スル授業料額ノ範圍内ニ於テ尋常小學校第五學年及第六學年ノ授業料額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

收スル授業料額ノ範圍内ニ於テ尋常小學校第五學年及第六學年ノ授業料額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

收スル授業料額ノ範圍内ニ於テ尋常小學校第五學年及第六學年ノ授業料額ヲ定メ之ヲ徵收スルコトヲ得

トヲ得  
 明治四十年勅令第五十二號附則第二項ニ依リ存續スル代用私立小學校ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル  
 明治四十年勅令第五十二號附則第三項ニ依ル尋常小學校ノ兒童ノ學籍簿ハ仍從前ノ様式ニ依ルコ  
 トヲ得

第四號表

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
修身	二 道徳ノ要旨	二 道徳ノ要旨	二 道徳ノ要旨	二 道徳ノ要旨	二 道徳ノ要旨	二 道徳ノ要旨
國語	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文
算術	一 二十以下ノ數 二 十以上二十以下ノ數 三 十以上二十以下ノ數	一 百以下ノ數 二 十以上百以下ノ數 三 十以上百以下ノ數	一 十以上百以下ノ數 二 十以上百以下ノ數 三 十以上百以下ノ數	一 十以上百以下ノ數 二 十以上百以下ノ數 三 十以上百以下ノ數	一 十以上百以下ノ數 二 十以上百以下ノ數 三 十以上百以下ノ數	一 十以上百以下ノ數 二 十以上百以下ノ數 三 十以上百以下ノ數
日本歴史					一 日本歴史ノ大要	一 日本歴史ノ大要
地理					一 日本地理ノ大要	一 日本地理ノ大要

第五號表

科目	第一學年	第二學年
理科	一 植物及動物ノ観察 二 植物及動物ノ観察 三 植物及動物ノ観察	一 植物及動物ノ観察 二 植物及動物ノ観察 三 植物及動物ノ観察
國語	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文	一 假名及近邊ノ音 二 假名及近邊ノ文字 三 假名及近邊ノ文
唱歌	一 平調ノ歌 二 平調ノ歌 三 平調ノ歌	一 平調ノ歌 二 平調ノ歌 三 平調ノ歌
體操	一 普通體操 二 普通體操 三 普通體操	一 普通體操 二 普通體操 三 普通體操
遊戯	一 普通遊戯 二 普通遊戯 三 普通遊戯	一 普通遊戯 二 普通遊戯 三 普通遊戯
算術	一 二十以下ノ數 二 十以上二十以下ノ數 三 十以上二十以下ノ數	一 十以上百以下ノ數 二 十以上百以下ノ數 三 十以上百以下ノ數
日本歴史		一 日本歴史ノ大要
地理		一 日本地理ノ大要



國語	算術	日本歴史	地理	理科	唱歌	體操	縫製	手工	農業	商業	英語	計
八	四	三	三	二	二	三	四	二	二	二		女男 三三三 二〇〇八
日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方書キ方	歩合算 珠算 加減乗除	日本歴史ノ大要	外國地理ノ大要	植物動物礦物及自然ノ現象 通常ノ物理化學上ノ現象 元素及化合物ノ構造作用 人身生理衛生ノ大要	單音唱歌 (簡易ナル複音唱歌)	普通體操 遊藝 男 兵式體操	通常ノ衣服ノ縫ヒ方裁チ方 縫ヒ方	簡易ナル細工	農事 農事ノ大要 水産 水産ノ大要	商業ノ大要		讀ミ方書キ方 讀ミ方話シ方
八	四	三	三	二	二	三	四	二	二	二		女男 三三三 二〇〇八
日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方書キ方	比例 (珠算 加減乗除)	前學年ノ履キ	地理ノ補習	自然ノ現象 通常ノ物理化學上ノ現象 元素及化合物ノ構造作用 人身生理衛生ノ大要	踏鼓ノ形體 (簡易ナル複音唱歌)	普通體操 遊藝 男 兵式體操	通常ノ衣服ノ縫ヒ方裁チ方 縫ヒ方	簡易ナル細工	農事 農事ノ大要 水産 水産ノ大要	商業ノ大要		讀ミ方書キ方 讀ミ方話シ方
八	四	三	三	二	二	三	四	二	二	二		女男 三三三 二〇〇八
日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方書キ方	比例 (珠算 加減乗除)	前學年ノ履キ	地理ノ補習	理科ノ補習	踏鼓ノ形體 (簡易ナル複音唱歌)	普通體操 遊藝 男 兵式體操	通常ノ衣服ノ縫ヒ方裁チ方 縫ヒ方	簡易ナル細工	農事 農事ノ大要 水産 水産ノ大要	商業ノ大要		讀ミ方書キ方 讀ミ方話シ方

第六號表

(一)及英語ノ各欄ハ朱書トス

修身	國語	算術	日本歴史	地理	理科	唱歌	體操	縫製	手工
二	八	四	三	三	二	二	三	四	二
道徳ノ要旨	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方書キ方	歩合算 珠算 加減乗除	日本歴史ノ大要	外國地理ノ大要	植物動物礦物及自然ノ現象 通常ノ物理化學上ノ現象 元素及化合物ノ構造作用 人身生理衛生ノ大要	單音唱歌 (簡易ナル複音唱歌)	普通體操 遊藝 男 兵式體操	通常ノ衣服ノ縫ヒ方裁チ方	簡易ナル細工
二	八	四	三	三	二	二	三	四	二
道徳ノ要旨	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方書キ方	比例 (珠算 加減乗除)	前學年ノ履キ	地理ノ補習	自然ノ現象 通常ノ物理化學上ノ現象 元素及化合物ノ構造作用 人身生理衛生ノ大要	踏鼓ノ形體 (簡易ナル複音唱歌)	普通體操 遊藝 男 兵式體操	通常ノ衣服ノ縫ヒ方裁チ方	簡易ナル細工
二	八	四	三	三	二	二	三	四	二
道徳ノ要旨	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方書キ方	比例 (珠算 加減乗除)	前學年ノ履キ	地理ノ補習	理科ノ補習	踏鼓ノ形體 (簡易ナル複音唱歌)	普通體操 遊藝 男 兵式體操	通常ノ衣服ノ縫ヒ方裁チ方	簡易ナル細工

計	英	商	農
	英	商	農
計	英	商	農
計	英	商	農

第十號表

(一)及英語ノ各欄ハ朱書トス

氏名	生年月日	學業成績	在學中出席及缺席	身體ノ狀況	住所			
					入學年月日	入學階級	卒業年月日	退學年月日
					保 護 者			
					名	氏	職	住

考 備	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年

○文部省令第七號 備考 學校醫ヲ置カサル學校ニ於テハ身體ノ狀況ハ之ヲ問フコトヲ得

○文部省令第十三號 東京外國語學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究學生、選科生、專修科及速成科ニ關スル規程ヲ東京外國語學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究學生、選科生及專修科ニ關スル規程ト改メ且同規程中第七條ヲ削除ス

明治四十年四月一日ヨリ施行ス

文部大臣 牧野伸顯

〔參照〕

文部省令第十三號 東京外國語學校修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究學生、選科生、專修科及速成科ニ關スル規程(明治三十七年五月三十一日抄録)

第七條 實用ヲ主トシテ英語、漢語、三語學ヲ學修セントスル者ノ爲ニ速成科ヲ置ク

速成科ノ修業年限ハ一箇年トス其ノ每週教授時數ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ムヘシ

○農商務省令第一號 種禽種卵拂下規程左ノ通相定ム

明治四十年三月二日

農商務大臣 松岡康毅

種禽種卵拂下規程

第一條 種禽及種卵ヲ拂受ケムト欲スル者ハ第一號様式ノ願書ニ依リ種牛牧場長ニ出願スヘシ

第二條 拂下クヘキ種禽及種卵ノ種類ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第三條 拂下クヘキ種禽及種卵ノ代金左ノ如シ

一種禽	孵化後二箇月以上 三箇月未満ノモノ	一羽ニ付	金二圓五十錢以内
一種卵	孵化後三箇月以上 四箇月未満ノモノ	同	金二圓五十錢以内
一種卵	孵化後四箇月以上ノモノ	同	金三圓乃至七圓
一種卵		一箇ニ付	金十五錢以内

第四條 出願者一人ニ拂下クヘキ種禽及種卵ハ一回ニ付各一種類トシ種禽ニ在リテハ雄二羽雌二羽ヲ種卵ニ在リテハ六箇ヲ超ニルコトヲ得ス

種牛牧場長ハ政府ノ設立シタル學校及農事試驗場、道廳、府縣、郡、市町村又ハ之ニ準スヘキモノ又ハ其ノ設立シタル學校、農事試驗場、農事講習所、種畜場及農會ノ出願其ノ他公益事業ノ爲必要ナリト認メタル出願ニ對シテハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五條 種牛牧場長出願ヲ許可シタルトキハ種禽及種卵ノ種類、數量、代金及其ノ納付期限並引渡ノ期間ヲ指定シ之ヲ出願者ニ通知スヘシ

出願者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ代金納付期限迄ニ拂下代金ニ相當スル收入印紙ヲ第二號様式ニ依リ納付書ニ貼付シ消印ヲ爲サスレテ之ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ附スルトキハ書留ニテ蓋出スヘシ

種牛牧場長納付書ヲ收受シタルトキハ之ヲ調査シ種禽及種卵ノ引渡ト同時ニ納付書ノ紙面ト貼

付印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ捺捺スヘシ

第六條 拂受人前條第二項ニ依リ代金ヲ納付シタルトキハ種禽及種卵ノ引渡期間内ニ第三號様式ニ依リ受領書ヲ差出シ其ノ引渡ヲ受クヘシ

第七條 拂受人種禽及種卵ノ輸送ヲ受ケムト欲スルトキハ第三號様式ニ依リ種禽及種卵ノ受領書ト共ニ第四號様式ニ依リ託送請求書ヲ差出スヘシ

前項輸送ニ要スル荷送費及運搬費ハ拂受人ノ負擔トシ輸送ヲ引受ケタル者ニ之ヲ支拂フヘシ

第八條 拂受人ハ何等ノ事由ヲ問ハス納付期限迄ニ拂下代金ヲ納付セス又ハ引渡期間内ニ種禽及種卵ノ引渡ヲ受ケサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條 種牛牧場長ニ於テ必要ト認メタルトキハ拂受人ニ通知シテ引渡ノ期間ヲ變更スルコトヲ得

第十條 拂受人ハ引渡ヲ受ケタル後ニ於テ種禽及種卵ノ疾病、斃死、損傷又ハ瑕疵ヲ發見シタルトキハ代金ノ返還又ハ減額、代物ノ交付又ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第十一條 拂受人ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一 前年ニ於ケル拂受ケタル種禽及種卵ノ孵化、蕃殖及發育ノ狀況ヲ記載シタル報告書ヲ毎年一月三十一日迄ニ種牛牧場長ニ差出スヘシ
- 二 家禽ノ飼養、管理及改良ニ關シ農商務大臣又ハ種牛牧場長ヨリ諮問アリタルトキハ速ニ答申スヘシ

第一號様式ノ一

種禽拂下願

- 第一番型
  - 一何種 種禽 雄 孵化後何箇月 一羽
  - 一同 雌 同 同 二羽
- 右何種ノ拂下ヲ受クルコト能ハサルトキハ次ノ種禽ヲ拂下ケラレタシ
- 第二番型
  - 一何種 種禽 雄 孵化後何箇月 一羽
  - 一同 雌 同 同 二羽
- 前同様

以下の項ニ準シ順次之ヲ配屬スヘシ  
右種禽種卵拂下規程ヲ遵守致候間御拂下相成度此段相願候也

年月日

種牛牧場長宛

住所

氏名印

注意

一種禽種卵拂下規程第七條ニ依リ種禽ノ輸送ヲ受ケムト欲スルトキハ其ノ旨願書ニ記載スヘシ  
一種禽及種卵ヲ同時ニ拂受ケムト欲スルトキハ願書ヲ各別ニ調製スヘシ

第二號様式ノ二

種卵拂下願

- 第一番型
  - 一何種 種卵 何箇
  - 右何種ノ拂下ヲ受クルコト能ハサルトキハ次ノ種卵ヲ拂下ケラレタシ
- 第二番型
  - 一何種 種卵 何箇
- 前同様

以下前項ニ準シ順次之ヲ配屬スヘシ  
右種禽種卵拂下規程ヲ遵守致候間御拂下相成度此段相願候也

年月日

種牛牧場長宛

住所

氏名印

注意

一種禽種卵拂下規程第七條ニ依リ種卵ノ輸送ヲ受ケムト欲スルトキハ其ノ旨願書ニ記載スヘシ  
一種禽及種卵ヲ同時ニ拂受ケムト欲スルトキハ願書ヲ各別ニ調製スヘシ

第二號様式

種禽(又ハ種卵)拂下代金納付書

- 一何箇何十箇也
- 明治何年何月第何號ヲ以テ拂下許可相成候種禽何羽(又ハ種卵何箇)ノ拂下代金トシテ納付候也
- 年月日
- 種牛牧場長宛
- 住 所
- 何 某印

注意

一拂下代金納付書ハ種禽ト種卵トニ付各別ニ調製シ收入印紙モ各別ニ貼付スヘシ  
一收入印紙ハ消印スヘカラス

第三號様式

拂下種禽(又ハ種卵)受領書

- 一何種 種禽 雄 孵化後何箇月 何羽
- 一同 雌 同 同 同
- 又ハ
- 一何種 種卵 何箇
- 右正ニ受領候也

年月日

住 所  
何

某印

種牛牧場長宛

注意 一 受領書ハ種禽ト種卵トニ付各別ニ調製スヘシ  
第四號様式 託送請求書

一種禽

何羽

又ハ

一種卵

何箇

右ハ明治何年何月第何號ヲ以テ拂下許可相成候處種禽種卵拂下規程第七條ニ依リ陸送相受度候間御所ニ於テ適當ト御覽ノ運送業者ヲシテ荷造費運搬費等總テ到着拂ヲ以テ陸送セシメラレ度此段請求致候也

年月日

住所 何 某印

種牛牧場長宛

注意

一 託送請求書ハ種禽ト種卵トニ付各別ニ調製スヘシ

○農商務省令第二號

明治三十八年農商務省令第三十四號國有林野產物賣拂規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月十一日

農商務大臣松岡康毅

第一條第一項中「國有林野主產物年期賣拂規則」ヲ別ニ定メタル規則ニ改ム  
第十四條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第十六條ニ依リ其ノ搬出又ハ採取未済ノ物件ヲ拋棄シタルモノト看做シタル場合ニハ之ヲ適用セサルコトヲ得  
第二十四條ノ二 本則ニ依リ願書又ハ届書ヲ差出スヘキ當該官廳カ大林區署タルト小林區署タル

トヲ問ハス凡テ之ヲ當該小林區署ニ提出スヘシ

第一號書式甲中「造材」ヲ削リ「何小林區署長官氏名宛」ヲ「林區署御中」ニ改ム

第一號書式乙中「何大林區署長官氏名宛」ヲ「林區署御中」ニ改ム

第一號書式甲及第三號書式甲中「造材」ノ場合ハ物件所在地ヲ削リ「何名稱ヲ記載スヘシ」ヲ「何名稱ヲ記載スヘシ」ニ改ム  
第三號書式甲中「又ハ材種」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

農商務省令第三十四號國有林野產物賣拂規則(明治三十八年十二月二十八日)抄録

第一條 國有林野產物ノ賣拂ハ國有林野主產物年期賣拂規則ニ依リモノヲ除ク外本則ニ依リ之ヲ行フ

第十四條 產物搬出又ハ採取ノ期間ハ引渡又ハ採取許可ノ日ヨリ主產物ニ付テハ二箇年、副產物ニ付テハ一箇年ヲ總ムルコトヲ得ス

買受人前項ノ期間内ニ搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキハ期限ノ延期ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ相當期間ヲ指定シ送約金トシテ左ノ金額ヲ徴收スヘシ

一 賣拂代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ一

二 賣拂代金百圓未満ナルトキハ一日ニ付金拾圓

前項ノ出願搬出又ハ採取期間ノ經過後ニ係ルトキハ其ノ間ノ日數ニ應ジ前項ニ定メタル金額ノ二倍ヲ徴收スヘシ  
前項ノ規定ハ買受人カ搬出又ハ採取ノ期間經過後三十日以内ニ延期ノ出願ヲ爲ササル場合ニ之ヲ適用ス

○農商務省令第二號

國有林野產物製品賣拂規則左ノ通定ム

明治四十年三月十一日

農商務大臣松岡康毅

國有林野產物製品賣拂規則

第一條 國有林野產物ノ製品(丸太、枕角板、其ノ他國有林ノ賣拂ハ本則ニ依リ之ヲ行フ)ノ賣拂ハ本則ニ依リ之ヲ行フ  
注文ニ依リ國有林野產物ニ加工シテ供給ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ賣拂ト看做ス

第二條 隨意契約ニ依リ製品ノ賣拂ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ準シテ申込書ヲ作り之ヲ大林區署長ニ呈出シ其ノ承諾ヲ受ケヘシ  
明治三十二年農商務省令第二十五號國有林野法施行規則第六十三條乃至第六十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三條 隨意契約ニ依ル賣拂ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ大林區署長ハ契約保證金ヲ徵收スヘシ但シ第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テ官廳又ハ公共團體共ノ他身元確實ナル者買受人ナルトキハ契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

一 引渡ノ爲物件ノ輸送ヲ要スルトキ  
二 注文ニ依リ國有林野產物ニ加工シテ供給スルトキ  
三 買受人ノ身元確實ナラサルトキ

四 其ノ他大林區署長ニ於テ必要ト認メタルトキ

第四條 物件ハ代金ヲ完納シタル後ニ非サレハ其引渡ヲ爲ササルモノトス但シ分割引渡ヲ約シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル代金ヲ納付シタル後其ノ引渡ヲ爲スモノトス  
物件引渡ノ提供ヲ爲シ買受人其ノ引渡ヲ受ケヌ又ハ之ヲ受ケルコト能ハサルトキハ引渡ヲ終了シタルモノト看做ス

第五條 買受人ハ特別ノ契約アルモノヲ除クノ外現品ヲ閱覽シテ賣買契約ヲ締結シタル場合ニ於

テハ其ノ寸尺數量若ハ品質ニ錯誤アリ又ハ隠レタル瑕疵アルモ異議ヲ述フルコトヲ得ス  
第六條 買受人現品ヲ閱覽セシテ契約ヲ締結シタル場合ニ於テ其ノ引渡ヲ終了シタル後ハ其ノ寸尺數量若ハ品質ニ錯誤アリ又ハ隠レタル瑕疵アルモ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條 物件搬出期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ當該官廳ハ買受人ノ出願ニ因リ延期ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ違約金トシテ延期日數ニ應シ左ノ金額ヲ徵收ス

一 賣拂代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ二  
二 賣拂代金百圓未満ナルトキハ一日ニ付金二十錢

搬出期間經過後ノ延期出願ニ對シ延期ヲ許可シタル場合ニ於テ徵收スル違約金ハ期間滿了ノ翌日ヨリ延期出願ノ前日迄ニ付テハ前項ニ定メタル金額ノ二倍トス

左ノ場合ニ於テハ違約金トシテ搬出期間又ハ延期期間滿了ノ翌日ヨリ其ノ搬出ノ終了又ハ第八條ニ依リ搬出未済ノ物件政府ノ所得ニ歸スル迄ノ日數ニ應シ第一項ニ定メタル金額ノ二倍ヲ徵收ス

一 延期ノ出願ニ對シ許可ヲ與ヘサルトキ  
二 搬出期間經過後三十日以内ニ延期ノ出願ヲ爲ササルトキ  
三 延期期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキ

前項ノ規定ハ第八條ニ依リ搬出未済ノ物件ヲ政府ノ所得ト爲シタル場合ニ於テハ之ヲ適用セサルコトヲ得

第八條 左ノ場合ニ於テハ搬出未済ノ物件ヲ政府ノ所得トス  
一 延期ノ許可ヲ與ヘサルモノ若ハ延期ノ出願ヲ爲ササルモノニシテ期間經過後三十日以内ニ

物件ノ搬出ヲ終ラサルトキ

二 延期期間内ニ物件ノ搬出ヲ終ラサルモノニシテ搬出期間經過後三十日ヲ過キタルトキ  
第九條 買受人物件引渡以前大林區署長ノ認可ヲ得ズシテ其ノ物件ニ關シ處分ヲ爲シ又ハ納付期  
間内ニ代金ヲ納付セサル爲大林區署長特種物件製作ノ注文ニ依ル契約ヲ解除シタル場合ニ於テ  
契約保證金又ハ違約金ヲ以テ損害ヲ償フコト能ハサルトキハ其不足額ハ買受人ヨリ之ヲ繳收ス  
ヘシ

第十條 明治三十八年農商務省令第三十四號國有林野產物賣拂規則第二條第四條第六條乃至第八  
條第九條第一項第三項第十條第二項第十五條第十八條乃至第二十一條ノ規定ハ製品賣拂ノ場合  
ニ之ヲ準用ス但シ賣買契約書其ノ代用請書及物件領收證ハ第二號乃至第四號書式ニ準シ作成ス  
ヘシ

附則

第十一條 本則ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前締結シタル契約ニ付テハ明治三十八年省令第三十四號國有林野產物賣拂規則ノ規定  
ヲ適用ス

第一號書式

買受(注文)申込書

(何國何市何町大字何字何土地邊立又ハ何々(物件)ノ買受申込書ニシテ其ノ旨ハ( )  
一何丸太 長何程 末口何程(何品買何々何本) 引渡期何月何日何時( )  
此材積 何尺ノ

此代金 何程但シ一尺ノニ  
一何丸太 長何程 末口何程(何品買何々何本) 同上

此材積 何尺ノ

合本數 何本

此材積 何程

此代金 何程

一何丸太 長何程 何尺ノ(何品買何々何本) 同上

此材積 何尺ノ

一何丸太 長何程 何尺ノ(何品買何々何本) 同上

此材積 何尺ノ

合本數 何本

此材積 何程

一何丸太 長何程 何尺ノ(何品買何々何本) 同上

此材積 何尺ノ

一何丸太 長何程 何尺ノ(何品買何々何本) 同上

此材積 何尺ノ

合本數 何本

此材積 何程

一何丸太 長何程 何尺ノ(何品買何々何本) 同上

此材積 何尺ノ

一何丸太 長何程 何尺ノ(何品買何々何本) 同上

此材積 何尺ノ

合坪數 何程  
此代金 何程  
總代金 何程

年月日

何大林區署長官氏名宛

氏名印

第二號書式

賣買契約書

賣買物件及代金

何國何州何郡何大字何字何土場等並又ハ何々(物賣買ノ種類ハ其ノ上ニ於テ之ヲ定ムル事)

一何丸太 長何程 末口 何程 品質何々何本 何程

此材積 何尺

此代金 何程但シ一尺ニ付

一何丸太 長何程 末口 何程 品質何々何本 何程

此材積 何尺

此代金 何程但シ同上

合本數 何本

此材積 何尺

一何丸太 長何程 末口 何程 品質何々何本 何程

此材積 何尺

此代金 何程但シ同上

合本數 何本

此材積 何尺

此代金 何程

一何丸太 長正寸何程 末口 何程 品質何々何本 何程

此材積 何尺

此代金 何程但シ同上

合本數 何本

此材積 何尺

一何丸太 長正寸何程 末口 何程 品質何々何本 何程

此材積 何尺

此代金 何程但シ同上

合本數 何本

此材積 何尺

一何丸太 長正寸何程 末口 何程 品質何々何本 何程

此材積 何尺

此代金 何程

合本數 何本

此材積 何尺

一契約保證金何程  
一 代金何程(内何程ハ即納金何程) 内何程ハ納入告知書ニ依リ何年何月何日限リ現金何程ハ納入告知書ニ依リ何年何月何日限リ何本(支)金庫ハ納付スルコト

一 物件別渡ハ何者ニ請家スハキコト

一 物件搬出期限ハ何年何月何日限タルコト

一 前各項ノ外雙方共國有林野產物製品賣渡規則ヲ遵守スルコト

前書ノ通賣買契約締結セシニ付雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領置スルモノ也

年月日

大林区署長  
賣渡人 官氏名印



第三號書式

請書

一何(第二號書式ノ例ニヨリ記載スヘシ) 今般前番ノ通標下相受候ニ付テハ國有林野產物製出費規則及左記ノ條件ヲ承諾シ請書送出候也

年月日

何大林區署長官氏名宛

住所  
買受人 氏 名印

一何(第二號書式ノ例ニ依リ契約ヲ要スル條件ヲ記載スヘシ) 第四號書式

證

何國何州何郡何大字何工場設立又ハ何々  
一何(買受人ノ姓名)何租  
(二種以上ノトキハ列記スヘシ)  
右御引渡相成領收候也

年月日

何大林區署長官氏名宛

住所  
買受人 氏 名印

○農商務省令第四號

明治四十年度耕地整理及土地改良獎勵費規則左ノ通定

明治四十年三月二十三日

農商務大臣松岡康毅

第一條 耕地整理及土地改良事業ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ本則ノ定ムル所ニ依リ明治四十年度ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ明治四十年度ニ於ケル耕地整理及土地改良ノ施行ニ關スル調査、設計及工事監督ニ要スル費用ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ農商務大臣ニ提出スヘシ

一 明治四十年度ニ於ケル調査、設計及工事監督施行豫定書

二 前號ニ要スル設備豫定書

三 費用豫算書

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケル府縣前條添附書類ニ記載シタル豫定又ハ豫算ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ場合ニ於テ費用額ヲ増加スルトキハ補助金ノ増加交付ヲ申請スルコトヲ得

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケル府縣ハ調査、設計及工事監督ノ實施ニ關スル規程ヲ設ケ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ明治四十年十月中及明治四十一年四月中調査、設計及工事監督ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第七條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受ケル府縣ニ第三條ノ添附書類ニ記載シタル豫定ノ變更ヲ爲スヘキコトヲ命ジ之ニ要スル費用ニ對シ補助金ノ増加交付ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 補助金ノ交付ヲ受ケル府縣第三條ノ添附書類ニ記載シタル調査、設計及工事監督ニ關スル施行豫定ヲ明治四十年度内ニ終了シ得ザルトキハ年度後ニ於テモ之ヲ繼續遂行スルノ義務アリ

ルモノトス  
前項施行豫定ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク其ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘレ  
第九條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ府縣ノ施行ノ狀況及成績ニ付臨時報告ヲ徵シ又ハ實地檢  
査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 府縣ニ於テ負擔金額ヲ減少シタルトキ又ハ第四條若ハ第八條ニ違反シ又ハ第七條ノ命令  
ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得  
農商務大臣カ府縣ノ施行成績不真ナリト認ムルトキ亦同レ

附則

第十一條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第五號

明治三十六年農商務省令第二號清國駐在製鐵所官吏給與細則第二條ヲ左ノ通改正ス

明治四十年三月二十七日

農商務大臣松岡康毅

第二條 駐在手當及加給手當ハ駐在地到着ノ翌日ヨリ之ヲ給ス但レ駐在スヘキ地ニ在リテ新任  
命セラレタル者ニ關シテハ發令ノ日豫メ認可ヲ得シテ發令ノ日ハ農商務大臣ノ認可ヲ得タル日ヲ以テ到着ノ日  
テハ農商務大臣ノ認可ヲ得タル日ヲ以テ到着ノ日ト看做ス  
臨時歸朝中滞在三箇月ニ及ビタルトキハ其ノ以後駐在手當及加給手當ヲ給セス  
轉任轉勤ヲ命セラレタル者ニハ命令到達ノ日マテ駐在手當及加給手當ヲ給ス

〔參照〕

農商務省令第二號清國駐在製鐵所官吏給與細則(明治三十六年三月二日)抄録

第二條 駐在期間及在留期間ハ駐在地到着ノ翌日ヨリ出役ノ前日迄トス但シ駐在地ニ在リテ新任命セラレタル者ニ關シ  
テハ發令ノ日豫メ認可ヲ得シテ發令ノ日ハ農商務大臣ノ認可ヲ得タル日ヲ以テ到着ノ日ト看做ス  
ト看做シ轉任ヲ命セラレタル者ニ關シテハ命令到達ノ翌日マテ出役ノ日ト看做ス  
臨時歸朝又ハ私等ノ爲旅行スルトキハ駐在地出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄ハ之ヲ駐在期間ニ算入セス

○遞信省令第三號

明治三十九年六月遞信省令第二十五號電話規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月十一日

遞信大臣山縣伊三郎

第十八條中「加入者施設ノ」ヲ「加入者施設ノ」ニ改ム  
第二十五條末文ニ「明治三十八年四月遞信省令第三十四號特設電話規則第二十一條第二項但書ニ依リ  
其ノ加入ヲ繼續シタル加入者ノ位置加入區域外ト爲リタル場合亦同シ」ヲ加ヘ次ニ左ノ一項ヲ  
加フ

前項加入區域外加入者ハ特別加入區域内ニ在ル者ト看做ス  
第三十五條第一項第一號中「丙」ノ次ニ左ノ如ク追加ス

土地ノ 種別	加入登記料	名稱符料	電話使用料年額
單獨及共 同線加入	連接加入	單獨加入	共同線加入
丁	金五圓	金二圓	金三十六圓
	金二圓	金二圓	金三十圓
			金二十四圓

同條同項第二號中「私設電話機接続」官廳用及私設電話機接続ニ又年額私設電話機一箇毎ニ「年  
額一箇毎ニ」改メ次ニ左ノ如ク追加ス  
本號中特別加入ノ料金ハ明治三十八年四月遞信省令第三十四號特設電話規則第二十一條第二項但  
書ニ依リ其ノ加入ヲ繼續シタル加入者ノ位置加入區域外ト爲リタル場合共ノ加入區域外ノ部分

ニ對シ之ヲ低減スルコトアルヘシ

第四十三條 左ノ場合ニ於ル加入登記料ハ加入申込者ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一 第十六條ニ依リ加入申込ヲ消滅シタルトキ

第四十四條 左ノ場合ニ於ル電話使用料及附加使用料ハ年額金ノ日割ヲ以テ之ヲ免除ス但シ其ノ料金既納ニ係ルトキハ加入者ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一 第十五條ニ依リ共同線加入ノ通話取扱ヲ休止シタルトキ其ノ休止中ニ係ルモノ

二 第十六條ニ依リ加入消滅シタルトキ其ノ消滅ノ翌日以後ニ係ルモノ

三 加入者ノ過失、懈怠又ハ故意ニ因ラスレテ電話不通ニ至リ其ノ日數十五日以上ニ互リタルトキ其ノ不通期間ニ係ルモノ但シ加入者復舊工事ノ延期ヲ請求シタルトキハ其ノ日數ヲ除ク

前項第三號不通ノ日數ハ當該郵便局ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第四十六條 第四十三條ニ依ル料金ノ還付請求及第四十四條ニ依ル免除ノ料金ニシテ既納ニ係ルモノノ還付請求ハ當該郵便局ニ之ヲ爲スヘシ其ノ請求期間左ノ如シ

一 第四十三條ニ依ル場合ハ加入申込消滅又ハ取消ノ日ヨリ六十日間

二 第四十四條ニ依ル場合ハ料金納付ノ日ヨリ五箇月間

第四十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ電話線、電話機及其ノ附屬物品ヲ加入者自ラ供給セムトスルトキハ之ヲ當該郵便局ニ請求スルコトヲ得

第五十四條 本加入者、連接加入者及共同線加入者ハ當該郵便局ノ指示スル器械特種取扱方法ニ

從ヒ相手方加入者ノ通話ニ關レ妨害ト爲ルカ如キ所爲アルヘカラス

第五十七條第二項中前條ノ下ニ第一項及ヲ加フ

(參照)

逓信省令第二十五號電話規則(明治三十九年六月四日抄録)

第十八條 加入申込者又ハ加入者左記各號ノ變置ヲ爲サントスルトキハ其ノ請求書ヲ當該郵便局ニ送付スヘシ但シ第三號ノ場合ハ加入申込者又ハ加入者私設ノ線條機械及附屬物品ニ關シテハ之カ認可ヲ受テヘシ又其ノ維持或交換取扱方法ハ當該郵便局ニ於テ指示スルコトアルヘシ

第二十五條 電話加入區域變更ノ爲加入申込者又ハ加入者ノ位置他ノ加入區域内ニ編入セラレタルトキハ所屬管ヲ爲スモノトシ又加入區域外ト爲リタルトキハ加入申込ハ之ヲ取消シ加入ハ其ノ繼續ス但シ其ノ加入ヲ繼續シタル電話機及附屬物品ハ電話加入區域以内ノ外他ニ移轉スルコトヲ得ス

第三十五條 電話ニ關スル料金ハ左ノ如シ

第四十三條 加入登記料、名義替換料、電話線接線料及機械移轉料ハ其ノ申込又ハ請求ヲ取消シタルトキト雖之ヲ還付セズ但シ第二十五條ニ依リ加入申込ヲ取消シタルトキハ其ノ申込者ノ請求ヲ俟テ還付ス

電話取扱局所ニ來ル者ノ前納シタル電話料ハ既ニ郵便切手ニ消印シタル後又ハ自動電話機ニ差入レタル後ハ之ヲ還付セズ

第四十四條 第十五條ニ依リ共同線加入ノ通話取扱ヲ中止シタルトキハ日割計算ヲ以テ休止中ノ電話使用料及附加使用料ヲ免除ス

第四十六條 加入者ノ過失、懈怠又ハ故意ニ因ラスレテ電話不通ニ至リ其ノ日數十五日以上ニ互リタルトキハ不通期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ撤收セズ若シ既納ノ電話使用料及附加使用料アリタルトキハ加入者ノ請求ニ依リ其ノ不通日數ニ應ジテ年額金ノ日割ヲ以テ之ヲ還付スヘシ但シ加入者自己ノ都合ニ依リ復舊工事ヲ延期シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項不通ノ日數ハ當該郵便局ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第四十九條 加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其ノ附屬物品ハ當該郵便局ニ於テ之ヲ設備ス

前項ノ電話機及其ノ附屬物品ヲ加入者自ラ供給セムトスルトキハ之ヲ當該郵便局ニ請求スヘシ

第五十四條 共同線加入者相互及連接加入者ト本加入者相互ノ間ハ通話上一方ニ對シテ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十七條第二項 加入者第五十五條第二項ニ違背シタルトキ又ハ前條第二項ニ依リ一年三箇月以上通話ヲ停止セラレタルトキハ加入ヨリ料名スルコトアルヘシ

○逓信省令第四號

明治三十八年四月逓信省令第三十四號特設電話規則中左ノ通改正ス

明治四十年三月十一日

逓信大臣山縣伊三郎

第二十一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ加入者既設ノ電話線路、電話機及附屬物品ノ全部ヲ政府ニ無償引渡ヲ爲ストキハ其ノ儘加入ヲ繼續スルコトヲ得

〔參照〕

逓信省令第三十四號特設電話規則(明治三十八年四月二十日)抄錄

第二十一條 本規則ニ依ル局所在地又ハ其附近ニ明治三十九年ハ逓信省令第二十五號電話規則ニ依ル電話ヲ開始シタルトキハ認可ノ效力ヲ失フ其開始期日ハ三箇月前ニ通知スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ一般ノ電話交換ニ加入セントスルモノハ其通知ヲ受ケタル日より一箇月以内ニ加入ノ申込ヲナスヘシ

○逓信省令第五號

明治二十三年七月逓信省令第十五號中下關郵便爲替貯金管理支所受持區域ノ部「清國」ノ下「及韓國」ヲ削除ス

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月二十三日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第六號

明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則中左ノ通改正ニ來四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ引受ケタル小包郵便物ニシテ價格表記ニアラサルモノハ書留小包郵便物トシテ之ヲ取扱フ爲ス

明治四十年三月二十八日

逓信大臣山縣伊三郎

目次第二章第九節「第九節」ノ一トシテ「第九節」ノ二廣告郵便ヲ加フ  
第三條第二項ヲ左ノ通改正ス

小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其ノ幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限トシ其ノ重量ハ内地相互間ハ一貫六百匁、内地、臺灣、樺太相互間ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス  
第五條第一項ヲ左ノ通改正ス  
無料郵便物ハ其ノ表面ニ「逓信事務」ノ文字ヲ記載スヘシ

第六條「第六條」ノ一トシテ左ノ一條ヲ加フ  
第六條ノ二 小包郵便料及特殊取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ前納ニ限ル但シ留置ト爲シタル普通通常郵便料及特ニ規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

第八條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス  
一 郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル郵便ニ關スル料金  
二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲サザリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金但シ書留小包郵便物ニ在リテハ普通小包郵便料ト書留小包郵便料トノ差額  
三 郵便局所ノ過失ニ因リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金

四 名宛變更、取戻、代金引換ノ取消又ハ代金引換金額變更ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲サザリシ場合ニ於ケル請求手数料金  
五 亡失又ハ失効ニ因リ損害賠償ヲ爲スヘキ場合ノ書留郵便物、價格表記郵便物、現金取立郵便

物ノ郵便ニ關スル料金

第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ第一號乃至第四號ハ料金納付ノ日ヨリ六十日第五號ハ損害賠償決定ノ日ヨリ三十日トス

第十條 第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得

- 一 差出人及受取人ノ住所氏名
  - 二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標其ノ他ノ稱號等
  - 三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
  - 四 贈呈、納本、注、文、品等四字以内ノ送達上ノ慣用語
  - 五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限リ前金満了等ノ慣用語
  - 六 送達上郵便局所ニ必要ナル注意ヲ示ス語辭
- 前項郵便物ニハ其ノ内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得
- 一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量
  - 二 定期刊行物、書籍、印刷物、書、畫、圖、業務用書類ニ正誤、注意、點線、批評ノ類
  - 三 圖畫及寫眞ニ説明又ハ著色
  - 四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ生産地及種類ヲ確知スル爲必要ノ事項
  - 五 農産物種子ニ播種ノ時季及説明
  - 六 名刺ニ四字以内ノ慣用語

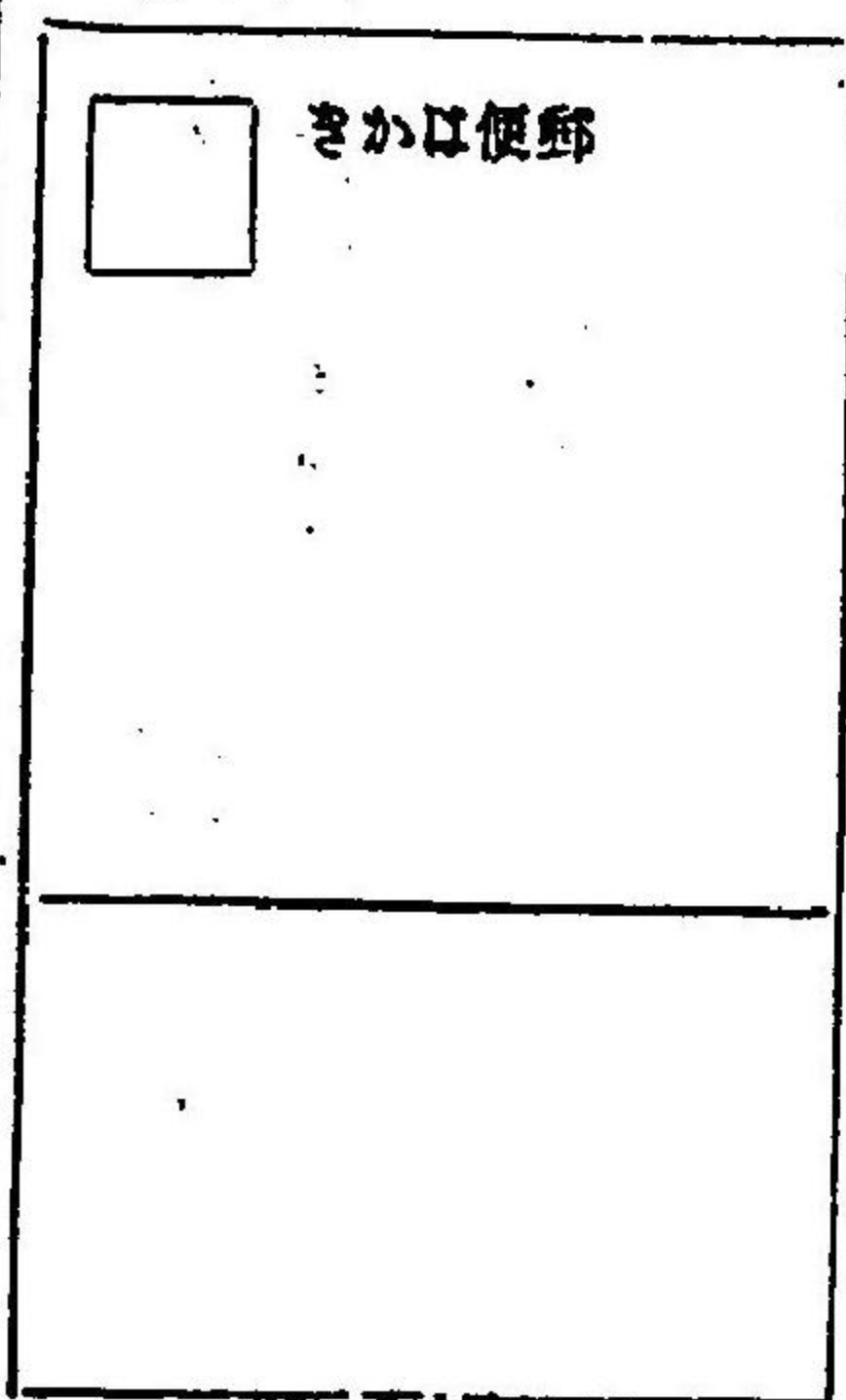
前二項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附シタル小包郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十一條 左ノ一項ヲ加フ  
郵便物ニ貼附シタル郵便切手ハ郵便ニ關スル料金納付ノ爲ニ用サレルモノト看做シ前項ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十四條ヲ第十四條ノ一トシ左ノ一條ヲ加フ

第十四條ノ二 印刷シタル無封ノ書狀ハ其ノ料金ヲ十匁又ハ其ノ端數毎ニ金二錢トス  
前項ノ郵便物ニ付テハ第十條ノ規定ヲ準用ス

- 第十五條 郵便葉書ハ其ノ表面ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記載スルコトヲ得
- 一 差出人及受取人ノ住所氏名、身分、職業及商標其ノ他ノ稱號等
  - 二 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
  - 三 送達上郵便局所ニ必要ナル注意ヲ示ス語辭
  - 四 郵便繪葉書ノ表面ニ左式ノ如ク下部三分ノ一以内ニ線條ヲ畫スルトヤハ其ノ線内ニ通信文等



郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書委任狀若ハ受領證等ト爲サムカ爲收入印紙ヲ裏面ニ貼附スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添附スルヲ得ス

前三項ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第二十六條 寫眞書畫圖及博物學上ノ標本ハ扁額共ノ他特殊ノ裝飾ヲ加ヘサルモノヲ云フ但シ掛軸ト爲スハ此ノ限ニアラス

第二十八條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

一内地小包郵便料

同一郵便區内	普通	金四錢							
寄留	金八錢								
二百匁	四百匁	六百匁	八百匁	一貫匁	一貫二百匁	一貫四百匁	一貫六百匁		
マア	マア	マア	マア	マア	マア	マア	マア		
同一郵便區外	普通	八錢	十二錢	十六錢	二十錢	二十四錢	二十八錢	三十二錢	三十六錢
寄留	十二錢	十八錢	二十四錢	三十錢	三十六錢	四十二錢	四十八錢	五十四錢	
一内地臺灣樺太相互間小包郵便料	二百匁	四百匁	六百匁	八百匁	一貫匁	一貫二百匁	一貫四百匁	一貫六百匁	
マア	マア	マア	マア	マア	マア	マア	マア	マア	
内地臺灣樺太相互間ニ發着スル小包郵便物ハ價格表記ノ指定アルモノノ外寄留小包郵便物トシテ之カ取扱ヲ爲ス	三十錢	三十五錢	四十錢	五十錢	六十錢	七十錢			

第二十九條 普通小包郵便物ニハ表面看易キ場所ニ小包ト記入スヘシ

第三十條 削除

第三十一條 削除

第三十二條 差出人ハ小包郵便物差出ノ際名宛地ノ郵便局所ニ於テ其ノ郵便物ノ配達ヲ當ルコト能ハサルトキ之カ轉送還付ノ爲料金増加ヲ要スル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 削除

第三十五條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

- 一 別配達料
  - 一箇ニ付 陸上ニ五里以内ハ金二十錢ニ里ヲ超過シタルトキハ一里迄毎ニ金十五錢ヲ加フ
  - 船舶料ハ別ニ其ノ費額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ徴收ス
- 二 留置通知料 一箇ニ付 金三錢
- 三 配達證明料 一箇ニ付 金三錢
- 四 通常郵便物寄留料 一箇ニ付 金七錢
- 五 價格表記料 一箇ニ付 金五錢
- 六 代金引換料
  - 一箇ニ付 金五錢
  - 外ニ取立金送達料トシテ其ノ引換金額十圓迄ハ金五錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シテ十圓迄毎ニ金四錢百圓以上千圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シテ十圓迄毎ニ金三錢
- 七 現金取立料 一箇ニ付 金五錢

第三十六條第四號中「寄留郵便物」トアルヲ「寄留通常郵便物」ト改メ第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 寄留小包郵便物 寄留小包

第三十七條 書留又ハ價格表記ノ郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

郵便物ノ受取人ハ一定ノ期間ヲ限リ書留又ハ價格表記郵便物ノ別配達ヲ配達郵便局所ニ請求ス

ルコトヲ得但シ之カ爲事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコトアルヘシ

前項ノ別配達料金ハ配達ノ際受取人ヨリ之ヲ徴收ス

別配達ノ請求ヲ爲シタル受取人ハ何時ニテモ其ノ請求ヲ取消スコトヲ得

第四十四條中「通常」ノ二字ヲ削ル

第四十五條 書留郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領證ヲ交付ス

書留郵便物ヲ配達、還付又ハ交付スルトキハ受取人又ハ差出人ニ別ニ定ムル式紙ニ受領證印

シメ若代人之ヲ受取ルトキハ其ノ代人タル資格及氏名ヲ記入證印セシメ之ヲ以テ送達ノ證ト爲

ス

官廳、艦船、學校、會社、旅館其ノ他多人數ノ集合セル箇所又ハ之ヲ肩書シタルモノニ配達若ハ還付

スヘキ書留郵便物ヲ其ノ受付ニ引渡シタルトキハ本人ニ送達シタルモノト看做ス

第四十七條中「第二十九條」トアルヲ「第四十五條」ト改ム

第四十八條中「通常郵便物及小包郵便物」トアルヲ「郵便物及書留小包郵便物」ト改メ「金三百圓」トアルヲ「金千圓」ト改ム

第四十九條 代金引換郵便物ハ到着郵便局所ニ留置キ其ノ旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ待

テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス其ノ留置期間ハ十日間トス

受取人ハ前項通知書發送後ノ代金引換郵便物ニ對シ其ノ轉送ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項留置ニ關シテハ第四十一條第二項第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十三條第二項中「金三百圓」トアルヲ「金千圓」ト改ム

「第九節」ヲ「第九節ノ一」ト改ム

第六十四條ヲ第六十四條ノ一トシ其ノ第二項ヲ左ノ通改ム

約束郵便トシテ差出す郵便物ハ通知ヲ要セサル留置ト爲スノ外他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第六十四條ノ一ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十四條ノ二 約束郵便物ニハ引受日附印ノ押捺ヲ省略スルコトアルヘシ

第六十五條ヲ第六十四條ノ三トシ其ノ次ニ左ノ一節ヲ加フ

第九節ノ二 廣告郵便

第六十五條ノ一 受取人ヲ指定セシメテ差出人ノ指定シタル郵便局所ニ於テ其ノ区内ニ送達スル

廣告引札等各種ノ印刷物ヲ廣告郵便物ト稱ス

第六十五條ノ二 廣告郵便物ノ料金ハ百通又ハ其ノ端數毎ニ同一郵便区内ハ金二十圓同一郵便區

外ハ金三十圓トス

第六十五條ノ三 廣告郵便物ハ一通ニ及ブ超過スルコトヲ得ス

第六十五條ノ四 廣告郵便物ハ配達ヲ要スル郵便局毎ニ把束シ差出人ノ住所氏名、配達ヲ要スル郵

便局名及通數ヲ記載シタル請求書ニ料金相當ノ郵便切手ヲ添ヘ之ト共ニ郵便局所ニ差出スヘシ

第六十五條ノ五 廣告郵便物ハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ配達シ且ツ日附印ヲ押捺セシ

第六十九條第二項但書ヲ左ノ通改ム

但シ書留又ハ價格表記ニアラサル留置通常郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條但書中「別配達郵便物」ノ下ニ「及特ニ定メタルモノ」ノ九字ヲ加フ

第七十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ留置期間ハ六十日トス

明治四十年三月 省令 逓信省第六號

一三九

第七十八條 郵便物ノ轉送及還付ハ別ニ料金ヲ徴收セス但シ小包郵便物ニシテ料金増加ヲ要スル區域ニ轉送還付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ轉送料ハ請求人ヨリ還付料ハ差出人ヨリ各共ノ差額ヲ追徴ス

第七十九條 第二項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ差立準備前郵便物ノ取戻請求ニ應シタルトキハ別ニ其ノ料金ヲ徴收セス

第八十條 郵便物ノ受取人他ニ移轉セ共ノ移轉先分明ナルトキハ之ヲ其ノ移轉先ヘ轉送ス郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ差出人他ニ移轉セタルトキ亦同レ但シ小包郵便物ノ受取人ニシテ料金増加ヲ要スル區域ニ移轉セルトキハ差出人又ハ受取人ヨリ其ノ轉送ヲ請求シタルトキニ限リ之ヲ轉送ス

普通小包郵便物ハ内地相互間ヲ除クノ外轉送還付セス  
第八十二條 郵便物ノ受取人既ニ他ニ移轉セルトキハ其ノ配達先ニ於テ受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ前條ノ轉送ヲ求ムルコトヲ得

普通通常郵便物ニシテ其ノ配達ヲ受ケタル後ナルトキハ該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル符號ヲ爲シ其ノ配達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ料金ノ納付ヲ要スルコト無ク再ビ郵便ニ差出スコトヲ得若共ノ期限經過後郵便ニ差出シタルトキハ新ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ差出人既ニ他ニ移轉セタルトキ亦前二項ニ準ス  
第八十二條第二項ヲ左ノ通改ス  
前項ノ外小包郵便物ノ受取人料金増加ヲ要スル區域ニ移轉シタル場合ニ於テ第三十二條ニ依リ差出人ヨリ豫メ其ノ轉送若ハ棄却ノ請求ヲ爲サヌ又ハ第三十三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ノ請求

ナキトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求ニ依リテ配達ヲ遂クル能ハサル場合亦同シ

第八十六條 第一項中「前二條」トアルヲ「第八十四條」ト改ム

第八十九條 郵便法第三十三條ニ依リ郵便物損害賠償ノ金額ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 書留通常郵便物ノ失ノトキハ一箇ニ付金十圓
- 二 書留小包郵便物ノ損害賠償額ハ
  - 亡夫ノトキハ 重量二百匁迄ハ金二圓、二百匁以上ハ二百匁又ハ其ノ端數ヲ超過スル毎ニ金一圓ヲ加フ
  - 毀損ノトキハ 總重量ニ對スル減重量ノ割合ニ依リ重量二百匁迄ハ金一圓以内、二百匁以上ハ二百匁又ハ其ノ端數ヲ超過スル毎ニ金五十錢以内ヲ加フ

内地、臺灣、樺太相互間ニ發着スル小包郵便物ノ損害賠償額ハ重量百匁又ハ其ノ端數毎ニ金二十錢

三 價格表記郵便物全部ノ失ノトキハ表記金額ノ全額、一部ノ失又ハ毀損ノトキハ其ノ表記金額ト殘存價格トノ差額但シ表記金額市場價格ニ超過スルトキハ市場價格ニ依リ算定ス此ノ場合ニ於ケル市場價格ハ引受當時ニ於ケル引受郵便局所在地ノ價格ニ依ル

四 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失効ノトキハ其ノ實損額

五 代金引換郵便物ノ取立金ノ取立ヲ爲サシテ之ヲ交付シタルトキハ其ノ實損額

○逓信省令第七號

明治三十三年 逓信省令第九十號 鐵鋼船検査規程左ノ通改正ス  
明治四十年三月二十九日

逓信大臣山縣伊三郎



第一條 鐵船若ハ鋼船ノ船體ノ構造ニ關シ此ノ規程ニ規定ナキモノニ付テハ明治三十三年四月逓信

省令第十六號造船規程第一編(明治三十九年十一月逓信省令)ノ規定ヲ適用ス但第一章第十條第十二

條第十三條第十五條第二章第八條第三章及二十六章第四條ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 第一級船ノ外板ノ厚ハ舷側厚板、輕甲板舷側板及ヒ其ノ直下ノ外板並ニ覆甲板舷側板ヲ

除キ第二級四千二百以上一萬八千七百未滿ナルトキハ船ノ首尾ヲ通シテ外板一枚置ニ造船規程

ニ定ムル厚ヨリ鐵ナルトキハ十六分ノ一時、鋼ナルトキハ二十分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第三條 此ノ規程ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ検査官吏ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スト

認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第四條 第三級船及ヒ第四級船ノ船體ノ構造及ヒ寸法ハ此ノ規程ニ適合セサルモノト雖モ検査官

吏ニ於テ適當ト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第五條 検査官吏ハ造船規程第一編第二章第一條、第二條、第四條乃至第七條ニ規定セル試驗ニ合

格セサル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法及ヒ部局ヲ限リ條件ヲ附シテ之カ使用ヲ許可スルコトヲ得

附則 此ノ規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年六月一日以前ニ進水シタル船舶ニシテ舊規程ニ合格スト認メラレタルモノハ此ノ規

程施行後ト雖モ該規程ニ依ルコトヲ得

○逓信省令第八號 明治三十五年十一月一逓信省令第五十二號外國郵便規則中左ノ通改正ニ來四月一日ヨリ施行ス

明治四十年三月三十日 逓信大臣山縣伊三郎

第四條但書ヲ左ノ通改ム

但前掲第八條第二號乃至第四號ニ對スル第九條ノ期間ハ六箇月トス

第十九條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但其留置期間ハ十五日トス

〔參照〕

逓信省令第五十二號外國郵便規則(明治三十五年十一月八日抄録)

第四條 外國郵便ニ關スル料金ノ運付ニ付テハ明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則第八條及第九條ノ規定ヲ準用

ス但シ前掲第九條ノ期間ハ六箇月トス

第十九條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換郵便物ニ付テハ郵便規則第四十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

○逓信省令第九號 明治三十三年九月逓信省令第四十三號中第一號ヲ左ノ通改正ニ來四月一日ヨリ施行ス

明治四十年三月三十日 逓信大臣山縣伊三郎

一 日本韓國間及日本ト關東都督府郵便電信局管内トノ間ニ發着スル通常郵便物ノ電信ニ依ル取

戻請求ニ關スル料金ハ金一圓二十錢トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金二圓十錢トス清國

内地間(關東都督府郵便電信)並ニ清國(關東都督府郵便電信)ト日本、韓國トノ間ニ發着スル通常

郵便物ノ取戻若ハ名宛變更、代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ現金取立ノ取消ニ關スル請求

ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

〔參照〕 逓信省令第四十三號(明治三十三年九月一日抄録)

一 日韓間發着通常郵便物ノ電信ニ依ル取戻請求ニ關スル料金ハ金一圓二十錢トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金二圓

明治四十年三月 省令 逓信省第九號

十條下ニ清國内地間及三清國ト日本、韓國トノ間ニ發着スル郵便物ノ取戻若ハ名宛變更、代金引換ノ取戻若ハ金額  
變更又ハ現金取立ノ取消ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

○逓信省令第十號

明治三十五年十一月 逓信省令第五十三號外國小包郵便規則中左ノ通改正ニ來四月一日ヨリ施行ス

明治四十年三月二十日

逓信大臣山縣伊三郎

第四條ノ二中、内國小包郵便物トアルヲ内國書留小包郵便物ト改メ

第八條第一號中、郵便料過徵額及誤納額トアルヲ郵便ニ關スル料金ト改メ

第九條中、料金納付ノ日ヨリ六箇月トス「トアルヲ第一號乃至第三號ハ料金納付ノ日ヨリ六箇月第  
四號ハ損害賠償決定ノ日ヨリ三十日トスト改メ

〔参照〕

逓信省令第五十三號外國小包郵便規則(明治三十五年十一月八日)抄録

第四條ノ二 米國トノ條約若ハ海關トノ約定ニ據ル小包郵便物コレヲ本邦引渡ニ係ルモノヲ本邦管内ニ於テ亡失若ハ毀損  
セシメタル場合ニ於テハ内國小包郵便物ノ例ニ依リ賠償ヲ爲ス

第八條 外國小包郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載スルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ履行ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ毀損セタル郵便料過徵額及誤納額

第九條 加條ノ料金納付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六箇月トス

○逓信省令第十一號

明治三十三年九月 逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則中左ノ通改正ニ來四月一日ヨリ施行ス

明治四十年三月二十日

逓信大臣山縣伊三郎

第二條ノ二 小包郵便物ハ重量一貫五百匁ヲ超過スヘカラス又價格表記ノ指定アルモノノ外書留

小包郵便物トシテ之ヲ取扱フヘシ

第三條ヲ左ノ通改メ

第三條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

一 日本、清韓三國相互間小包郵便料

二百匁マテ 四百匁マテ 六百匁マテ 九百匁マテ 一貫二百匁 一貫五百匁

三十匁 三十五匁 四十匁 五十匁 六十匁 七十匁

一 清韓各國內小包郵便料

同一郵便區内 金五匁

同一郵便區外 二百匁マテ 四百匁マテ 六百匁マテ 九百匁マテ 一貫二百匁 一貫五百匁

十 十五匁 二十匁 三十匁 四十匁 五十匁

第十五條ヲ左ノ通改メ

第十五條 日本、韓國間及日本ト關東都督府郵便電信局管内トノ間ニ發着スル小包郵便物ノ電信ニ

依ル取戻請求ニ關スル料金ハ金一圓二十匁トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金二圓十匁トス

清國內地間(關東都督府郵便電信)或ニ清國(關東都督府郵便電信)ト日本、韓國トノ間ニ發着スル小

包郵便物ノ取戻若ハ名宛變更、代金引換ノ取消若ハ金額變更ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ

得ス

第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十五條ノ二 小包郵便物ノ損害賠償額ハ重量百匁又ハ其ノ總數毎ニ二十匁トス

〔参照〕

逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則(明治三十三年九月十一日)抄録

第三條 日本、清、韓三國相互間ニ發着スル小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

二百々	四百々	六百々	九百々	一頁二百	一頁五百
ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
三十	三十五	四十	五十	六十	七十

清、韓各國國內ニ發着スル小包郵便物ノ料金ハ日本内地小包郵便物ノ料金ニ同シ

第十五條 日韓間發着小包郵便物ノ電信ニ付ハ取戻請求ニ關スル料金ハ金一圓二十錢トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金二圓十錢トシ清國內地間並ニ清國ト日本、韓國トノ間ニ發着スル小包郵便物ノ取戻者ハ名宛變更又ハ代金引換ノ取戻者ハ金額變更ニ關スル請求ハ電信ニ付ルコトヲ得ス

○外務省令第二號

居留民國法施行規則左ノ通相定ム

明治四十年四月二十三日

外務大臣子爵林董

居留民國法施行規則

第一章 總則

第一條 居留民國ノ設立、廢止、分合又ハ其ノ地區ノ變更ヲ要スルトキハ外務大臣之ヲ定ム

前項ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ設立ノ場合ヲ除クノ外關係アル居留民會ノ意見ヲ徵シ直接上級監督官廳ノ認可ヲ得テ領事之ヲ定ム

第二條 居留民國ノ地區内ニ住居スル帝國臣民又ハ該地區内ニ事務所ヲ有スル帝國法人ハ居留民國ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第三條 居留民國ハ其ノ地區内ニ住居スル帝國臣民又ハ該地區内ニ事務所ヲ有スル帝國法人ノ居留民國ニ對スル權利義務、居留民國ノ事務、居留民國ノ財產及營造物ニ關スル事項ニ付條例ヲ設クルコトヲ得

條例ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 本規則ニ基キ發スル領事館令ハ公使ヲ經テ外務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ居留民國法第五條第一項但書ノ場合ニ於テハ公使ヲ經ルコトヲ要セス

第五條 本規則ニ於テ領事ト稱スルハ居留民國ノ地區ヲ管轄スル總領事、領事、副領事及其ノ代理者ヲ謂フ

第六條 居留民國ノ地區内ニ住居セス又ハ事務所ヲ有セスト雖モ六箇月以來第八條ニ規定セラル

ト同様ノ居留民團課金ヲ負擔スル帝國臣民又ハ帝國法人ニ付テハ本規則中居留民團ノ地區内ニ住居スル帝國臣民又ハ該地區内ニ事務所ヲ有スル帝國法人ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 帝國專管居留地内ニ於テ土地又ハ家屋ヲ所有シ若ハ占有シ、物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ特定ノ行爲ヲ爲ス外國人又ハ外國法人ニシテ自國領事ノ公ノ認許書ヲ得テ居留民團ニ關スル帝國ノ法令及條例ニ從フモノハ本規則中帝國臣民又ハ帝國法人ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章 居留民會

第八條 左ニ掲ケタル者ハ居留民會議員トス

- 一 居留民團ノ地區内ニ住居スル帝國臣民ニシテ六箇月以來居留民團課金ヲ負擔スル者
- 二 居留民團ノ地區内ニ事務所ヲ有スル帝國法人ニシテ六箇月以來居留民團課金ヲ負擔スル者

第九條 左ニ掲ケタル者ハ居留民會議員タルコトヲ得ス

- 一 剝奪公權者又ハ停止公權者
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 三 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者
- 四 租稅又ハ公課ノ滞納處分中ノ者
- 五 在留禁止ヲ命セラレ滿期渡航後二箇年ヲ經サル者

第十條 第八條第一號ニ掲ケタル者不在又ハ疾病ノ爲居留民會ニ出席スルコト能ハサルトキハ代人ニ依リ議決ニ加ハルコトヲ得

前項ノ代人ハ書面ニ依リ委任ヲ證スルコトヲ要ス

第十一條 法人、未成年者、女子、禁治產者及準禁治產者ハ代人ニ依ルノ外議決ニ加ハルコトヲ得ス但シ左ノ規定ニ從フヘシ

- 一 法人ハ其ノ法定代理人又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ヲ代人ト爲スコトヲ要ス
- 二 未成年者又ハ禁治產者ハ其ノ法定代理人ヲ代人ト爲スコトヲ要ス
- 三 妻ハ其ノ夫ヲ代人ト爲スコトヲ要ス
- 四 未婚ノ女子又ハ寡婦ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ヲ代人ト爲スコトヲ要ス
- 五 準禁治產者ハ其ノ保佐人ヲ代人ト爲スコトヲ要ス

前項ノ代人ハ書面ニ依リ其ノ代人タル資格ヲ證スルコトヲ要ス

第十二條 未成年者、女子、禁治產者、準禁治產者及第九條ニ掲ケタル者ハ代人ト爲ルコトヲ得ス

第十三條 居留民會議員ハ名譽職トス

第十四條 行政委員會ハ第八條ノ規定ニ依リ居留民會議員タルヘキ者ヲ調査シ毎年一回議員名簿ヲ調製シタル上之ヲ各議員ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第十五條 居留民會議員名簿ハ之ヲ居留民團事務所ニ備付五日ヲ下ラサル期間關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ領事ニ申立テ決定ヲ求ムルコトヲ得其ノ決定ニ

不服アル者ハ直接上級監督官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

議員名簿ハ居留民會通常會開會前十日ヲ以テ確定シ確定ノ時ヨリ一箇年間之ヲ据置クヘレ但レ前項ノ決定確定シタル場合ニ於テ其ノ決定カ名簿ト一致セサルトキハ名簿ヲ修正スヘシ

第十六條 居留民會議員名簿ニ登録セラレタル者ニシテ議員タル資格ヲ有セス又ハ之ヲ有セザルニ至リタルトキハ行政委員會ハ之ヲ其ノ本人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル者行政委員會ノ處分ニ不服アルトキハ領事ニ申立テ決定ヲ求ムルコトヲ得其ノ決定ニ不服アル者ハ直接上級監督官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ依リ議員タル資格ヲ有セザルコト確定シタルトキハ行政委員會ニ於テ名簿ヲ修正スヘシ

第十七條 居留民會ノ議決ヲ經ヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 居留民團條例ヲ定ムルコト
- 二 歳入出豫算ヲ定ムルコト及決算報告ヲ認定スルコト
- 三 居留民團ノ課金、使用料、手数料及加入金ノ賦課徴收ニ關スルコト
- 四 不動産ニ關シ權利ノ得喪ヲ目的トスル行為ヲ爲スコト
- 五 基本財産ノ設置、管理及處分ニ關スルコト
- 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲スコト
- 七 財産及營造物ノ管理及處分ノ方法ヲ定ムルコト
- 八 居留民團ニ係ル訴訟又ハ和解ニ關スルコト
- 九 教育ニ關スルコト殊ニ幼稚園、學校及圖書館ノ設立維持ニ關スルコト

十 消防及義勇隊ニ關スルコト

十一 貧民救助ニ關スルコト

十二 衛生ニ關スルコト殊ニ傳染病豫防及良水ノ供給、下水ノ排泄並市場、病院、墓地及火葬場等ニ關スルコト

十三 交通ニ關スルコト殊ニ道路、護岸等ノ維持、改修、街燈ノ設備並交通機關ニ關スルコト

十四 公園又ハ公衆ノ娯樂ニ供スヘキ設備ニ關スルコト

十五 其ノ他法令及條約ニ依リ居留民會ノ權限ニ屬スル事項

第十八條 居留民會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ行政委員會ニ委任スルコトヲ得

第十九條 居留民會ニ於テハ日本語ヲ用フ

居留民會ノ議事ハ之ヲ議事録ニ存スヘシ

第二十條 居留民會ハ居留民團ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第二十一條 居留民會ハ監督官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第二十二條 居留民會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ居留民會共ノ意見ヲ呈出セザルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タズシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 居留民會ハ帝國臣民タル議員中ヨリ議長ヲ選舉スヘシ議長ノ任期ハ翌年ノ居留民會

通常會ニ於テ議長ノ選舉アル迄トス

議長故障アルトキハ帝國臣民タル議員中ヨリ假議長ヲ選舉シ議長ノ職ヲ行ハレムヘシ

議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ維持ス

本規則ニ從ヒ始メテ居留民會組織セラレ議長ノ選舉アル迄ノ間又ハ本條第二項假議長ノ選舉ニ

當リテハ議長ノ職ハ假ニ出席議員中ノ年長者之ヲ行フ

第二十四條 居留民會ハ通常會及臨時會トシ領事之ヲ招集ス

通常會ハ毎年一回之ヲ開キ其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ハ領事必要ト認メタルトキ又ハ行政委員會若ハ居留民會議員五分ノ一以上ノ請求アリタルトキ之ヲ開キ其ノ會期ハ三日以内トス

居留民會ノ議事ニ付スヘキ事件ハ少クモ開會ノ一週間前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 居留民會ハ議員定數ノ三分ノ一以上出席シ又ハ代表セラルルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ通常會ニシテ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ仍三分ノ一ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 居留民會ノ議事ハ出席者ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十七條 居留民會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ領事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條 居留民會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シ庶務ヲ處理セシム

第二十九條 本章ニ規定スルモノノ外居留民會ニ關シ必要ナル規定ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 行政委員會及吏員

第三十條 居留民團ニ行政委員及豫備行政委員ヲ置ク

居留民會ハ毎年其ノ通常會ニ於テ議員中ヨリ行政委員及豫備行政委員ヲ選舉シ領事ノ認可ヲ受クヘシ

行政委員ハ過半數帝國臣民タルコトヲ要ス

行政委員ノ員數選舉及認可ニ關スル規定ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 行政委員ハ代人ヲ許サス但シ法人ハ其ノ代人ヲ指定シテ行政委員ニ選舉セラルルコトヲ得

第三十二條 左ニ掲ケタル者ハ行政委員タルコトヲ得ス

一 在職官吏

二 居留民團ノ有給吏員

三 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗ノ教師

四 學校教員

五 第十二條ニ列舉シタル者

第三十三條 行政委員確定シタルトキハ領事ハ直ニ之ヲ各行政委員ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

行政委員已ムヲ得サル事故アルトキハ領事ノ許可ヲ得テ辭任スルコトヲ得

行政委員ハ重任スルコトヲ得

第三十四條 行政委員ハ行政委員會ヲ組織シ帝國臣民タル行政委員中ヨリ議長及議長代理者ヲ選舉スヘシ

議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ帝國臣民タル行政委員中ヨリ假議長ヲ選舉シ議長ノ職ヲ行ハシムヘシ

議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ維持ス

議長ハ行政委員會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

本規則ニ從ヒ始メテ行政委員會組織セラレ議長及議長代理者ノ選舉アル迄ノ間又ハ本條第二項  
假議長ノ選舉ニ當リテハ議長ノ職ハ假ニ出席委員中ノ年長者之ヲ行フ

第三十五條 行政委員會ノ議事ハ出席委員ノ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決  
スル所ニ依ル

行政委員ノ定足數ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 第十九條ノ規定ハ行政委員會ニ之ヲ準用ス

行政委員ニシテ日本語ヲ解セサル者アルトキハ領事ノ許可ヲ得テ通譯者ヲ用井ルコトヲ得

第三十七條 行政委員會ハ其ノ執務章程ヲ定メ領事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十八條 行政委員會ハ必要ニ應ヒ特別委員會ヲ設クルコトヲ得

特別委員會ノ組織、權限共、他必要ナル事項ハ行政委員會ニ於テ之ヲ定メ領事ノ認可ヲ受クヘ  
シ

第三十九條 行政委員中資格ノ喪失共、他ノ事由ニ依リ職員ヲ生シ領事ノ必要ト認ムル  
トキハ豫備行政委員中ヨリ之ヲ補フヘシ但シ補闕ノ順序ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ行政委員ノ選舉アリタル後領事ノ認可ヲ得サル者アルカ爲定數ノ行政委員ヲ得ル  
コト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

豫備行政委員ヲ以テ行政委員ノ補闕ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ居留民會臨時會ヲ開  
キ補闕選舉ヲ爲スヘシ

第四十條 行政委員ハ名譽職トス

第四十一條 行政委員會ハ居留民團ヲ代表シ且居留民團ノ事務ヲ處理ス

行政委員會ノ處理スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 居留民會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付共ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スルコト
- 二 財產及營造物ヲ管理スルコト
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト
- 四 證書及公文書類ヲ保管スルコト
- 五 居留民團ノ課金、使用料、手数料及加入金等ヲ賦課徵收スルコト
- 六 其ノ他法令及條約ニ依リ行政委員會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條 行政委員中一名ヲ會計主任トシ帝國臣民タル行政委員中ヨリ行政委員會ニ於テ之ヲ  
選舉ス

會計主任ハ居留民團ノ出納共、他會計事務及第四十四條ニ關スル團ノ出納共、他會計事務ヲ掌  
ル

第四十三條 居留民團ニ必要ノ吏員ヲ置キ行政委員會ニ附屬セシム

前項吏員ノ定數、任免職務、任期給與及懲戒ニ關スル事項ハ行政委員會ニ於テ之ヲ定メ領事ノ認  
可ヲ受クヘシ

第四十四條 行政委員會ハ法令、條約又ハ領事ノ委任ニ依リ居留民團ノ地區内ニ於ケル團ノ行政  
事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲必要ナル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外居留民團ノ負擔トス

第四十五條 行政委員會ハ居留民會共ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ領事ノ指揮ヲ請ヒ共

ノ議決ヲ經ヘキ事件ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次期ノ居留民會ニ之ヲ報告スヘシ

第四十六條 第二十條第四項、第二十一條乃至第三十二條及第四十條ノ規定ハ豫備行政委員ニ之ヲ準用ス

第四十七條 行政委員會ニ於ケル議長及會計主任ノ選舉、行政委員及豫備行政委員ノ離任其ノ他行政委員及豫備行政委員ニ關シ必要ナル規定ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 居留民團ノ財務

第四十八條 居留民團ハ不動産又ハ積立金等ヲ以テ一般又ハ特別ノ基本財産ト爲シ之ヲ維持スヘシ

領事ハ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財産ノ蓄積ヲ命スルコトヲ得

第四十九條 居留民團ハ必要ナル費用並立法令及條約ニ依ル費用ヲ負擔スヘシ

居留民團ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第五十條 居留民團ハ課金、使用料、手数料及加入金等ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第五十一條 國ノ用ニ供スル土地、家屋又ハ物件ニ對シテハ居留民團ハ國ニ課金ヲ賦課スルコトヲ得

第五十二條 居留民ノ一部ヲ利スル營造物ノ建設、維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシメ居留民團ノ地區ノ一部ヲ利スル營造物ノ建設、維持ノ費用ハ其ノ部内ニ於テ課金ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ營造物ノ收入アルトキハ先ツ其ノ費用ニ充ツヘシ

居留民ノ一部又ハ居留民團ノ地區ノ一部ニ對シテハ不均一ノ賦課ヲ爲

スコトヲ得

第五十三條 居留民團ノ地區内ニシテ帝國專管居留地以外ノ地方ニ住居スル帝國臣民又ハ該地方ニ事務所ヲ有スル帝國法人ニシテ外國ノ政府又ハ公共團體若ハ之ニ準スヘキモノニ課金ヲ納付スル者ニ對シテハ其ノ同種ノ居留民團課金又ハ其ノ他ノ負擔ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第五十四條 居留民團課金ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納入ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ行政委員會ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得使用料、手数料又ハ加入金等ノ徵收ニ關シ亦同シ

居留民團ノ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ行政委員會ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ行政委員會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ領事ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 居留民團ノ課金、使用料、手数料及加入金等ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ行政委員會ハ國稅ノ徵收ニ關スル規定ニ遵據シテ之ヲ處分スヘシ但シ該規定ニ據リ難キトキハ領事館令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

居留民團課金ノ賦課ヲ受ケタル者ノ中無實力者アルトキハ行政委員會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納入ノ延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ニル場合ニ於テハ居留民會ノ議決ニ依ル

第五十六條 居留民團ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ居留民團ノ永久ノ利益トナルヘキ事業ノ爲又ハ天災事變等已ムヲ得サル場合ニ限リ居留民會ノ議決ヲ經テ居留民團債ヲ起スコトヲ得



法ニ付議決ヲ經ヘシ其ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

居留民國ハ豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要アルトキハ居留民會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ借入金ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第五十七條 行政委員會ハ毎會計年度歲入出豫算ヲ圖製シ年度開始前ニ居留民會ノ議決ヲ經ヘシ居留民國ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第五十八條 行政委員會ハ居留民會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設ケヘシ豫備費ハ居留民會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十條 居留民國費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ居留民會ノ議決ヲ經テ各年度ノ支出額ヲ定メ續續費ト爲スコトヲ得

第六十一條 居留民國ハ條例ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第六十二條 豫算ハ居留民會ノ議決ヲ經タル後直ニ領事ノ認可ヲ受クヘシ既定豫算ノ追加又ハ更正ニ付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ領事ハ理由ヲ示シ更正シテ認可スルコトヲ得但シ不服アル居留民國ハ直接上級監督官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

本條領事ノ認可確定シタルトキハ行政委員會ハ豫算又ハ其ノ追加若ハ更正ヲ公告スヘシ

第六十三條 會計主任ハ行政委員會ノ命令ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第六十四條 居留民國ノ出納検査、出納閉鎖ノ期限、決算報告、豫算圖製ノ式其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

第五節 居留民國ノ監督  
第六十五條 監督官廳ハ居留民國ノ行政ヲ監督スル爲メ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳カ居留民國ノ行政ニ關シ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第六十六條 居留民國債ヲ起シ或起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルトキハ領事、公使及外務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ居留民國法第五條第一項但書ノ場合ニ於テハ公使ヲ經ルコトヲ要セス

第六十七條 左ニ掲ケタル事項ハ領事ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 居留民國條例ヲ定ムルコト
- 二 居留民國ノ課金、使用料、手数料及加入金等ヲ新設シ又ハ變更スルコト
- 三 第五十二條ニ依リ居留民ノ一部若ハ居留民國ノ地區ノ一部ニ費用ヲ負擔セシメ又ハ不均一ノ賦課ヲ爲スコト
- 四 第五十三條ニ依リ居留民國課金又ハ其ノ他ノ負擔ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコト
- 五 一時ノ借入金ヲ爲スコト
- 六 不動産ニ關シ權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
- 七 基本財産ノ處分ニ關スルコト
- 八 寄附又ハ補助ヲ爲スコト
- 九 豫備費ノ支出ヲ爲スコト

第六十八條 監督官廳ノ認可又ハ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ認可又ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ認可又ハ許可ヲ與フルコトヲ得

第六十九條 本規則ニ依リ異議ヲ申立テ又ハ監督官廳ノ決定ヲ求ムルハ別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除クノ外處分又ハ決定ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

附則

第七十條 居留民團設立ノ際其ノ地區内ニ居留スル帝國臣民ノ共同財産ニシテ慣例ニ依リ公共ノ目的ノ爲存スルモノハ之ヲ居留民團ノ財産ニ編入スルコトヲ得

居留民團設立ノ際其ノ地區内ニ居留スル帝國臣民ノ公共ノ目的ノ爲存スル從來ノ負債ハ之ヲ居留民團ノ負債ニ編入スルコトヲ得

本條ノ處分ノ爲必要ナル事項ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 本規則ニ依リ始メテ居留民會成立シ及行政委員就任スルニ至ル迄ノ間其ノ職務ハ領事ノ指命スル者ニ於テ一時之ヲ施行スヘシ

○内務省令第五號

漁業法第三條ニ依リ樺太ニ於テ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類左ノ如シ

明治四十年四月四日

内務大臣原敬

- 一 鯨、鯨、鮭ノ建網漁業
- 二 一定ノ引揚場ヲ有スル鯨、鮭ノ地曳網漁業

○内務省令第六號

本年一省令第一號官國幣社會計規則第五條左ノ通改正ス

明治四十年四月十二日

内務大臣原敬

第五條 社入金(用途指定費)一箇月三拾圓以上ナルトキハ左ノ割合ニヨリ毎月豫備資金ヲ積立ツヘシ但シ一箇月三拾圓以内ナルトキト雖モ適宜積立ヲ爲スコトヲ得

三十圓以上	百分ノ四	六百圓以上	百分ノ十七
五十圓以上	百分ノ六	八百圓以上	百分ノ十九
百圓以上	百分ノ十二	千圓以上	百分ノ二十二
二百圓以上	百分ノ十三	三千圓以上	百分ノ二十四
四百圓以上	百分ノ十五	五千圓以上	百分ノ二十六

○内務省令第七號

藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ノ三ニ依リ左記藥品ヲ指定ス

明治四十年四月十三日

内務大臣原敬

アンチピリン	鹽酸アポモルヒネ	杏仁水(苦扁桃水、パクテ水)
硝酸銀	硝酸銀加硝石	熔製硝酸銀
硫酸アトロピン	次サリチール酸茶鉛	泡水クロラール
クロ、フォルム	鹽酸コカイン	磷酸コデイン
キノ皮	綿馬越幾斯	ヒコス越幾斯
阿片越幾斯	大黃越幾斯	莫岩越幾斯
麥角越幾斯	番木甙越幾斯	還元鐵

明治四十年四月 省令 内務省第八號

○内務省令第八號

明治三十六年十一月十一日 内務省令第十二號神社寺院佛堂境内地使用取締規則第一條第二號中「三箇月」ヲ

チギタリス葉	フォルマリン	グアヤコール
炭酸グアヤコール	昇汞	赤色ヨード汞
甘汞	黄色酸化汞	赤色酸化汞
サリチール酸汞	ヨードフォルム	ヨードカリウム
クレオソート	炭酸クレオソート	亜硫酸カリウム液
メチールスルフォナール	鹽酸グアセチールモルヒネ	鹽酸モルヒネ
硫酸モルヒネ	巴豆油	サントニン錠
含糖ペプシン	フェナセチン	鹽酸ピロカルピン
サリチール酸フィソスチグミン	硫酸フィソスチグミン	ドーフル散
蘆香ヤラツバ丸	コロシントヒヨス丸	サントニン
吐根	レゾルチン	硝酸ストリキニーネ
麥角	吐酒石	カンタリス丁幾
スルフォナール	アセチールタンニン	吐根丁幾
キナ丁幾	チギタリス丁幾	阿片安息香丁幾
ヨード丁幾	阿片丁幾	香水錠丁幾
莨菪丁幾	ストロファンツス丁幾	
クロール亞鉛	硫酸亞鉛	

「二箇年」ニ改ム

明治四十年四月二十九日

内務大臣原敬

〔参照〕

内務省令第十二號神社寺院佛堂境内地使用取締規則(明治三十六年十一月二十日)抄録

第一條 神社寺院佛堂境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其神社寺院佛堂以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

二 參詣人休息所等其使用三箇月以内ニ止マルモノ

○大藏省令第十八號

明治三十九年十一月十一日 大藏省令第四十六號及同年十二月十二日 大藏省令第五十號ヲ以テ定メタル明治四十年煙

草耕作種類段別中左ノ通更正ス

明治四十年四月二日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

所屬地	種別	耕作段別
西茨城郡 東那珂村	遠野	七十町歩以内
西那珂村	葉	百町歩以内
西那珂村	同	二十三町歩以内
西那珂村	同	四町歩以内
西那珂村	同	九町歩以内
西那珂村	同	十三町歩以内
西那珂村	同	九十九町歩以内
西那珂村	同	四十一町歩以内
久慈郡 宮川村	同	四十三町歩以内
久慈郡 宮川村	同	二十五町歩以内
久慈郡 宮川村	同	三十八町歩以内
久慈郡 宮川村	同	四十町歩以内
久慈郡 宮川村	同	二十四町歩以内
久慈郡 宮川村	同	十五町歩以内
久慈郡 宮川村	同	百六町歩以内
久慈郡 宮川村	同	百三十二町歩以内
久慈郡 宮川村	同	十八町歩以内
久慈郡 宮川村	同	十六町歩以内

鹿兒島縣 伊敷村	鹿兒島縣 川邊村	鹿兒島縣 川邊村	鹿兒島縣 川邊村	鹿兒島縣 川邊村
五百町歩以内	八十町歩以内	二百五十町歩以内	二百五十町歩以内	二百六十町歩以内
肝屬郡 高山村	沖繩縣 中頭郡 島尻郡	同	同	同
十町歩以内	六町歩以内	二町歩以内	十三町歩以内	同

○陸軍省令第六號

明治三十六年陸軍省令第三號陸地測量部修技所生徒募集規則中左ノ通改正ス

明治四十年四月二日

陸軍大臣寺內正毅

第二條第一號中「二十八年」ヲ「三十一年」ニ改ム

第三條 試驗科目左ノ如シ

- 一 作文 漢字交リ文及書簡文
- 二 地理 內國及外國(中學程度)
- 三 數學 算術(開立)(代數)(比例)(幾何)(平面全體)
- 四 物理 全體(中學程度)
- 五 圖畫 鉛筆畫

第五條中「五月十五日」ヲ「八月十五日」ニ改ム

第七條中「七月盡日」ヲ「十月十日」ニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第三號陸地測量部修技所生徒募集規則(明治三十六年三月十三日)抄録

第二條 生徒ハ前條ノ告示アリタル年ニ現役滿期トナルヘキ各兵科下士ニシテ左ノ各級ニ相當スル者ヲ之ヲ採用ス

一 年齡二十八年以下(年滿二十一年一月一日以前ヲ指ス)

第三條 試驗科目左ノ如シ

- 作文 漢字交リ文
- 地理 內國及外國 中學程度
- 歴史 同 上
- 數學 算術 代數 幾何 平面三角
- 物理 中學程度
- 圖畫 自在畫

第五條 第一條ノ告示アリタルトキハ聯隊長ニテハ聯隊長ニテハ志願者ヲ取調ヘ名簿ニ兵數及考科表寫テ通ヘ順序ヲ經テ師團長ニ差出シ師團長ハ五月十五日迄ニ之ヲ參謀總長ニ進達ス

第七條 聯隊長ハ試驗當日問題ヲ開封シ試驗ヲ行ヒ試驗書類ヲ師團長ニ差出シ師團長ハ七月盡日迄ニ之ヲ參謀總長ニ進達ス

○陸軍省令第七號

明治三十五年陸軍省令第四號(不動産登記囑託官吏指定ノ件)中左ノ通改正シ本日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

臨時陸軍建築部長ヲ臨時陸軍建築部本部長並同支部長ニ改メ「築城部本部長並同支部長」ノ下ニ「要塞司令部及對馬警備隊司令部工兵科將校ヲ加ヘ兵器支廠長及臺灣陸軍補給廠長並同支廠長ヲ削ル

○海軍省令第四號

海軍豫備員條例施行細則第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

明治四十年四月四日

海軍大臣齋藤實

第八條ノ二 前條ノ志願者ノ履歷書(第二様式)ニハ必各自ノ卒業セル當該學校長ノ與書ヲ要ス  
當該學校長ハ右志願者ノ請求ニ依リ其ノ履歷ヲ證明スル爲奥書スヘシ

○司法省令第十號

長崎地方裁判所管内平戸區裁判所志々伎出張所ヲ肥前國北松浦郡津吉村ニ移シ津吉出張所ト改稱ス  
本令ハ明治四十年四月二十二日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月十三日

司法大臣松田正久

○司法省令第十一號

登記管轄區域表中左ノ通追加ス

明治四十年四月十七日

司法大臣松田正久

大阪地方裁判所ノ部大阪區裁判所九條出張所ノ管轄權中「天保町」ノ次ニ「一條通一丁目」「二條通一丁目」「三條通一丁目」「四條通一丁目」「五條通一丁目」「六條通一丁目」「七條通一丁目」「八條通一丁目」「九條通一丁目」「十條通一丁目」「十一條通一丁目」「十二條通一丁目」「十三條通一丁目」「十四條通一丁目」「十五條通一丁目」「十六條通一丁目」「十七條通一丁目」「十八條通一丁目」「十九條通一丁目」「二十條通一丁目」及「出崎町」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第十二號

鳥取地方裁判所管内鳥取區裁判所中河原出張所管轄權因播磨國岩美郡宇倍野村大字麻生、高岡、赤谷、谷、神垣、廣西、玉鉾、岡益、清水、山根ニ屬スル商業登記ノ事務ハ鳥取區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月二十二日

司法大臣松田正久

○文部省令第八號

明治三十八年文部省令第十五號東京高等工業學校規程附則中但書ヲ削除ス

明治四十年四月九日

文部大臣牧野伸顯

〔参照〕

文部省令第十五號東京高等工業學校規程(明治三十八年九月二十七日)抄録  
附則 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ建築科ハ舊分之ヲ缺ク

○文部省令第九號

明治三十八年文部省令第九號名古屋高等工業學校規程中左ノ通改正ス

明治四十年四月九日

文部大臣牧野伸顯

第三條ヲ左ノ如ク改ム

名古屋高等工業學校各學科ノ學科目及共ノ程度ハ左ノ如シ

但シ必要ノ場合ニハ教授定時間外又ハ休業中ニ於テ隨時講演ヲ聽カレメ又ハ練習ヲ課スルコトアルヘシ

土木科

學科目	第一學年教授時數			第二學年教授時數			第三學年教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇
英語	六〇	六〇	四〇	四五	四五	三〇	四五	四五	三〇
數學	七五	七五	五〇	六〇	六〇	二〇			
物理學	四五	四五	三〇	三〇	三〇	二〇			
化學	三〇	三〇	二〇			四〇			
應用力學		三〇	四〇	六〇	六〇	四〇			
幾何	九〇	六〇							
幾何	九〇	六〇							
工作法	三〇	三〇	二〇	一五	一五	一〇			
發動機				六〇	六〇	四〇	六〇	六〇	二〇
電氣工學				三〇	三〇	二〇			
河海工學						三〇	四五	四五	二〇
衛生工學						三〇	四五	三〇	二〇
道路鐵道				三〇	三〇	三〇	四五	三〇	
橋梁					四五	三〇	四五		
石工學					四五	二〇			
家屋構造					三〇				
應用機械學							四五	四五	三〇
建築材料	三〇	三〇							
幾何	九〇	六〇							
應用力學		三〇	四〇	六〇	六〇	四〇			
幾何	九〇	六〇							
建築材料	三〇	三〇							
應用機械學							四五	四五	三〇
家屋構造					三〇				
石工學					四五	二〇			
橋梁					四五	三〇	四五		
道路鐵道				三〇	三〇	三〇	四五	三〇	
衛生工學						三〇	四五	三〇	二〇
河海工學						三〇	四五	四五	二〇

機械科

學科目	第一學年教授時數			第二學年教授時數			第三學年教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
地質學	三〇								
測量	三〇	四五	三〇	四五					
製圖及實習	一五〇	一六五	一五〇	一九五	一九五	一六〇	三〇〇	三七五	三〇〇
體操	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇			
計	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇

學科目	第一學年教授時數			第二學年教授時數			第三學年教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇
英語	六〇	六〇	四〇	四五	四五	三〇	四五	四五	三〇
數學	七五	七五	五〇	六〇	六〇	二〇			
物理學	四五	四五	三〇	三〇	三〇	二〇			
化學	三〇	三〇	二〇			四〇			
應用力學		三〇	四〇	六〇	六〇	四〇			
幾何	九〇	六〇							
幾何	九〇	六〇							
工作法	三〇	三〇	二〇	一五	一五	一〇			
發動機				六〇	六〇	四〇	六〇	六〇	二〇
電氣工學				三〇	三〇	二〇			

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
土產工藝									
特別講義									
製圖及實習	二一〇	二一〇	一六〇	二四〇	二四〇	二〇〇	三七五	三七五	二七〇
繪圖	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇	三五	三五	五〇
計	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇

建築科

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
家庭構造	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇
建築材料	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇
幾何	九〇	九〇	四〇	一五	一五	一〇			
自在畫	六〇	六〇	四〇	六〇	六〇	四〇	四五	四五	
應用力學				七五	四五	三〇			
化學	三〇	三〇	二〇						
物理學	四五	四五	三〇	三〇	三〇	二〇			
數學	七五	七五	五〇						
英語	六〇	六〇	四〇	四五	四五	三〇	四五	四五	三〇
繪圖	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇
計	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
設計法							三〇	三〇	二〇
建築史							三〇	三〇	二〇
衛生建築							三〇	三〇	二〇
施工法							四五	四五	三〇
裝飾法							三〇	三〇	二〇
測量				一五	一五	一〇			
製圖及實習	二一〇	二一〇	一六〇	二四〇	二四〇	二〇〇	三四五	三四五	二四〇
繪圖	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇	三五	三五	五〇
計	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇

機械科

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇
英語	六〇	六〇	四〇	四五	四五	三〇	四五	四五	三〇
數學	七五	七五	五〇						
物理學	四五	四五	三〇	三〇	三〇	二〇			
化學	六〇	六〇	四〇						
製造化學				三〇	三〇	二〇			
計	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇

學科	第一學年秋授時數			第二學年秋授時數			第三學年秋授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
應用機械學	二二〇	九〇	四〇	六〇	六〇	四〇	三〇	三〇	三〇
織物原料及計算	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇			
色染				一五	一五	一〇			
織機	三〇	三〇	二〇	六〇	六〇	四〇	六〇	六〇	二〇
染織物整理							三〇	三〇	
紡績				七五	七五	五〇	三〇	三〇	一〇
機械製圖				七五	七五	五〇	七五	七五	五〇
實習	一三五	一六五	一三〇	一六五	一八〇	一二〇	三〇〇	三〇〇	二七〇
體操	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇			
計	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇

色染科

學科	第一學年秋授時數			第二學年秋授時數			第三學年秋授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇	一五	一五	一〇
英語	六〇	六〇	四〇	四五	四五	三〇	四五	四五	三〇
數學	三〇	三〇	二〇						
物理學	四五	四五	三〇	三〇	三〇	二〇			
計	四五	四五	三〇	三〇	三〇	二〇			

學科	第一學年秋授時數			第二學年秋授時數			第三學年秋授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
化學	四五	四五	三〇						
製造化學				三〇	三〇	二〇			
應用機械學				四五	四五	三〇	三〇	三〇	三〇
圖畫	一二〇	九〇	四〇	四五	四五	三〇	三〇	三〇	三〇
織物原料	三〇	三〇							
色染				三〇	三〇	二〇	四五	四五	二〇
織機	一五	一五	一〇						
染織物整理							三〇	三〇	
化學分析	四五	四五	三〇	七五	七五	五〇	一三五	一三五	九〇
機械製圖				七五	七五	五〇	一三五	一三五	九〇
實習	一五〇	一五〇	一四〇	一六五	一六五	一〇〇	二八五	二八五	二四〇
體操	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	二〇			
計	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇	五八五	五八五	三九〇

各學科目ノ每週教授時數ハ學校長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○文部省令第十號

官立醫學專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ

明治四十年四月 省令 文部省第十號 官立醫學專門學校規程







裁判化學	生藥學		藥局方		調劑學	製藥化學		藥品鑑定	體操	計
	實	理	日本藥局方	外國藥局方要領		實	理			
三	三	二	一	一	一	二	五	一	三	二八
										三三
										三六

備考 各學科第二學年以上ニ於ケル倫理ハ特ニ每週教授時數ヲ定メス適切ノ時期ニ於テ因時之ヲ課スルモノトス  
 教授上各學年ヲ數學期ニ分ツ必要アルトキハ學校長ハ前項ノ每週教授時數ノ範圍内ニ於テ適宜  
 ニ各學期ノ每週教授時數ヲ定ムルコトヲ得  
 學校長ハ臨時必要ト認メタル場合ニ於テハ第一項ノ每週教授時數ヲ増減シ若ハ科外講義ヲ開ク  
 コトヲ得

第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科目ニ就キ更ニ研究セントスル者アルトキハ學校長ハ必要ト認メ

タル場合ニ限リ二箇年以内該學校ニ於テ研究ニ從事スルコトヲ許可スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年九月十一日ヨリ施行ス

○文部省令第十一號

中央氣象臺附屬測候所職員及在清國帝國領事館附中央氣象臺技手月手當給與細則ヲ定ムルコト左  
 ノ如シ

明治四十年四月十一日

文部大臣牧野伸顯

中央氣象臺附屬測候所職員及在清國帝國領事館附中央氣象臺技手月手當給與細則

第一條 月手當ハ任地到著ノ翌日ヨリ之ヲ給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレタル者ノ  
 手當ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

轉任轉勤ヲ命セラレタル者ノ月手當ハ舊任地出發ノ前日迄之ヲ給ス但シ命令到達ノ日ヨリ出發  
 前日迄二十五日ヲ超過スルトキハ十五日間ヲ限リ之ヲ給ス

特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲文部大臣ノ許可ヲ得テ滞在スル者ノ月手當ハ前項  
 但書ノ期間ニ拘ラス其ノ命令ノ期間又ハ許可ヲ得タル期間仍之ヲ給ス

他ノ官廳へ轉任シタル者ノ月手當ハ事務引繼濟ノ當日迄之ヲ給ス

第二條 退官休職又ハ死亡ノトキハ當月分月手當ノ全額ヲ給ス  
 退官若ハ休職ヲ命セラレタル者事務引繼濟務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ翌月ニ沙リ公務ニ從事スル  
 トキハ其ノ翌月以降ノ月手當ハ日割ヲ以テ事務引繼濟務調理ノ當日迄之ヲ給ス

第三條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ除ムルトキ又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十

日ヲ除ニルトキハ月手當ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受ケル者ノ月手當ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 月手當ハ毎月俸給支給日ニ之ヲ給ス

新任、轉任、轉勤、退官、休職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ前項支給日ニ拘ラス月手當ヲ給ス

第五條 月手當ニ異動ヲ生シタルトキハ舊令ノ日ノ翌日ヨリ計算ス

第六條 月手當ノ日割計算方ハ其ノ月ノ現日數ニ依ルモノトス

附則

第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年文部省令第十五號及明治三十七年文部省令第十號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十一年六月十日 文部省令第十五號ハ中央氣象臺附屬測候所職員月手當給與規則、明治三十七年六月十日 文部省令第十號ハ中央氣象臺臨時測候技手月手當給與ニ關スル件ナリ

○文部省令第十二號

師範學校規程ヲ定ムルニト左ノ如シ

明治四十年四月十七日

文部大臣 牧野伸顯

師範學校規程

第一章 生徒教養ノ要旨

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

第二節 教授日數及式日

第三節 編制

第四節 教科用圖書

第五節 入學、退學及懲戒

第六節 學資

第七節 卒業後ノ服務

第三章 講習科

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第五章 設備

第六章 設置及廢止

第七章 補則

第八章 附則

師範學校規程

第一章 生徒教養ノ要旨

第一條 師範學校ニ於テハ師範教育令ノ旨趣ニ基キ特ニ左ノ事項ニ注意シテ其ノ生徒ヲ教養スヘシ

一 忠君愛國ノ志氣ニ富ムル教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ明ニシ國民タルノ志操ヲ振起セシメントシテ要ス

二 精神ヲ鍛鍊シ徳操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠

ヲ此ニ用ヒシメンコトヲ要ス

三 規律ヲ守リ秩序ヲ保チ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ起居言動ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

四 教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校令及小學校令施行規則ノ旨趣ニ副ハンコトヲ旨トスヘシ

五 教授ハ常ニ其ノ方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受ケル際教授ノ方法ヲ會得セシメンコトヲ務ムヘシ

六 學習ノ方法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生徒ヲシテ常ニ自ら學識ヲ進メ技藝ヲ研クノ習慣ヲ養ハシメンコトヲ務ムヘシ

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

第二條 本科ヲ分チテ第一部及第二部トス但シ第二部ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得

第三條 豫備科ハ本科第一部ニ入學セントスル者ニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第四條 豫備科ノ修業年限ハ一箇年トス

本科第一部ノ修業年限ハ四箇年トス

本科第二部ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ一箇年、女生徒ニ就キテハ二箇年又ハ一箇年トス

第五條 豫備科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、數學、習字、圖畫、音樂、體操トシ女生徒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

第六條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歷史、地理、數學、博物

物理及化學、法制及經濟、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ英語ハ隨意科目トス

前項學科目ノ外農業、商業ノ一科目又ハ二科目ヲ加フ其ノ二科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ生徒ニハ一科目ヲ學習セシムヘシ

第七條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項學科目ノ外隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得

第八條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨シ師表タルノ威儀ヲ具ヘシメ且小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識ヲ授ケ共ノ教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ指示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍、秩序ヲ整ヘテ自己家族、社會及國家ニ對スル義務ヲ知ラシメ倫理學ノ一斑及教授法ヲ授ケヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授ケヘシ

第九條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ詳ニシ教育ノ技能ヲ習得セシメ兼テ教育者タルノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

教育ハ心理及論理ノ大要ヨリ始メ教育ノ理論、教授法及保育法ノ概說、近世教育史ノ大要、教育制度、學校管理法、學校衛生ヲ授ケ又教育實習ヲ課スヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ便宜保育實習ヲ課スヘシ

第十條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表出スルノ能ヲ得シメ小學校

ニ於ケル國語教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ文學上ノ趣味ヲ養ヒ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十一條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解スルノ能ヲ得シメ知識ノ増進ニ資シ兼テ小學校ニ於ケル英語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

英語ハ發音、綴字、讀方、譯解、書取、會話、作文、習字及文法ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十二條 歴史ハ歷史上重要ナル事歴ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ且小學校ニ於ケル日本歴史教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ日本歴史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十三條 地理ハ地球ノ形狀、運動竝ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシメ且小學校ニ於ケル地理教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ世界地理ノ概略及日本地理竝ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑及人文地理ノ概説ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十四條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ且小學校ニ於ケル算術教授ノ方法ヲ會得

セシメ兼テ生活上必要ナル知識ヲ與ヘ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數及幾何ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授クヘシ

第十五條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、標本ノ採集、調製法竝ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十六條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則竝ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十七條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活上必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常生活ニ適切ナル法制上及經濟上ノ事項ヲ授クヘシ

第十八條 家事ハ家事整理ニ必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周濟、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、養老、育兒、看病、家計簿記其ノ他一家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

第十九條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル裁縫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方裁チ方及繕ヒ方等ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十條 習字ハ文字ヲ端正且敏捷ニ書寫スルノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル國語書キ方教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

習字ハ姿勢及執筆ヲ正シ運筆ノ方法ヲ授ケ楷書、行書ヲ主トシ草書及假名ニ及ホシ兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル圖畫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及寫景畫ヲ加ヘ授ケ黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ又幾何畫ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十二條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル物品ヲ製作スルノ技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル手工教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ工作ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ天然物ノ模造、日用器具ノ製作等諸種ノ細工ヲ授ケ又材料ノ性質、工具ノ保存法等ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十三條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル唱歌教授ノ方法ヲ會得セシメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌、複音唱歌及樂器使用法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ機敏耐久ナラシメ又精神ヲ快活剛毅ナラシメ且小學校ニ於ケル體操ノ教授ニ必要ナル知識技能

ヲ得シメ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ男生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲、兵式體操トシ且教授法ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲トシ且教授法ヲ授クヘシ

第二十五條 農業ハ農業ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル農業教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ農業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

農業ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、森林、養蠶、養畜、農産製造、農業經濟等ニ關スル事項ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

土地ノ情況ニ依リ水産ニ關スル事項ヲ加ヘ授クヘシ

第二十六條 商業ハ商業ニ關スル知識ヲ得シメ且小學校ニ於ケル商業教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

商業ハ商事要項、商業簿記、商業算術、商業地理及其ノ地方ニ於ケル重要ナル商品ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十七條 豫備科及本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ乙號表ニ依ルヘシ但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

甲號表

學科及學年	學科	部			
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	二	一	一

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	合計
教 育	一〇	六	四	三	三三
國語及漢文	六	四	三	二	一五
英 語	三	三	三	二	一三
歷 史	二	二	二	二	八
地 理	二	二	二	二	八
數 學	六	四	三	二	一五
博 物	三	二	一	二	八
物理及化學	二	二	三	四	一三
法制及經濟	三	一	一	二	七
習 字	三	二	一	一	七
國 畫	二	三	三	三	一三
手 工	二	三	三	三	一三
音 樂	二	二	二	一	七
體 操	六	五	五	三	一九
農業又は商業	三	二	二	二	九
計	三二	三四	三四	三四	一三四

乙號表

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	合計
修 身	二	一	一	二	六
教 育	九	二	四	二	一七
國語及漢文	五	二	二	二	一三
歷 史	二	二	二	二	八
地 理	二	二	二	二	八
數 學	五	三	二	二	一二
博 物	二	二	一	二	七
物理及化學	二	二	二	四	一〇
家 事	四	四	二	二	一二
裁 縫	三	一	四	三	一一
習 字	三	一	一	二	七
國 畫	二	三	三	二	一〇
手 工	二	三	三	二	一〇
音 樂	二	二	二	一	七
體 操	四	三	三	二	一二
英 語	三	三	三	二	一三
計	三二	三四	三四	三四	一三四



計 三二 三一 (三四) 三一 (三四) 三一 (三四) 三二 (三四)

第二十八條 本科第二部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、手工、音樂、體操トス

法制及經濟ハ中學校ニ於テ學習シタル生徒ニハ之ヲ缺クコトヲ得

第二十九條 本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ修業年限ヲ二箇年ト爲シタル場合ニ於テハ歴史、地理ヲ加フ又隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得

第三十條 修身ハ第八條ニ準シ道徳ノ要領ヲ教示シ又小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識並ニ作法ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授ケヘシ

第三十一條 教育ハ第九條ニ準シ且修業年限一箇年ノ學科ヲ修ムル生徒ニ就キテハ歴史、地理ノ教授法ヲ授ケヘシ

第三十二條 國語及漢文ハ第十條ニ準シ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ又言語ノ使用ニ練習セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第三十三條 歴史、地理ハ第十二條及第十三條ニ準シ既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第三十四條 數學ハ第十四條ニ準シ算術ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ便宜代數、幾何ヲ授ケヘシ

第三十五條 博物ハ第十五條ニ準シ主トシテ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ標本ノ採集、調製法ヲ授ケ又既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第三十六條 物理及化學ハ第十六條ニ準シ主トシテ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ又既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第三十七條 裁縫ハ第十九條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第三十八條 圖畫ハ第二十一條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ又黑板上ニ於ケル練習ヲ爲シシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第三十九條 英語、法制及經濟、手工、音樂、體操ハ第十一條、第十七條、第二十二條乃至第二十四條ニ準シ之ヲ授ケヘシ

第四十條 本科第二部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ修業年限ニ依リ乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ

但シ學校長ハ第二十七條但書ニ準シ之ヲ變更スルコトヲ得

甲號表

學科目	第一學年		第二學年	
	時數	備註	時數	備註
修身	二		二	
國語及漢文	二		二	
教育實習	八	七	一	五
裁縫	二		二	
圖畫	二		二	
手工	二		二	
音樂	二		二	
體操	二		二	
計	三		三	

乙號表

學科目	學年		學年	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
修身	一	二	三	三
國語及漢文	四	三	三	三
歷史	二	三	二	二
地理	二	三	二	一
數學	四	三	三	三
博物	二	三	三	三
物理及化學	二	三	三	三
計	三	三	三	三

丙號表

學科目	學年		學年	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
修身	二	二	二	二
國語及漢文	三	三	三	三
數學	三	三	二	三
博物	三	三	三	三
物理及化學	三	三	三	三
計	三	三	三	三

第二節 教授日數及式日

第四十一條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第四十二條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ共ノ他非常變災アルトキハ地方長官ニ於テ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第四十三條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三節 編制

第四十四條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒數ハ凡四十人以下トス

第四十五條 修身、裁縫、音樂、體操ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

英語、法制及經濟、農業、商業ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ前條第二項ノ制限ヲ超ニサル場合ニ限り同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四十六條 教員ノ數ハ四學級ノ學校ニ於テハ十一人以上トシ四學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ女生徒ノミヲ置キタル學校ニ於テハ本文ニ依ル員數ヨリ一人ヲ減ス

農業、商業ノ二科目ヲ加フル學校ニ於テハ本科第一部男生徒ノ學級數十二以下ナルトキハ教員一人、十三以上ナルトキハ同一人ノ割合ヲ以テ前項ノ員數ヲ増スヘシ

第四節 教科用圖書

第四十七條 豫備科及本科ノ教科用圖書ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ其ノ意見ヲ文部大臣ニ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ學校長ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第五節 入學、退學及懲戒

第四十八條 豫備科及本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、品行方正ニシテ第四十九條乃至第五十一條ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第四十九條 豫備科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十條 本科第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ豫備科ヲ修了シタル者又ハ修業年限三箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ年齡十五年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十一條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就キテハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、女生徒ニ就キテハ修業年限二箇年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十二條 生徒ニ缺員アルトキハ身體健全、品行方正ニシテ學力及年齡當該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得

第五十三條 入學志願者ノ檢定ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五十四條 必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ豫備科ヲ修了シタル者以外ノ入學者ニ對シテ四箇月以内ノ期間ニ於テ假入學ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五十五條 學校長ハ本科ヲ卒業シタル者ニ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十六條 學校長ニ於テ學力劣等若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ性質不良ニシテ教員タルニ不適當ト認メタル者ニハ退學ヲ命スヘシ

第五十七條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ己ムヲ得サル事由ニ因リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第六節 學費

第五十九條 公費生ノ員數、之ニ支給スヘキ學費及其ノ支給方法ハ地方長官之ヲ定ム

第六十條 懲戒ニ因リ放校ニ處セラレタル者及自己ノ便宜ニ因リ退學シタル者ニ對シテハ地方長官ハ公費生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學費、私費生ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

前項授業費ノ金額ハ年額三拾圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ

第七節 卒業後ノ服務

第六十一條 本科卒業者ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間其ノ道府縣ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ次條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ從事シ尙特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ他ノ道府縣、臺灣又ハ樺太ニ於テ就職スルコトヲ得

- 一 第一部公費男子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年
- 二 第一部公費女子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年
- 三 第一部私費卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年
- 四 第二部卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第六十二條 本科公費卒業者ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間共ノ道府縣ニ於テ地方長官ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス

- 一 第一部男子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年
- 二 第一部女子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年
- 三 第二部卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第六十三條 學資ノ支給額ニ差等ヲ設ケタル場合ニ於テ本科第一部公費卒業者ニシテ最多額ノ支給ヲ受ケサル者ニ就キテハ第六十一條ノ期間ヲ男子五箇年、女子三箇年トス

第六十四條 特別ノ事情アルトキハ前三條ノ期間内ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ木邦兒童ノ爲外國ニ於テ小學校令ノ旨趣ニ準シテ設立セル公立又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員ノ職ニ從事スルコトヲ得

前項ノ服務ハ第六十一條及第六十二條ノ服務ト同視ス

第六十五條 服務期間内ニ於テ教員養成ヲ目的トスル官立學校ニ入學セントスル者アルトキハ地方長官ハ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ學校ニ入學シタル場合ニ於テハ在學中第六十一條及第六十二條ノ義務ノ履行ヲ猶豫ス其ノ卒業シタル場合ニ於テ當該學校ニ關スル法令ノ規定ニ依リ卒業後服務義務ヲ有スルトキハ第六十一條及第六十二條ノ義務ハ之ヲ免除ス

第六十六條 本科卒業者ニシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡クスコト能ハサル事由ヲ生シタル者又ハ外國政府ノ招聘ニ應ジ教員ノ職ニ從事セントスル者アルトキハ地方長官ハ必要ト認ムル期間内ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

第六十七條 本科卒業者ニシテ服務期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ地方長官ハ公費卒業者ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學資、私費卒業者ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但レ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

- 一 正當ノ事由ナクシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡ササルトキ
- 二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ
- 三 小學校令ノ規定ニ依リ免許狀其ノ效力ヲ失ヒ又ハ免許狀廢棄ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四 前條前段ノ事由ニ因リ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ免除セラレタルトキ

第六十八條 前條授業費ノ金額ハ年額三拾圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ

第三章 講習科  
第六十九條 小學校教員講習科ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス

特別ノ必要アルトキハ尋常小學校教員ヲラントスル者ニ必要ナル講習ヲ爲ス爲小學校教員講習科ヲ設ケルコトヲ得

第七十條 尋常小學校准教員ヲラントスル者ノ爲設ケル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、品行方正ニシテ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ一箇年以上トス